

2019 聖隷横浜病院 年報 第13号

# 2019 年報

ANNUAL REPORT of  
SEIREI YOKOHAMA HOSPITAL



社会福祉法人 聖隷福祉事業団

聖隷横浜病院  
SEIREI YOKOHAMA HOSPITAL

「2019年度 聖隷横浜病院 年報」 第13号 2020年8月1日

〒240-8521 神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町125  
TEL : 045-715-3111 (代表) FAX : 045-715-3387  
URL : <http://www.seirei.or.jp/yokohama/>  
●発行者 林 泰広 ●編集責任 広報委員会

2019 年度聖隷横浜病院年報  
Seirei Yokohama Hospital

ANNUAL REPORT  
2019

【病院理念】

私たちは、隣人愛の精神のもと、  
安全で良質な医療を提供し、地域に貢献し続けます

# 目 次

2019年度年報発行にあたって	1	せいいい訪問看護ステーション横浜	73
2019年度事業報告	2	薬剤部	74
病院沿革	4	リハビリテーション課	75
現況	6	検査課	76
施設基準	7	栄養課	77
施設配置図	8	臨床工学室	78
病棟構成	9	事務部	79
主な器械備品	10	医師臨床研修委員会	80
組織図	11	医療ガス設備安全委員会	80
委員会・運営会議	12	衛生委員会	81
医師職員数内訳	13	栄養委員会	82
職員別・区分別職員数	13	広報委員会	82
病院統計	14	化学療法委員会	83
財務統計ハイライト	25	図書委員会	83
リウマチ・膠原病センター	26	緩和ケア委員会	84
脳血管センター（脳神経外科・脳血管内治療科）	28	感染対策委員会	85
消化器・内視鏡センター	30	クリニカルパス委員会	85
画像診断センター	31	救急委員会	86
医療安全管理室	32	血液浄化センター委員会	87
診療支援室	33	研修委員会	87
地域連携・患者支援センター	34	減免・無料低額診療委員会	88
呼吸器内科	35	購入委員会	88
消化器内科・肝胆膵内科	36	N S T委員会	89
内分泌・糖尿病内科	37	役割分担推進委員会	89
心臓血管センター内科	38	診療報酬適正化委員会	90
外科・消化器外科	40	接遇委員会	90
呼吸器外科	41	診療情報管理委員会	91
耳鼻咽喉科	42	個人情報管理委員会	91
乳腺科	43	安全運転委員会	92
整形外科	44	防災委員会	92
関節外科	45	薬事（治験）委員会	93
麻酔科・ペインクリニック科	46	褥瘡対策委員会	94
小児科	47	医療の質改善委員会	94
総合診療科	48	輸血療法委員会	95
ドック・健診科	49	臨床検査適正化委員会	95
眼科	50	倫理・臨床研究審査委員会	96
救急科	51	病院安全管理委員会	97
放射線診断科	52	セーフティマネージャー運営会議	97
病理診断科	54	外来運営会議	98
看護部	56	糖尿病療養運営会議	98
外来	60	ボランティア運営会議	99
画像診断・内視鏡センター看護室	61	リハビリテーション課運営会議	99
西1病棟	62	地域連携・患者支援センター運営会議	100
西2病棟	63	脳血管センター運営会議	100
西3病棟	64	病床管理センター運営会議	101
東2病棟	65	内視鏡センター運営会議	101
東3病棟	66	ドック・健診室運営会議	102
東4病棟	67	乳腺センター運営会議	102
急性期ケアユニット	68	リウマチ・膠原病センター運営会議	103
脳卒中ケアユニット	69	手術室運営委員会	103
血液浄化センター看護室	70	教育・症例検討・講演会実績・市民公開講座	104
手術室・中央材料室	71	学術実績	106
看護相談室	72	第17回 聖隷横浜病院 病院学会	118

# 2019年度年報発行にあたって

聖隷横浜病院 病院長 林 泰広

2019年度は、5月に平成から令和時代の幕開けとなりましたが、聖隷横浜病院でも重大な変化のあった1年でした。

重大な変化の一つ目は、7月、長年の念願でした新外来棟（A棟）がようやく完成したことです。A棟は地下1階、地上4階建てで、大規模災害時の医療機能継続を意図して免震構造を採用しました。外来棟とは言え、手術部門、救急部門、透析室、検査部門、健診部門、放射線診断部門、内視鏡室、カテーテル室、相談室など、病院にとって重要な機能部門を配置しました。旧外来棟と比較して、外来診察室の数は35室から53室に、手術室は4室から5室に、透析ベッドの数は18床から20床に増えました。広く清潔な診療スペースに新型の医療機器も導入し、日々患者の皆さん方に利用しやすい環境を提供しています。また、救急室の拡張とともに、画像診断エリア、内視鏡室、カテーテル室を近くに配置し、緊急時の迅速な対応による救命率向上を目指しています。なお、2019年度は全国で重大な自然災害が頻発しました。当院でも落雷や台風の影響で新築のA棟にも被害がありました。予想外な事態は起こりえます。事業継続計画のさらなる精緻化も含めて対策の検討を迫られたことを付言します。

二つ目は、年度途中での救急体制の変更があったことです。変更の引き金は主としてベテランの内科医師の中途退職が重なったことでした。マンパワー低下により内科医師による救急体制を毎日維持することは困難となりました。苦渋の選択でしたが2020年2月から横浜市の二次救急拠点病院Bを返上し、救急輪番病院として対応することになりました。脳血管疾患・心疾患・外傷に対する救急体制は従来と変わりませんが、利用してくださる患者の皆さま方へご不便、ご迷惑をおかけすることとなりました。

三つ目は、新型コロナウイルス感染（COVID-19）の世界的大流行です。中国武漢で発生した感染症が瞬く間に世界中へ拡大し、1月30日にWHOが「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言、3月にパンデミック宣言が出されました。我が国でも多くの方が罹患し多くの方が亡くなっています。現在に至るまで世界中の社会システムを揺るがし、大混乱が生じています。病院運営への影響は2020年度に入って顕かとなってきています。2019年度の段階では将来の変化へのプロローグに過ぎなかったかもしれません。

以上2019年度は、ハード面の刷新による診療環境の整備、人的ソフト面の変動に伴う救急体制の縮小、予期せぬ事態（感染症）による病院運営の変貌など、大きな波が一気に押し寄せてきた一年だったように感じます。

今後も病院理念（「隣人愛の精神のもと、安全で良質な医療を提供し、地域に貢献し続けます」）の達成を目指して病院運営を続けていく所存ですが、波瀾曲折も予想されます。

この年報を当院の成長の経過記録としてご覧いただければ幸いです。

# 2019年度事業報告

事務長 山本 功二

2019年度は、地元住民と職員の念願であった新外来棟が2019年7月に竣工し、安全で良質な医療を提供するための療養環境を整備することができた。2015年度から取り組みをスタートさせた4本柱「救急診療体制の再構築と強化」「高齢者医療（生活支援型医療）の充実」「将来を見据えた診療体制の再編」「地域連携部門の強化」の集大成の年と位置付け、事業運営の取り組みを行った。

また、地域包括ケア病棟9床の増床、緩和ケア病棟20床と回復期リハビリテーション病棟38床の新設許可に対し、開設に向けての必要人員を確保することができた。これにより、急性期、回復期、慢性期の医療に対応可能なケアミックス型病院の構築に向けての準備を整えることができた。

## 1. 救急診療体制の再構築と強化

“断らない”救急体制の維持を掲げ取り組んできたが、診療体制の変更に伴い、2020年2月に横浜市二次救急拠点病院Bから横浜市病院群輪番病院へと変更することとなった。一方で、心疾患、脳疾患、外傷疾患に対する体制を維持することができたことにより、年間5,357台（目標5,400台）を受入れることができた。

「脳卒中ケアユニット入院医療管理料」（6床）の稼働は順調であり、稼働・算定ともにほぼ100%であり、2018年8月の開設以来高稼働を維持している。

## 2. 高齢者医療（生活支援型医療）の充実

訪問看護事業は、件数増加に伴い増員を図り、更なるニーズの拡大に向け体制を整えた。病院併設型の訪問看護としての差別化を図るため、訪問リハビリテーションの積極的な介入を実施し、件数の増加を追い求めるだけでなく、提供するサービスの質向上にも力を注いだ。同一敷地内の居宅介護支援事業所との連携により算定を行ってきた「機能強化型訪問看護」は、2020年3月末日にて事業所が撤退し算定終了となった。

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の推進に力を入れ、横浜市と連携し市民公開講座を開催した。高齢者医療のみならず、もしものときにどのような医療を受けたいかを家族や大切な人と一緒に考える機会を持ってもらうための取り組みとして、メディアに取り上げられた。

## 3. 将来を見据えた診療体制の再編

脳神経外科において、もの忘れ外来を開設した。また、人工関節センターにおいて、多血小板血漿を用いた再生医療外来を開設した。外科系診療科の体制充実により年間手術件数1,610件（目標1,600件）を実施できた。2020年度に向けて、がんゲノム診断に関する遺伝子カウンセリング外来開設準備を行った。

## 4. 地域連携部門の強化

2019年7月 新外来棟開設と同時に患者支援センターの窓口を設置した。初診時の問診、予約入院患者の入院説明、検査説明、入院前面談や外来予約変更など、患者が診察や治療に専念できる環境を多職種が連携し支援する窓口として活動を開始した。

2018年度に引き続き、保土ヶ谷区内の一般財団法人育生会横浜病院に常勤医師2名を派遣した。当院で急性期治療を終えた患者の後方連携が強化され、また同病院からは急性期治療が必要な患者の紹介が増え、機能分化とともに連携が強化された。

＜医療の質向上＞ 2019年5月に日本医療機能評価機構更新審査の認定がされた。2020年1月に公益社団法人 日本診療放射線技師会「医療被ばく低減施設」の認定審査を受審した。

＜人材確保・育成＞ 2019年度初期臨床研修医の定員5名フルマッチであった。67床増床計画に向けての人員確保ができた。特定行為認定看護師は4名となった。

＜環境整備＞ 2019年7月に新外来棟が竣工、計画通り引っ越しを行い、稼働開始できた。既存棟の空きスペースを有効活用し、療養環境の整備とともに、職員アメニティーの向上を図った。

＜経営改善＞ 病床稼働率は年間平均で89.8%。2018年度比、入院診療単価は240円減、外来患者数は33名減、外来平均単価は250円増であった。健診収益は2018年度比で99.3%であった。訪問看護ステーションは2018年度に続いて黒字であった。

＜地域における公益的な取り組み＞

(ア) 健康講座を開催した。(心臓血管センター内科医師と看護師によるミニ講演会を毎週月・水曜日に院内で開催)

(イ) ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の市民公開講座を横浜市と連携し開催した。(市民および医療関係者を対象として開催)

(ウ) 認定NPO法人J.POSH主催「ジャパンマンモグラフィーサンデー」に参加した。(10月に開催し、33名が受診)

(エ) 高校生を対象とした看護体験を実施した。(22名の参加)

(オ) 中学生の職業体験を実施した。(医療職の1日体験を実施し5名が参加)

#### 【無料または低額診療事業】

低所得者に対し広く事業を実施し、国が定める基準10%に対して11.7%の実績であった。

#### 【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
入院患者数	285名	269名	94.4%	97.1%
入院単価	57,700円	55,769円	96.7%	99.6%
外来患者数	645名	557名	86.4%	94.4%
外来単価	14,600円	14,736円	100.9%	101.7%
サービス活動収益	90.8億円	81.9億円	90.2%	96.2%
サービス活動費用	99.1億円	94.0億円	95.0%	106.4%
職員数	642名	652名	101.6%	102.8%

# 病 院 沿 革

- 2003年（平成15年） 3月 国立横浜東病院から経営移譲を受け「社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷横浜病院」開院  
井澤豊春初代病院長 就任  
診療科：内科、外科、整形外科、泌尿器科、小児科、脳神経外科、  
産婦人科（2014年閉科）、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、麻酔科、  
精神科（2007年閉科）  
医療法開設許可病床 350床（一般病床300床・療養病床50床）  
稼働病床 一般病床150床（東2、東3、東4病棟）  
4月 稼働病床 一般病床200床（東3、東4、西2、西3病棟）  
8月 1.5T-MRI導入  
9月 内科を総合診療内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、  
腎臓・高血圧内科に専門分化  
12月 血液浄化センター開設
- 2004年（平成16年） 4月 医師臨床研修制度開始  
稼働病床 一般病床250床（西1病棟開棟）  
8月 看護師宿舎「フェリーチェせいれい」（地上4階、30部屋）新設  
10月 内分泌・糖尿病内科開設
- 2005年（平成17年） 1月 オーダリングシステム導入  
横浜市二次救急輪番病院参加
- 2006年（平成18年） 2月 64列マルチスライスCT装置導入  
6月 一般病棟入院基本料7：1取得  
8月 療養病床50床返還
- 2007年（平成19年） 4月 岩崎滋樹第二代病院長就任、井澤豊春名誉院長就任  
内視鏡センター開設  
7月 医師ジョブシェア制度導入  
9月 血液内科開設（2010年閉科）  
10月 耳センター開設
- 2008年（平成20年） 3月 院内保育施設「ひだまり保育園」開設  
4月 消化器外科開設  
7月 DPC制度導入  
呼吸器外科開設  
10月 脳血管内治療科（2012年閉科）  
周産期科開設（2010閉科）  
臨床検査科開設  
稼働病床 一般病床276床（東2病棟開棟）  
12月 日本医療機能評価機構「病院機能評価Ver.5.0」認定
- 2009年（平成21年） 7月 病理診断科開設  
5月 横浜市の要請により「新型インフルエンザ発熱外来」設置
- 2010年（平成22年） 4月 形成外科開設（2012年閉科）  
横浜市二次救急拠点病院事業参加（横浜市二次救急拠点病院B）

		横浜市脳血管疾患救急医療体制参加医療機関
		横浜市外傷（整形外科）救急医療体制参加医療機関
	10月	256スライスCT導入 稼働病床数 一般病床300床
2011年（平成23年）	11月	日本経済新聞社主催「2010年につけい子育て支援大賞」受賞
	5月	横浜市の要請により、東日本大震災被災地に医師、看護師派遣
	10月	神奈川県主催「第5回かながわ子ども・子育て支援大賞」受賞
	12月	病院ボランティア活動開始
2012年（平成24年）	2月	横浜市心疾患救急医療体制参加
	4月	脳卒中科（脳血管内治療科閉科） リハビリテーション科開設
2013年（平成25年）	3月	サポートドクター制度導入
	4月	NPO法人卒後臨床研修評価機構 認定病院
	12月	日本医療機能評価機構 病院機能評価 「一般病院2 機能種別別版評価項目 3rdG：ver.1.0」認定
2014年（平成26年）	6月	3.0T-MRI更新
	10月	せいの訪問看護ステーション横浜を聖隷横浜病院へ事業移管
2015年（平成27年）	1月	林泰広第三代病院長就任
	4月	形成外科、心臓血管センター内科開設
	5月	地域包括ケア病棟開設（東4病棟51床）
2016年（平成28年）	1月	リウマチ・膠原病センター 開設 脳血管センター 開設
	4月	画像・診断センター 開設 心臓血管外科開設 横浜市営バス「聖隷横浜病院循環」 運行開始
	6月	新外来棟建築工事 起工式
2017年（平成29年）	2月	NPO法人卒後臨床研修評価機構 認定病院
	4月	ドック・健診室 開設
	5月	電子カルテシステム 導入・稼働開始
	7月	ハイケアユニット（HCU）開設（8床）
2018年（平成30年）	4月	乳腺センター開設
	8月	脳卒中ケアユニット（SCU）開設（6床）
2019年（令和元年）	7月	A棟（新外来棟）外来診療開始
2020年（令和2年）	2月	横浜市病院群輪番病院へ変更

# 現 況

2020年4月1日現在

**開設者** 社会福祉法人 聖隷福祉事業団  
**病院名** 聖隷横浜病院  
**所在地** 〒240-8521  
神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町215  
TEL(045)715-3111  
FAX(045)715-3387

**開院日** 2003年3月1日

**理事長** 山本 敏博

**病院長** 林 泰広

**総看護部長** 内田 明子

**事務長** 山本 功二

**副院長** 郷地 英二

新美 浩

大内 基史

**院長補佐** 鈴木 祥生、芦田 和博

**病院事業** 無料低額診療施設事業

**病床数** 許可病床（300床：一般）、  
稼動病床（300床：一般、地域包括  
ケア病棟51床含む）

**常勤職員** 667名（2020年4月1日時点）

## 認定施設

保険医療機関  
労災保険指定医療機関  
結核指定医療機関  
生活保護法指定医療機関  
被爆者一般疾病指定医療機関  
更生医療指定医療機関  
育成医療指定医療機関  
母子保健法指定養育医療機関  
特定疾患治療取扱病院  
臨床研修病院（基幹型）  
公害医療指定医療機関  
救急告示病院  
小児慢性医療指定医療病院  
労災保険二次健診等給付医療機関  
D P C 対象病院

## 学会認定

日本内科学会認定医制度教育関連病院  
日本消化器病学会関連施設  
日本消化器学会認定施設  
日本消化器内視鏡学会指導施設  
日本消化管学会胃腸科指導施設  
日本胆道学会認定指導医制度指導施設  
日本大腸肛門病学会関連施設  
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設  
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設  
日本呼吸器内視鏡学会認定施設  
日本呼吸器学会関連施設  
日本糖尿病学会認定教育施設  
日本リウマチ学会教育施設認定施設

日本外科学会外科専門医制度修練施設  
日本脳神経血管内治療学会研修施設  
脳神経外科学会認定施設  
脳卒中学会認定施設  
一次脳卒中センター（PSC）認定施設  
日本整形外科学会専門医制度研修施設  
日本眼科学会専門医制度研修施設  
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設  
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関  
日本麻酔科学会麻酔科認定病院  
日本救急医学会救急科専門医指定施設  
日本病理学会研修認定施設B  
日本がん治療認定医機構認定研修施設  
特定施設非営利活動法人卒後臨床研修評価機構認定  
日本栄養療法推進協議会NST稼働施設認定  
日本静脈結腸栄養学会NST稼働施設認定  
マンモグラフィ検診施設画像認定施設  
日本認知症学会教育施設  
日本乳癌学会関連施設  
National Clinical Database  
日本病院総合診療医学認定施設  
日本診療放射線技師会医療被ばく低減施設認定

## 標榜科目

内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科、  
内分泌・糖尿病内科、循環器内科、小児科、  
外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、  
皮膚科、心臓血管外科、産婦人科、泌尿器科、  
眼科、耳鼻いんこう科、放射線診断科、  
ペインクリニック外科、救急科、リハビリテーション科、  
臨床検査科、病理診断科、形成外科、  
リウマチ科、麻酔科、乳腺外科（計27科）

## 診療科目

総合内科、腎臓・高血圧内科、呼吸器内科、消化  
器内科、内分泌・糖尿病内科、リウマチ・膠原病  
内科、心臓血管センター内科、脳神経外科、脳血  
管内治療科、外科、消化器外科、呼吸器外科、整  
形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、麻酔科、小児科、  
眼科、形成外科、皮膚科、放射線診断科、救急科、  
リハビリテーション科、臨床検査科、病理診断科、  
総合診療科、ドック・健診科、乳腺科（計28科）

## 救急医療

横浜市病院群輪番病院  
横浜市脳血管疾患救急医療体制参加医療機関  
横浜市外傷（整形外科）救急医療体制参加医療機関  
横浜市急性心疾患救急医療体制参加医療機関

## 災害医療

神奈川県災害協力病院

# 施設基準

2020年4月1日現在

## ○基本診療料

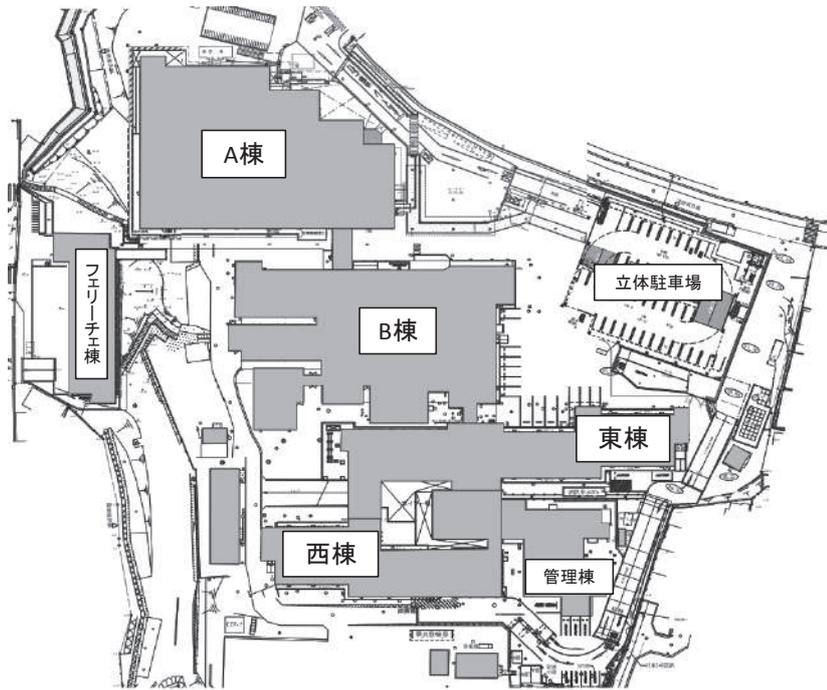
<b>入院基本料</b>	急性期一般入院料1
<b>入院基本料加算</b>	臨床研修病院入院診療加算（基幹型） 救急医療管理加算 超急性期脳卒中加算 診療録管理体制加算 1 医師事務作業補助体制加算 1 20対1 急性期看護補助体制加算 50対1 看護職員夜間12対1配置加算1 療養環境加算 重症者等療養環境特別加算 栄養サポートチーム加算 医療安全対策加算1 医療安全対策地域連携加算1 感染防止対策加算1 感染防止対策地域連携加算 感染防止対策加算_抗菌薬適正使用加算 褥瘡ハイリスク患者ケア加算 呼吸ケアチーム加算 後発医薬品使用体制加算1 病棟薬剤業務実施加算1 データ提出加算2 データ提出加算4 入退院支援加算1 入退院支援加算 入院時支援加算 認知症ケア加算2 せん妄ハイリスク患者ケア加算 地域医療体制確保加算
<b>特定入院料</b>	ハイケアユニット入院医療管理料1 脳卒中ケアユニット入院医療管理料 地域包括ケア病棟入院料2 地域包括ケア_注3 看護職員配置加算 地域包括ケア_注4 看護補助者配置加算

## ○特掲診療料

<b>食事療養</b>	入院時食事療養費（Ⅰ） 入院時生活療養費（Ⅰ）
<b>医学管理等</b>	高度難聴指導管理料 心臓ペースメーカー指導管理料 遠隔モニタリング加算 糖尿病合併症管理料 がん性疼痛緩和指導管理料 がん患者指導料イ、ロ、ハ、ニ 糖尿病透析予防指導管理料 小児科外来診察料 院内トリアージ実施料 夜間休日救急搬送医学管理料 救急搬送看護体制加算1 がん治療連携指導料 薬剤管理指導料 医療機器安全管理料1
<b>在宅医療</b>	在宅患者訪問看護・指導料 同一建物居住者訪問看護・指導料
<b>検査</b>	遺伝学的検査 BRCA1/2遺伝子検査

	検体検査管理加算（Ⅰ）・（Ⅱ） 遺伝カウンセリング加算 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 植込型心電図検査 時間内歩行試験 神経学的検査 補聴器適合検査 センチネルリンパ節生検（2単独法） CT透視下気管支鏡検査加算 画像診断管理加算（Ⅰ） 単純CT撮影（16列以上64列未満のマルチスライス型） 単純MRI撮影（1.5テスラ以上3テスラ未満） 冠動脈CT撮影加算 大腸CT撮影加算 心臓MRI撮影加算
<b>画像診断</b>	抗悪性腫瘍剤処方管理加算 外来化学療法加算1 無菌製剤処理料
<b>投薬</b>	脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ） 廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ） 運動器リハビリテーション料（Ⅰ） 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ） リハビリテーション初期加算 がん患者リハビリテーション料
<b>注射</b>	人工腎臓1・導入期加算1 人工腎臓_透析液水質確保加算・慢性維持透析濾過加算 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
<b>リハビリテーション</b>	組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る） 脊髄刺激装置植込術または脊髄刺激装置交換術 乳がんセンチネルリンパ節加算1・加算2 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後） 内視鏡による縫合術・閉塞術 経皮的冠動脈形成術 経皮的冠動脈ステント留置術 ペースメーカー移植術・ペースメーカー交換術 植込型心電図記録計移植術・植込型心電図記録計摘出術 大動脈バルーンパンピング法（IABP法） 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 医科点数表第2章第10部手術の通則5および6に掲げる手術 手術の通則の16に掲げる手術（胃瘻交換） 輸血管理料Ⅱ 輸血適正使用加算 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
<b>処置</b>	麻酔管理料（Ⅰ）・（Ⅱ） 病理診断管理料加算2 悪性腫瘍病理組織標本加算
<b>手術</b>	
<b>麻酔</b>	
<b>病理診断</b>	

# 施設配置図



4F	血液浄化センター 医局 臨床研修室 大会議室		東4病棟 地域包括ケア病棟		事務長室 総務課 経理課 総合企画室	
3F	外来 検査課 化学療法室 ドック・健診室 食堂		東3病棟	西3病棟		
2F	正面受付 外来 地域連携 ・患者支援センター 中央採血室	薬剤部 リハビリテーション課 医療情報管理課 売店	東2病棟	西2病棟	せいいい訪問看護 ステーション	
1F	救急室 画像診断センター 内視鏡センター	MRI・CT		西1病棟 急性期ケアユニット 脳卒中ケアユニット	ひだまり保育園	
B1F	手術室・中央材料室 病理診断科		栄養課	霊安室・解剖室	総看護部長室 看護管理室 医療の質管理室 臨床工学室 施設資材管理課	
	A棟	B棟	東棟	西棟	管理棟	フェリーチェ棟

# 病棟構成

建物	階	名称	病床数	主な診療科	入院料
東棟	4	東4病棟	51	総合診療科、内分泌・糖尿病内科	地域包括ケア病棟入院料2
	3	東3病棟	52	消化器内科、外科（消化器、一般）	急性期一般入院料
	2	東2病棟	53	呼吸器内科、呼吸器外科、眼科、乳腺科	急性期一般入院料
西棟	3	西3病棟	46	心臓血管センター内科、腎臓・高血圧内科 救急科	急性期一般入院料
	2	西2病棟	47	整形外科、耳鼻咽喉科、麻酔科 リウマチ・膠原病内科、内分泌・糖尿病内科	急性期一般入院料
	1	西1病棟 急性期ケアユニット 脳卒中ケアユニット	37 8 6	脳神経外科	急性期一般入院料 ハイケアユニット入院医療管理料1 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
合計			300		

## 主 な 器 械 備 品

機器名	数	メーカー名	機種名
MRI	2	フィリップス	Ingenia 3.0T、Ingenia Elition 3.0T
160列超高精細マルチスライスCT	1	キャノン	Aquilion Precision
256列マルチスライスCT	1	フィリップス	Brilliance iCT
64列マルチスライスCT	1	キャノン	Aquilion64
乳房X線装置	2	キャノン、シーメンス	PeruruDIGITAL、MAMMOMAT Revelation
FPDシステム	1	コニカ	AeroDR
X線TVシステム	2	島津、キャノン	SONIALVISION G4、Ultimax80
骨密度測定装置	1	日立	DCS-600EXV
血管撮影装置	2	フィリップス	AlluraClarity FD10、FD20/15
X線撮影装置	3	島津	RADSPEED PRO
移動式X線撮影装置	3	シーメンス、島津	MOBILETT XP Hybrid、Mobile Art Evolution
外科用X線撮影装置	2	シーメンス	SIREMOBILE Compact L、Cios Select
超音波診断装置	8	キャノン	Viamo、Xario、Aplio400、Aplio500
超音波診断装置	2	GE	LOGIQ BOOK XP、LOGIQ P9
生化学自動分析装置	2	ベックマン・コールター	AU5810、DxC700 AU
全自動尿中有形成成分分析装置	1	シスメックス	UF-1000i
多項目自動血球分析装置	1	シスメックス	XT-4000i
全自動血液凝固測定装置	1	シスメックス	CS-2100i
血液ガス分析装置	2	シーメンス	RAPIDPOINT500
自動染色装置	1	ロシュ	ベンタナ ベンチマークULTRA
脳波計	1	日本光電	NeurofaxEEG-1250
筋電図計	1	日本光電	Neuropack M1
心電計	7	日本光電、フクダ電子	ECG-2550、ECG-2450、FCP-7541
睡眠ポリグラフィ装置	1	日本光電	PSG-1100
血圧脈波検査装置	2	フクダコーリン	BP-203RPEⅢ
麻酔器	5	ドレーゲル	FabiusTiro、Apollo
外科手術用内視鏡システム	3	オリンパス	VISERA、VISERA ELITEⅡ
耳鼻咽喉科内視鏡システム	1	オリンパス	VISERA ビデオシステム
耳鼻咽喉科NBI内視鏡システム	1	オリンパス	VISERA ELITE ビデオシステム
消化器内視鏡システム	2	オリンパス	EVIS LUCERA ELITE ビデオシステム
消化器内視鏡システム	2	オリンパス	EVIS LUCERA SPECTRUM ビデオシステム
超音波手術システム	2	オリンパス	ソノサージ
超音波手術装置	1	エム・アンド・エム	SONOPET
手術用顕微鏡	3	カールツァイス、ライカ	OPMI PENTERO900、M844-F40、M525-OH4
炭酸ガスレーザー	1	モリタ製作所	レザウインⅡ
白内障手術装置	1	アルコン	インフィニティビジョンシステム
高周波手術装置	5	アムコ、メトロニック、オリンパス	VIO-300D、ICC-350、Valley lab FT10、ESG-400
マイクロ波手術装置	1	アルフレッサファーマ	マイクロターゼ AZM-550
高周波熱凝固装置	1	トーヨーメディック	ニューロサーモ
成人用人工呼吸器	6	ドレーゲル	Evita V300、Evita2dura
搬送用人工呼吸器	3	日本光電、ドレーゲル、スミスメディカル	HAMILTON-C1、Oxylog 3000プラス、パラバックプラス
臨床用ポリグラフ	2	日本光電	RMC-5000
人工腎臓(透析)装置	21	日機装、JMS	DCS-73、DCG-03、DBG-03、DBB-73、DBB-100NX、DCS-100NX、GC-110N
血液浄化装置	1	川澄化学	KM-9000
大動脈内バルーンポンプ	1	ゲティンゲ	CS300
3次元眼底像撮影装置	1	トプコン	3D OCT-2000
眼軸長測定装置	1	カールツァイス	IOLマスター700
低温プラズマ滅菌器	1	ジョンソン&ジョンソン	STERRAD100NX
無侵襲混合血酸素飽和度監視システム	2	メトロニック	INVOS 5100C
経皮の心肺補助装置	2	テルモ	キャピオックス遠心ポンプコントローラーSP-200
ナビゲーションシステム	1	メトロニック	ステルスステーションS7
術中神経モニタリング装置	1	日本光電	ニューロマスターG1

# 組織図

2020年4月1日現在

概要・統計



# 委員会・運営会議

2020年4月1日現在

委員会名称	開催日	構成人数 (人)				
		診療部	看護部 訪問看護	医療技術部	事務部	外部・顧問
管理会議	毎月 第1・3週火曜日	6	5	1	4	
診療部長会	毎月 第4週木曜日	24	1	1	4	
全体課長会	毎月 最終週月曜日	1	20	7	8	

## 《委員会》

医師臨床研修 ※医師卒後臨床研修管理	毎月 第2週水曜日	15	1	1	2	
医療ガス設備安全	年1回	1	1	2	2	
衛生	毎月 第1週水曜日	2	5	6	4	
栄養	年5回 第4週木曜日	1	1	3	1	
化学療法	毎月 第2週火曜日	6	5	3	1	
感染対策	毎月 第4週水曜日	6	3	8	3	
緩和ケア	毎月 第2週月曜日	2	5	3	1	
救急	毎月 第4週月曜日	10	6	4	3	1
クリニカルパス	毎月 第3週月曜日	1	4	7	3	
血液浄化センター	毎月 第1週火曜日	2	3	1	1	
研修	毎月 第3週火曜日		5	5	4	
減免・無料低額診療	随時 第2週火曜日		1		5	
購入	毎月 第4週木曜日		1	1	4	
広報	毎月 第2週金曜日	1	2	6	4	
RST(呼吸ケアサポートチーム)	毎月 第1週火曜日	3	2	6		
NST(栄養サポートチーム)	奇数月 第4週木曜日	2	3	7		
褥瘡対策	偶数月 第4週水曜日	2	4	3		
看護褥瘡予防委員会	毎月 第1週木曜日		12			
役割分担推進	毎月 第3週木曜日	2	3	6	3	
診療情報管理(個人情報管理)	毎月 第2週水曜日	2	2	3	5	
診療報酬適正化	毎月 第4週金曜日	2	1	3	3	
接遇	毎月 第2週木曜日	1	5	6	4	
図書	年4回 第3週水曜日	1	1		3	
病院安全管理(医療事故調査)	毎月 第3週水曜日	6	3	6	3	
医療機器安全管理	毎月 第3週水曜日	1	1	5		
防災・安全運転	奇数月 第1週火曜日	2	13	6	7	
薬事(治験)	偶数月 第3週火曜日	14	2	3	2	
輸血療法	奇数月 第4週金曜日	2	2	4	1	
臨床検査適正化	奇数月 第3週木曜日	2	1	3	1	
倫理・臨床研究審査	毎月 第3週火曜日	4	4	1	4	2
医療の質改善委員会	随時 第3週月曜日	1	3	2	2	

## 《運営会議》

外来	毎月 第1週水曜日	3	7	3	7	
手術室	毎月 第1週水曜日	10	2	4	1	
セーフティマネージャー	奇数月 最終週月曜日	1	職場長	職場長	職場長	
糖尿病療養	毎月 第1週金曜日	2	4	4		
ボランティア	奇数月 最終週月曜日		2		4	
リハビリテーション課	奇数月 第4週水曜日	4	3	6		
ドック・健診室	年4回 第4週水曜日	1	2	2	2	
地域連携・患者支援センター	毎月 第3週木曜日	6	3	1	6	
病床管理センター	毎月 第3週水曜日	1	4		5	
内視鏡センター	偶数月 第1週金曜日	4	2	2		
脳血管センター	毎月 第3週水曜日	3	4	4	3	
リウマチ・膠原病センター	毎月 第1週火曜日	3	2	3	5	
乳腺センター	毎月 第4週火曜日	2	2	2	5	
画像診断センター	偶数月 第3週火曜日	2	2	2		
訪問看護ステーション運営会議	毎月 第1週火曜日	4	3	1	2	

## 《プロジェクト》

緩和ケア病棟開設	随時	1	3	1	2	
回復期リハ病棟開設	随時	1	2	4	3	
情報システム	毎月 第2週月曜日	1	3	6	4	

# 医師職員数内訳

2019年4月1日現在 単位：人

診療科等	常勤医師	非常勤医師	合計
院長	1	0.00	1.00
総合内科	1	0.40	1.40
消化器内科	5	0.10	5.10
肝胆膵内科	1	0.00	1.00
内分泌・糖尿病内科	2	0.60	2.60
呼吸器内科	1	1.10	2.10
腎臓・高血圧内科	3	0.60	3.60
救急科	1	1.10	2.10
脳血管センター	0	0.00	0.00
脳神経外科	4	0.60	4.60
脳血管内治療科	1	0.00	1.00
小児科	1	0.25	1.25
外科（消化器外科）	6	0.00	6.00
乳腺センター	1	0.00	1.00
乳腺科	1	0.00	1.00
整形外科	3	0.80	3.80
関節外科	1	0.00	1.00
呼吸器外科	2	0.80	2.80
皮膚科	0	0.90	0.90
泌尿器科	0	0.65	0.65
眼科	3	0.40	3.40
耳鼻咽喉科	3	0.85	3.85
麻酔科	4	4.20	8.20
放射線診断科	2	0.65	2.65
病理診断科	1	0.00	1.00
形成外科	0	0.40	0.40
心臓血管センター内科	9	0.35	9.35
心臓血管センター外科	0	0.20	0.20
リウマチ・膠原病内科	2	0.20	2.20
総合診療科・ドック健診科	1	0.00	1.00
初期研修医	10	0.00	10.00
リハビリテーション科	0	0.10	0.10
合計	70	15.25	85.25

# 職員別・区分別職員数

2019年4月1日現在 単位：人

部門名	職名	区分				合計
		正職員	地区限定	エルダー職	パート・非常勤	
診療部	医師	60	0	0	81	141
	初期研修医	10	0	0	0	10
看護部	助産師	0	1	0	1	2
	看護師	271	16	0	20	307
	准看護師	2	0	0	0	2
	看護助手	0	23	4	18	45
	視能訓練士	2	0	0	0	2
	救急救命士	7	1	0	0	8
	事務職	1	5	0	2	8
医療技術部	薬剤師	25	0	0	0	25
	薬剤事務	0	1	0	0	1
	臨床検査技師	19	3	0	2	24
	検査事務	0	1	0	0	1
	診療放射線技師	19	0	0	0	19
	放射線事務	0	1	0	2	3
	理学療法士	19	0	0	0	19
	作業療法士	9	0	0	0	9
	言語聴覚士	3	0	0	0	3
	臨床工学技士	21	0	0	0	21
	管理栄養士	9	1	0	0	10
	調理師	2	2	0	0	4
	調理助手	0	0	0	4	4
事務部	看護師	3	0	0	0	3
	事務職	30	35	0	5	70
	施設員	4	0	1	0	5
	医療相談員	7	2	0	0	9
訪問看護	看護師	9	0	0	6	15
	理学療法士	0	0	0	1	1
	作業療法士	0	0	0	1	2
	事務職	0	1	0	0	1
合計		532	93	5	143	774

# 病院統計

・年度別月別入院延べ患者数

(単位：人)

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2015	7,617	7,676	6,622	7,600	7,926	7,316	7,625	7,419	7,014	7,906	8,228	8,439	91,388
2016	8,088	7,403	7,670	8,156	8,266	7,586	8,733	8,760	9,075	9,089	8,347	8,878	100,051
2017	8,506	8,056	7,956	8,798	8,410	8,070	8,409	8,650	8,851	9,184	8,504	8,918	102,312
2018	8,052	8,210	7,741	8,247	8,937	7,688	8,430	8,593	8,889	9,091	8,377	8,701	100,956
2019	8,532	8,851	8,374	7,759	8,588	7,778	7,784	8,212	8,839	8,441	7,833	7,557	98,548

・年度別月別1日平均入院患者数

(単位：人)

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2015	253.9	247.6	220.7	245.2	255.7	243.9	246.0	247.3	226.3	255.0	283.7	272.2	249.7
2016	269.6	238.8	255.7	263.1	266.6	252.9	281.7	292.0	292.7	293.2	298.1	286.4	274.2
2017	283.5	259.9	265.2	283.8	271.3	269.0	271.3	288.3	285.5	296.3	303.7	287.7	280.5
2018	268.4	264.8	258.0	266.0	288.3	256.3	271.9	286.4	286.7	293.3	299.2	280.7	276.7
2019	284.4	285.5	279.1	250.3	277.0	259.3	251.1	273.7	285.1	272.3	270.1	243.8	269.3

・年度別月別外来延べ患者数

(単位：人)

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2015	12,873	12,056	13,697	13,539	12,760	12,794	13,959	13,355	13,476	12,636	13,041	14,124	158,310
2016	13,163	12,920	14,129	13,510	13,374	13,815	14,279	14,174	14,146	13,742	13,395	14,721	165,368
2017	13,578	13,780	14,448	14,033	14,268	14,148	14,620	14,646	15,280	14,640	13,580	15,228	172,249
2018	13,594	14,272	14,216	14,341	14,528	13,547	15,623	15,165	14,464	14,434	13,344	14,388	171,916
2019	14,369	13,360	13,261	13,549	13,563	13,039	13,640	13,108	13,434	12,918	11,424	11,424	157,089

・年度別月別1日平均外来患者数

(単位：人)

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2015	514.9	524.2	526.8	520.7	490.8	556.3	536.9	580.7	585.9	549.4	543.4	543.2	538.5
2016	526.5	561.7	543.4	540.4	514.4	575.6	571.2	590.6	615.0	597.5	582.4	566.2	564.4
2017	565.8	574.2	555.7	561.3	548.8	589.5	584.8	610.3	664.3	636.5	590.4	585.7	588.9
2018	566.4	594.7	546.8	573.6	558.8	589.0	600.9	631.9	628.9	627.6	580.2	575.5	589.5
2019	574.8	580.9	530.4	521.1	521.7	566.9	568.3	595.8	610.6	561.7	544.0	509.0	549.3

・年度別診療科別外来延べ患者数

(単位：人)

診療科	年度	2015	2016	2017	2018	2019
総合診療内科		21,126	18,799	15,807	8,174	6,554
呼吸器内科		9,451	9,260	8,543	7,727	7,252
消化器内科		15,132	15,282	15,296	17,786	14,690
腎臓・高血圧内科		4,894	4,239	4,094	4,980	4,166
内分泌・糖尿病内科		15,243	15,850	15,130	15,692	6,551
血液浄化		7,364	7,753	7,292	7,876	7,534
循環器内科		1,727	—	—	—	—
乳腺科		—	—	—	2,353	2,987
脳神経外科		1,725	5,247	8,993	10,254	10,753
小児科		5,388	5,151	5,540	5,093	4,517
外科		8,035	7,965	7,575	6,332	6,113
呼吸器外科		2,796	2,762	2,589	3,112	3,388
形成外科		819	1,124	1,265	1,075	1,425
整形外科		8,757	9,319	11,020	11,502	11,628
皮膚科		4,307	4,409	4,837	4,566	5,132
泌尿器科		8,473	8,076	7,947	5,773	4,878
眼科		8,954	9,083	9,206	9,331	8,444
耳鼻咽喉科		15,550	13,561	13,895	13,907	14,043
心臓血管センター内科		8,563	12,120	13,445	16,520	16,124
リウマチ・膠原病内科		849	4,005	6,994	8,619	10,233
総合診療科		113	1,220	1,034	1,114	1,112
ドック・健診科		137	1,175	2,543	0	0
リハビリテーション科		0	1	0	0	1
放射線科		1,427	1,527	1,890	2,192	2,193
麻酔科		5,327	4,572	4,473	4,618	4,995
救急科		2,153	2,868	2,841	3,320	2,377

・年度別診療科別1日平均外来患者数

(単位：人)

診療科	年度	2015	2016	2017	2018	2019
総合診療内科		71.9	64.2	53.8	28.0	22.9
呼吸器内科		32.1	31.6	29.1	26.5	25.4
消化器内科		51.5	52.2	52.0	60.9	51.4
腎臓・高血圧内科		16.6	14.5	13.9	17.1	14.6
内分泌・糖尿病内科		51.8	54.1	51.5	53.7	22.9
血液浄化		25.0	26.5	24.8	27.0	26.3
循環器内科		5.9	—	—	—	—
乳腺科		—	—	—	8.1	10.4
脳神経外科		5.9	17.9	30.6	35.1	37.5
小児科		18.3	17.6	18.8	17.4	15.8
外科		27.3	27.2	25.8	21.7	21.4
呼吸器外科		9.5	9.4	8.8	10.7	11.8
形成外科		3	4	4.3	3.7	5
整形外科		29.8	31.8	37.5	39.4	40.7
皮膚科		14.6	15.0	16.5	15.6	17.9
泌尿器科		28.8	27.6	27.0	19.8	17.1
眼科		30.5	31.0	31.3	32.0	29.5
耳鼻咽喉科		52.9	46.3	47.3	47.6	49.1
心臓血管センター内科		29.1	41.4	45.7	56.6	56.4
リウマチ・膠原病内科		2.9	13.7	23.8	29.5	35.8
総合診療科		0.4	4.2	3.5	3.8	3.9
ドック・健診科		0.5	4.0	8.6	0.0	0.0
リハビリテーション科		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放射線科		4.9	5.2	6.4	7.5	7.7
麻酔科		18.1	15.6	15.2	15.8	17.5
救急科		7.3	9.8	9.7	11.4	8.3
合計		538.5	564.4	585.9	588.8	549.3

・年度別診療科別入院延べ患者数

(単位：人)

診療科	年度	2015	2016	2017	2018	2019
総合診療内科		11,559	7,497	5,319	1	981
呼吸器内科		10,000	11,633	9,209	4,480	5,152
消化器内科		12,940	12,173	11,627	12,279	9,153
腎臓・高血圧内科		4,351	3,239	4,138	5,465	3,553
内分泌・糖尿病内科		6,678	6,408	5,366	5,683	2,945
循環器内科		1,322	0	0	544	—
乳腺科		—	—	—	—	725
脳神経外科		829	9,578	18,356	17,941	16,399
小児科		0	0	0	0	0
外科		10,651	10,010	9,386	9,904	11,042
呼吸器外科		4,282	4,448	4,027	5,094	4,659
形成外科		—	0	0	0	0
整形外科		6,250	9,403	11,328	14,618	19,545
皮膚科		368	576	227	—	—
泌尿器科		2,284	1,728	1,612	—	—
眼科		898	886	767	878	729
耳鼻咽喉科		3,555	2,583	2,388	2,400	2,245
心臓血管センター内科		8,994	9,914	9,000	10,508	10,766
リウマチ・膠原病内科		0	2,978	3,146	4,096	4,143
総合診療科		298	2,620	2,435	2,517	2,789
麻酔科		970	923	550	588	655
救急科		5,159	3,454	3,431	3,960	3,057

・年度別診療科別入院患者数：1日平均

(単位：人)

診療科	年度	2015	2016	2017	2018	2019
総合診療内科		31.6	22.0	14.6	0.0	2.7
呼吸器内科		27.3	20.5	25.2	12.3	14.1
消化器内科		35.4	12.0	31.9	33.6	25.0
腎臓・高血圧内科		11.9	15.2	11.3	15.0	9.7
内分泌・糖尿病内科		18.2	25.4	14.7	15.6	8.0
循環器内科		3.6	—	—	1.5	—
乳腺科		—	—	—	—	2.0
脳神経外科		2.3	19.3	50.3	49.2	44.8
小児科		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
外科		29.1	19.1	25.7	27.1	30.2
呼吸器外科		11.7	18.6	11.0	14.0	12.7
形成外科		—	0.0	0.0	0.0	0.0
整形外科		17.1	37.4	31.0	40.0	53.4
皮膚科		1.0	7.0	0.6	0.0	0.0
泌尿器科		6.2	13.4	4.4	0.0	0.0
眼科		2.5	2.2	2.1	2.4	2.0
耳鼻咽喉科		9.7	6.3	6.5	6.6	6.1
心臓血管センター内科		24.6	7.0	24.7	28.8	29.4
リウマチ・膠原病内科		—	24.3	8.6	11.2	11.3
総合診療科		0.8	24.3	6.7	6.9	7.5
麻酔科		2.7	19.6	1.5	1.6	1.8
救急科		14.1	14.1	9.4	10.8	8.4
合計		249.7	14.8	280.3	276.6	269.3

・年度別診療科別入院患者数

(単位：人)

診療科	年度	2015	2016	2017	2018	2019
総合診療内科		43.7	28.3	20.6	0.0	3.8
呼吸器内科		42.6	45.2	32.8	16.7	17.0
消化器内科		84.3	77.3	82.6	83.3	61.8
腎臓・高血圧内科		17.7	16.3	19.1	21.3	15.7
内分泌・糖尿病内科		23.7	20.2	15.3	19.0	6.3
乳腺科		—	—	—	4.9	6.4
循環器内科		5.8	—	—	—	—
脳神経外科		2.6	41.3	72.1	74.0	72.7
小児科		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
外科		45.4	42.8	39.9	41.3	43.9
呼吸器外科		16.9	18.7	15.0	18.6	19.0
形成外科		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
整形外科		17.0	20.2	29.8	34.3	48.3
皮膚科		4.2	6.0	2.2	0.0	0.0
泌尿器科		12.5	9.6	8.3	0.0	0.0
眼科		21.9	23.3	21.4	24.3	20.0
耳鼻咽喉科		38.6	29.8	28.8	30.6	31.3
心臓血管センター内科		87.1	104.1	94.5	97.6	92.8
リウマチ・膠原病内科		0.0	10.0	15.8	14.8	15.7
総合診療科		9.0	8.9	8.2	8.3	11.3
麻酔科		3.3	3.6	2.3	1.6	2.8
救急科		32.6	22.0	23.3	23.2	18.1
合計		508.8	527.4	531.9	513.7	486.9

・年度別診療科別退院患者数

(単位：人)

診療科	年度	2015	2016	2017	2018	2019
総合診療内科		41.0	27.0	20.7	0.0	3.3
呼吸器内科		43.3	45.7	37.4	17.9	18.5
消化器内科		84.8	79.5	80.2	81.3	59.8
腎臓・高血圧内科		19.3	17.3	17.5	21.1	16.4
内分泌・糖尿病内科		22.9	20.4	16.8	18.2	7.8
乳腺科		—	—	—	4.7	6.5
循環器内科		5.9	—	—	—	—
脳神経外科		1.8	40.0	69.8	73.7	72.3
小児科		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
外科		48.9	45.3	44.8	44.3	47.1
呼吸器外科		17.8	18.6	15.9	20.3	20.3
形成外科		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
整形外科		17.8	20.8	29.8	35.6	49.3
皮膚科		4.2	6.3	2.2	0.0	0.0
泌尿器科		14.4	10.5	9.4	0.0	0.0
眼科		22.1	23.3	21.5	24.3	20.0
耳鼻咽喉科		40.2	30.6	30.1	31.3	32.3
心臓血管センター内科		82.8	102.6	92.2	94.9	90.3
リウマチ・膠原病内科		0.0	10.0	15.9	15.5	16.2
総合診療科		9.0	8.8	7.9	8.8	11.1
麻酔科		4.3	4.1	2.8	2.4	3.5
救急科		24.8	17.0	17.8	19.9	14.3
合計		505.3	527.7	532.8	514.1	489.0

・年度別平均在院日数：診療科別

(単位：日)

診療科	年度	2015	2016	2017	2018	2019
総合診療内科		22.6	22.0	21.0	0.0	13.3
呼吸器内科		18.5	20.5	21.2	20.3	23.9
消化器内科		11.8	12.0	11.0	11.5	11.8
腎臓・高血圧内科		18.8	15.2	17.7	20.8	16.4
内分泌・糖尿病内科		23.1	25.4	27.4	25.1	35.2
乳腺科		—	—	—	8.7	9.0
循環器内科		3.0	—	—	—	—
脳神経外科		10.8	19.3	20.8	19.6	18.2
小児科		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
外科		17.8	19.1	17.7	18.6	19.3
呼吸器外科		20.2	18.6	20.7	21.5	18.8
形成外科		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
整形外科		29.5	37.4	31.1	34.4	33.2
皮膚科		6.3	7.0	5.7	0.0	0.0
泌尿器科		13.6	13.4	16.7	0.0	0.0
眼科		2.5	2.2	2.0	2.1	2.1
耳鼻咽喉科		6.6	6.3	5.8	5.5	4.9
心臓血管センター内科		7.2	7.0	7.1	8.1	8.9
リウマチ・膠原病内科		0.0	24.3	15.8	23.2	21.3
総合診療科		15.8	24.3	24.4	24.4	20.3
麻酔科		21.7	19.6	17.3	26.1	16.5
救急科		15.4	14.1	13.7	14.7	15.3
全科		14.3	14.8	15.1	15.4	15.9

・年度別平均在院日数：病棟別

(単位：日)

診療科	年度	2015	2016	2017	2018	2019
東2病棟		18.8	15.3	14.5	12.0	12.9
東3病棟		17.2	14.1	13.8	13.9	14.8
東4病棟		22.5	37.6	41.5	39.8	39.6
西1病棟		12.4	19.9	20.8	17.8	17.0
西2病棟		12.1	12.2	11.8	17.2	17.7
西3病棟		10.7	9.1	9.6	9.9	10.3
急性期ケアユニット		—	—	17.6	39.7	26.5
脳卒中ケアユニット		—	—	—	16.9	15.5
全病棟		14.3	14.8	15.1	15.4	15.9

・年度別病床利用率

(単位：%)

診療科	年度	2015	2016	2017	2018	2019
東2病棟 (53)		80.6	91.3	88.6	81.1	79.3
東3病棟 (52)		83.9	93.5	96.0	91.9	88.3
東4病棟 (51)		71.3	87.6	92.3	95.5	93.7
西1病棟 (37)		81.6	92.8	99.5	95.0	89.8
西2病棟 (47)		91.1	91.2	92.5	96.8	98.6
西3病棟 (46)		92.3	91.9	94.8	95.8	91.5
急性期ケアユニット (8)		—	—	80.1	81.5	73.0
脳卒中ケアユニット (6)		—	—	—	98.4	99.5
全病棟 (300)		74.4	83.2	91.4	92.2	89.9

・年度別死亡数 (単位：人)

区分	年度	2015	2016	2017	2018	2019
死亡数		277	311	332	257	269

・年度別解剖件数 (単位：人)

区分	年度	2015	2016	2017	2018	2019
解剖数		14	9	4	4	5

・年度別救急車受入れ件数 (単位：件)

区分	年度	2015	2016	2017	2018	2019
救急車受入れ件数		3,905	4,358	5,249	5,326	5,357

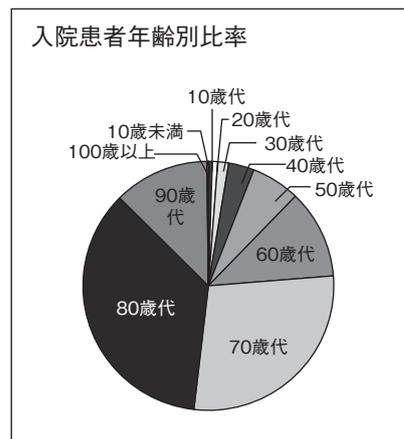
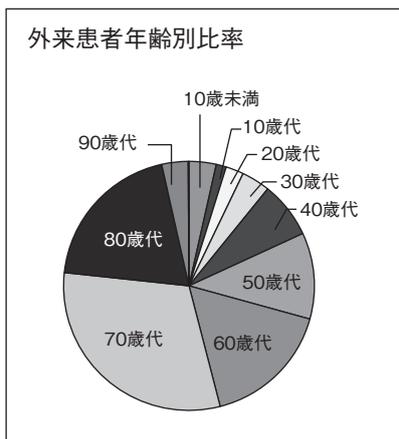
・年度別診療科別手術件数：(手術室実施) (単位：件)

診療科	年度	2015	2016	2017	2018	2019
腎臓・高血圧内科		25	48	61	58	33
脳神経外科		8	81	141	134	130
外科		380	351	368	345	357
呼吸器外科		83	94	80	81	89
形成外科		2	1	2	0	0
整形外科		150	217	278	344	498
泌尿器科		102	81	62	1	0
眼科		268	281	259	287	238
耳鼻咽喉科		270	240	225	226	216
乳腺科		—	—	—	41	63
心臓血管センター内科		2	0	0	0	1
麻酔科		1	0	0	0	1
合計		1,291	1,394	1,476	1,517	1,626

・2019年度患者年齢別比率

(単位：%)

年代	項目	外来	入院
10歳未満		3.5%	0.1%
10歳代		1.3%	0.4%
20歳代		2.3%	0.7%
30歳代		3.7%	1.4%
40歳代		7.3%	3.3%
50歳代		11.2%	6.3%
60歳代		16.7%	11.5%
70歳代		30.7%	28.1%
80歳代		19.8%	35.6%
90歳代		3.4%	12.3%
100歳以上		0.1%	0.2%

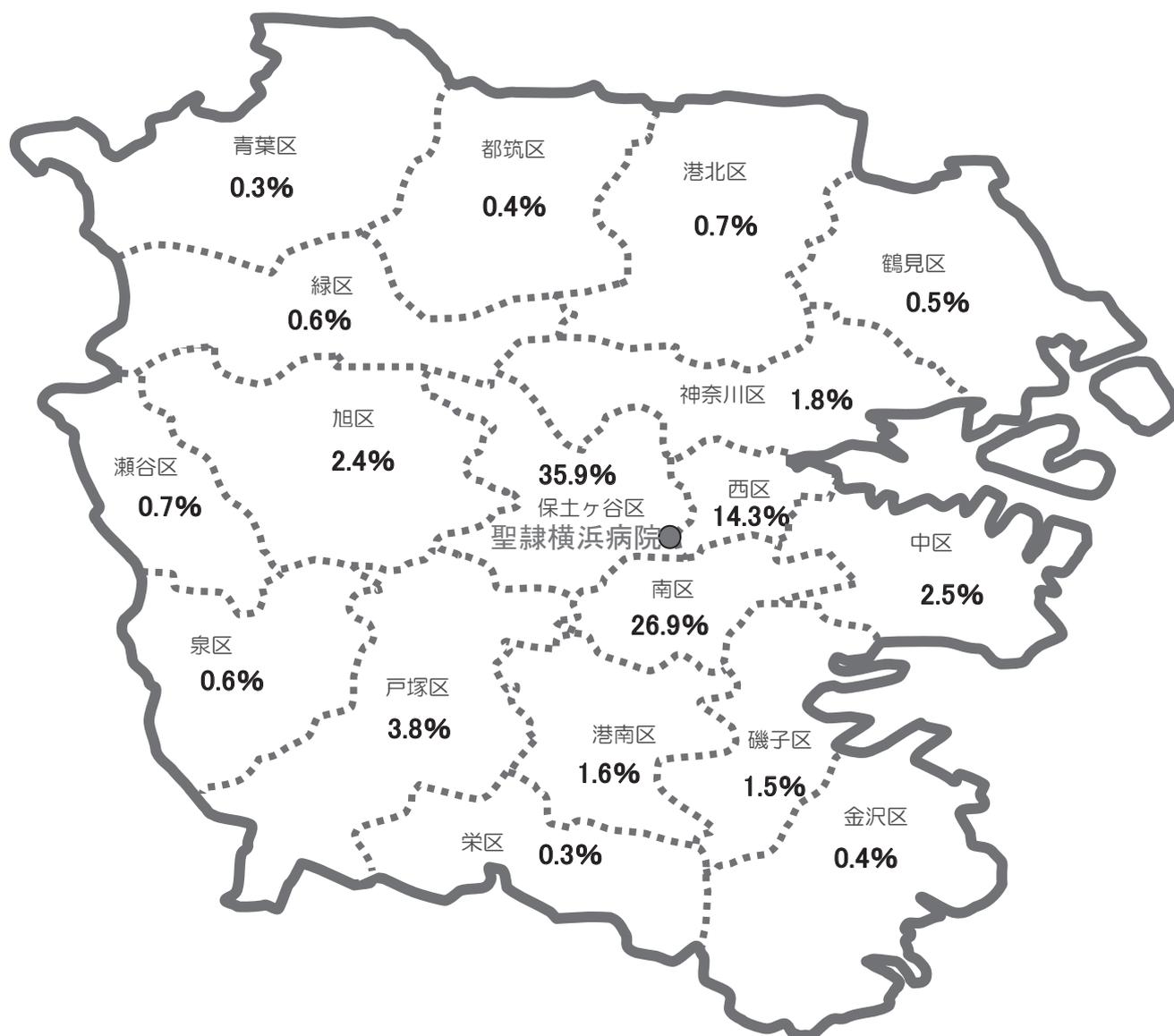


・2019年度地区別比率

(単位：%)

地区	保土ヶ谷区	南区	西区	戸塚区	旭区	中区	港南区	神奈川区	磯子区	泉区	港北区	瀬谷区
比率	35.9%	26.9%	14.3%	3.8%	2.4%	2.5%	1.6%	1.8%	1.5%	0.6%	0.7%	0.7%

地区	都筑区	緑区	青葉区	金沢区	鶴見区	栄区	市外	県外
比率	0.4%	0.6%	0.3%	0.4%	0.5%	0.3%	2.6%	2.2%



・年度別紹介件数：診療科別

(単位：件)

診療科	年度	2015	2016	2017	2018	2019
総合内科		570	577	475	36	139
呼吸器内科		507	455	401	439	455
消化器内科		913	961	1,012	1,171	939
腎臓・高血圧内科		184	209	206	312	251
内分泌・糖尿病内科		232	256	209	254	51
血液浄化		—	—	—	—	—
循環器内科		61	—	—	—	—
脳神経外科		171	305	294	307	359
小児科		46	33	30	45	33
外科		346	307	335	181	200
呼吸器外科		75	85	104	131	151
形成外科		28	24	33	23	36
整形外科		285	295	406	431	575
皮膚科		77	88	89	78	80
泌尿器科		268	240	257	204	217
産婦人科		—	—	—	—	—
眼科		226	166	213	199	186
耳鼻咽喉科		949	657	609	574	646
乳腺科		—	—	—	178	208
心臓血管センター内科		716	1,029	1,163	1,399	1,377
リウマチ・膠原病内科		80	232	298	274	279
総合診療科		49	145	97	100	109
ドック・健診科		—	—	—	—	—
放射線診断科		1,419	1,517	1,858	2,193	2,208
麻酔科		100	112	89	121	107
救急科		75	72	109	134	103
脳卒中科		—	—	—	—	—

・年度別紹介件数：即日入院件数

(単位：件)

診療科	年度	2015	2016	2017	2018	2019
総合内科		127	107	88	0	14
呼吸器内科		73	84	64	51	52
消化器内科		144	150	162	174	141
腎臓・高血圧内科		42	37	45	52	44
内分泌・糖尿病内科		29	19	22	36	34
血液浄化		—	—	—	—	—
循環器内科		8	—	—	—	—
脳神経外科		7	58	70	88	95
小児科		0	0	0	0	0
外科		71	36	49	57	75
呼吸器外科		26	31	42	63	58
形成外科		2	0	0	0	0
整形外科		33	27	49	41	83
皮膚科		14	7	5	0	1
泌尿器科		23	14	12	0	1
産婦人科		—	—	—	—	—
眼科		2	1	0	1	1
耳鼻咽喉科		62	38	34	51	54
乳腺科		—	—	—	0	4
心臓血管センター内科		116	159	139	180	170
リウマチ・膠原病内科		0	19	20	23	23
総合診療科		13	95	86	85	85
ドック・健診科		—	—	—	—	—
麻酔科		12	9	11	6	13
救急科		42	30	46	51	47
脳卒中科		—	—	—	—	—

＜悪性新生物＞ 2019年4月1日から2020年3月31日までの退院サマリ完成分5,870名の中で、悪性新生物による退院患者531名の発生部位/世代別/性別件数

	件数	00～19		20～29		30～39		40～49		50～59		60～64		65～69		70～74		75～79		80～	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
C10 中咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞	2																				
C13 下咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞	1																				1
C15 食道の悪性新生物＜腫瘍＞	4																				2
C16 胃の悪性新生物＜腫瘍＞	68									1	3				6	12	1	7	8	18	12
C17 小腸の悪性新生物＜腫瘍＞	4									3											1
C18 結腸の悪性新生物＜腫瘍＞	112							3		8	1	5		9	17	9	5	20	19	16	
C19 直腸S状結腸移行部の悪性新生物＜腫瘍＞	2																				
C20 直腸の悪性新生物＜腫瘍＞	31						1			2	2	2	3	1	7	2	3	2	3	3	
C21 肛門及び肛門管の悪性新生物＜腫瘍＞	1																				
C22 肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞	28									4	1					2		5	10	6	
C23 胆のう＜嚢＞の悪性新生物＜腫瘍＞	11															3	4			1	3
C24 その他及び部位不明の胆道の悪性新生物＜腫瘍＞	19											1		2	1	2	1	1	2	5	4
C25 膵の悪性新生物＜腫瘍＞	25											1		1	3	3	6	3	3	5	
C31 副鼻腔の悪性新生物＜腫瘍＞	1																				
C34 気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	94									3	5	5	9	9	6	11	15	18	13		
C37 胸腺の悪性新生物＜腫瘍＞	5																				4
C44 皮膚のその他の悪性新生物＜腫瘍＞	1														1						
C45 中皮腫	1														1						
C50 乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	70										18	2	8	12	7						11
C54 子宮体部の悪性新生物＜腫瘍＞	2																				2
C61 前立腺の悪性新生物＜腫瘍＞	2																		1	1	
C67 膀胱の悪性新生物＜腫瘍＞	1																				1
C71 脳の悪性新生物＜腫瘍＞	3						1														2
C77 リンパ節の続発性及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞	1																				1
C78 呼吸器および消化器の続発性悪性新生物＜腫瘍＞	25							2	2	1	7	2	1	1	2						5
C79 その他の部位及び部位不明の続発性悪性新生物＜腫瘍＞	10																		1	1	5
C85 非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	7						1								1		2	1	1	1	1
	531	0	0	0	0	0	2	0	4	14	22	21	25	6	28	22	58	42	47	60	91
		(合計)																			

疾病（大分類）別・診療科別・性別 退院患者数

集計期間：2019/04/01～2020/03/31

	合計	総合内科	呼吸器 内科	消化器内科	腎臓・高血 圧内科	内分泌・ 代謝内科	脳神経 外科	小児科	外科	呼吸器 外科	形成外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻 咽喉科	乳癌科	心臓血管セ ンター内科	リウマチ科 膠原内科	総合 診療科	ドック・ 健診科	麻酔科	救急科
合計	3,171	16	133	433	126	56	465	349	153	222	95	211	673	51	78	24	86						
男	2,699	24	89	285	71	38	403	216	90	369	145	176	411	143	55	18	86						
女	76	1	7	16	10	3	3	3	14			7	1	1	1	2	8						
01：感染症及び寄生虫症	92	3	8	20	7	2	6	6	18			9	3	4		2	10						
02：新生物	292		19	81			6	107	38			6	1	3	10	18	2						
03：血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害	280		19	46			10	67	38			2	4	3	3	9	3						
04：内分泌・栄養および代謝疾患	12		4	1			1	2															
05：神経系の疾患	19		2	3			1	1															
06：呼吸器の疾患	57	1	5	7	23	1	4	1	1														
07：眼および付属器の疾患	51	1	2	10	17	1	1																
08：耳および乳様突起の疾患	7						1																
09：消化器の疾患	5		1	1	1	1	1																
10：神経系の疾患	110	2					49		1	3		36	5		12		1						
11：眼および付属器の疾患	83	2					52			1		17	4	4		2							
12：皮膚および皮下組織の疾患	96																						
13：循環器系の疾患	150						1																
14：呼吸器系の疾患	125						15	1															
15：消化器系の疾患	137	1					32	1															
16：皮膚および皮下組織の疾患	978	1	1	5	8	1	308	3	10														
17：循環器系の疾患	629	2		1	5		245	3	1														
18：呼吸器系の疾患	338	8	96	23	15	15	1	4	80														
19：消化器系の疾患	221	10	56	12	9	9	1	2	23														
20：神経系の疾患	499			276	3	1		213															
21：皮膚および皮下組織の疾患	303			167	1			123															
22：皮膚および皮下組織の疾患	19			3																			
23：皮膚および皮下組織の疾患	25			2				2	2														
24：筋骨格系および結合組織の疾患	122	1	1	1	7	2	1	2	2														
25：皮膚および皮下組織の疾患	214	1		2	2			4	2														
26：腎尿路生殖器系の疾患	95	2	2	11	59	2	2	1															
27：腎尿路生殖器系の疾患	76	3	3	16	29	2		1	1														
28：妊娠、分娩および産後<構>																							
29：周産期に発生した病態																							
30：先天奇形、変形および染色体異常	8						2		3														
31：症状、徴候および異常臨床所見異常検査所見で他に分類されないもの	1																						
32：症状、徴候および異常臨床所見異常検査所見で他に分類されないもの	63		6	7	2	7	14	1	1														
33：損傷、中毒およびその他の外因の影響	55			9	1	6	16	4	3														
34：損傷、中毒およびその他の外因の影響	264	1		3	10		60	5	5														
35：損傷、中毒およびその他の外因の影響	353	1	1	4	3	1	41	2	3														
36：傷病および死亡の外因																							
37：健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	10			1			1	1															
38：健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	5						2	1															
39：特殊目的用コード																							
40：特殊目的用コード																							

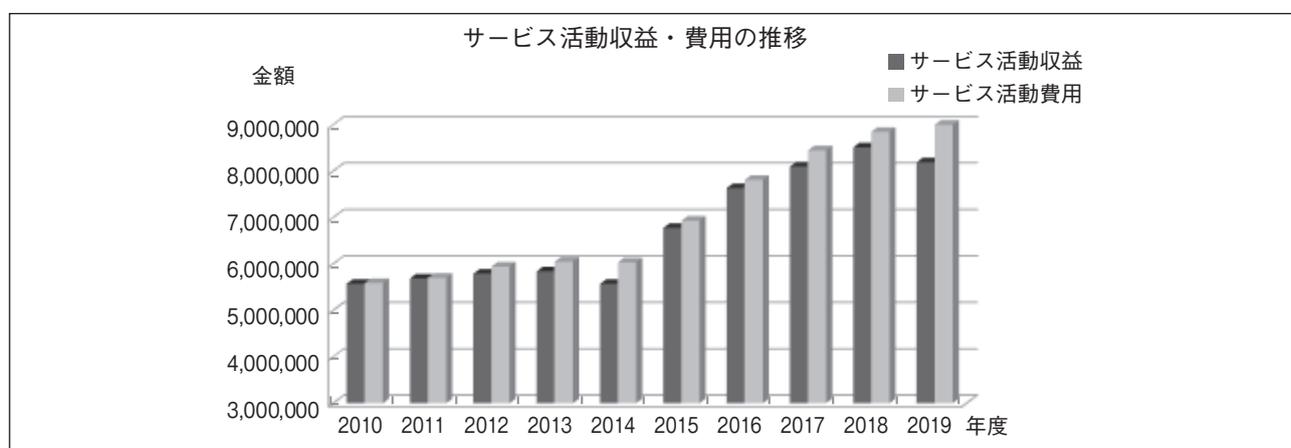
2019年4月1日から2020年3月31日までのサマリ完成分5,870名を対象としたものである。



# 財務統計ハイライト

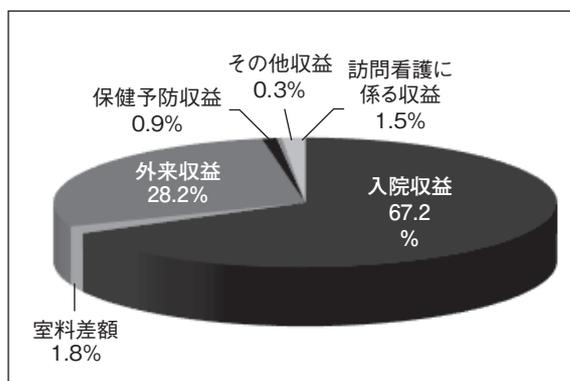
## ○サービス活動収益・費用の推移（内部取引控除前）

年度	サービス活動収益（千円）	対前年度比	サービス活動費用（千円）	対前年度比
2010	5,574,203	101.8%	5,587,427	101.3%
2011	5,687,778	102.0%	5,697,434	102.0%
2012	5,790,489	101.8%	5,943,198	104.3%
2013	5,839,232	100.8%	6,050,310	101.8%
2014	5,570,368	95.4%	6,034,859	99.7%
2015	6,777,159	121.7%	6,931,513	114.9%
2016	7,632,739	112.6%	7,809,810	112.7%
2017	8,100,126	106.1%	8,446,671	108.2%
2018	8,509,516	105.1%	8,843,764	104.7%
2019	8,188,301	96.2%	9,399,903	106.3%

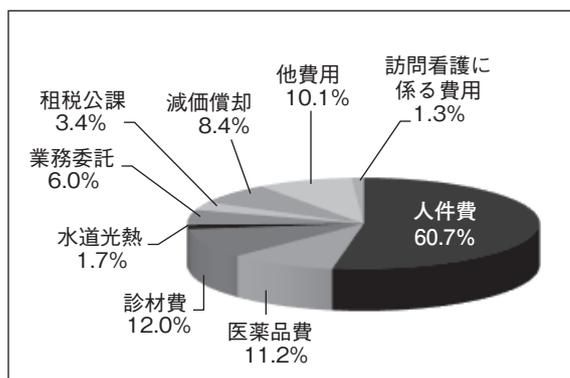


## ○サービス活動収益・費用の内訳（2019年度）

	サービス活動収益(千円)	占有率
入院収益	5,502,729	67.2%
室料差額	148,061	1.8%
外来収益	2,310,989	28.2%
保健予防収益	76,072	0.9%
その他収益	26,913	0.3%
訪問看護に係る収益	123,537	1.5%
合計	8,188,301	100%



	サービス活動費用(千円)	対医収比
人件費	4,969,397	60.7%
医薬品費	916,516	11.2%
診療・療養材料費	983,769	12.0%
水道光熱費	141,214	1.7%
業務委託費	494,324	6.0%
租税公課	275,209	3.4%
減価償却費	690,864	8.4%
その他費用	826,068	10.1%
訪問看護に係る費用	102,542	1.3%
合計	9,399,903	114.8%



サービス活動増減差額	-1,211,602	-14.8%
------------	------------	--------

※2014年度より せいでい訪問看護ステーション横浜を含む  
 ※2015年度より 新社会福祉法人会計基準へ移行

※訪問看護に係る収益・費用・・・訪問看護ステーションにおけるサービス活動収益・費用を掲載

## 人員構成 (2019年4月1日時点)

医師	3名
リウマチケア看護師	4名
リウマチ専門薬剤師	5名
検査技師	1名
リハビリテーション療法士	2名
事務	4名

## 業務内容

- ・スタッフ間の連携を円滑に行い、入外患者の診療の質を高める。
- ・毎月第1火曜日にセンター運営会議を開催し、情報共有と今後の方針を相談する。
- ・関節リウマチ患者を対象としたリウマチ包括ケアを推進する。
- ・地域連携室や総務課と共同して広報活動やホームページ作成を行う。

## 2019年度総括

多職種が連携したチーム医療を推進するため、2020年度も、入院・外来とも、リウマチ専門看護師、リウマチ専門薬剤師、フットケア看護師、リハビリテーション技師などが積極的に連携して診療に当たった。特に、リウマチ看護外来、フットケア外来が一層充実した。その成果として、関節リウマチ診療における重症感染症が極めて少ないことがあげられ、日本リウマチ学会などで発表した。また、地域連携室と共同で、各種講演会、地域連携会、ホームページの更新など、広報活動を積極的に行った。

年度末にかけて、武漢コロナウイルス感染予防のため、診療間隔を3ヶ月に延長し、電話診療を積極的に採用したため、外来受診者数が減少した。しかし、免疫抑制療法を行う患者に対し、日頃から多職種連携して感染予防指導が徹底されていたためか、重症感染症を合併する患者はほとんど見られなかった。

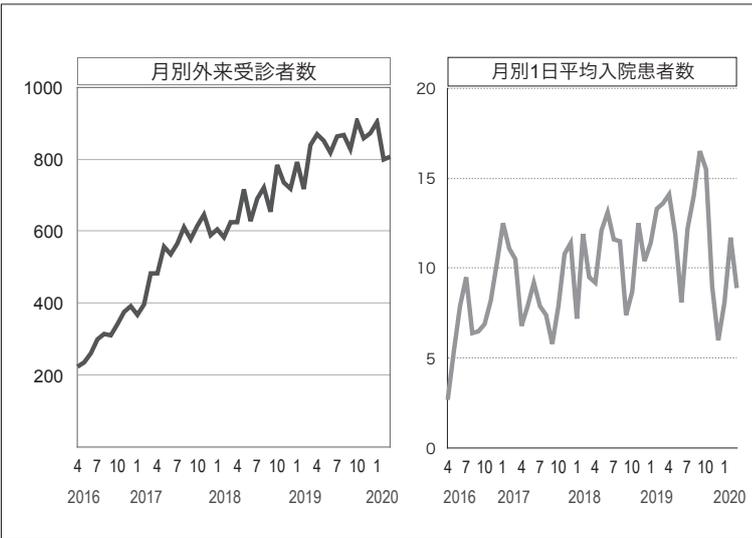


図1. 月ごとの外来受診者数と1日平均入院患者数

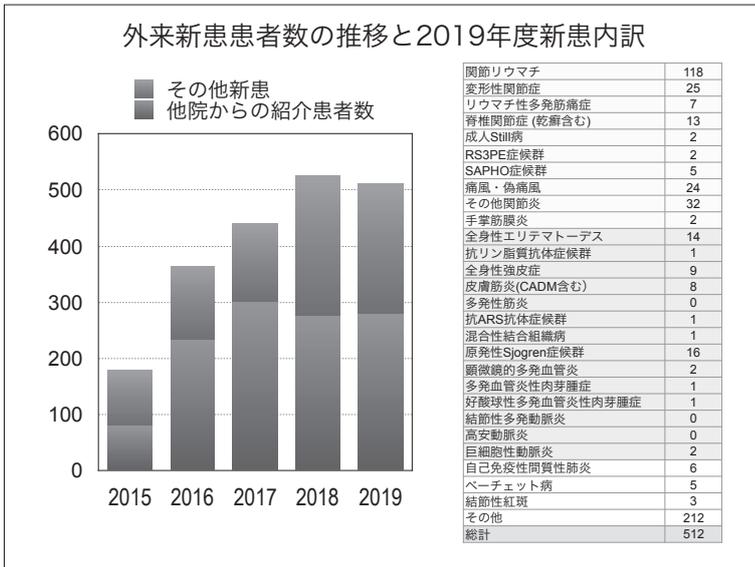


図2. 年度別の新患者数と2019年度新患内訳

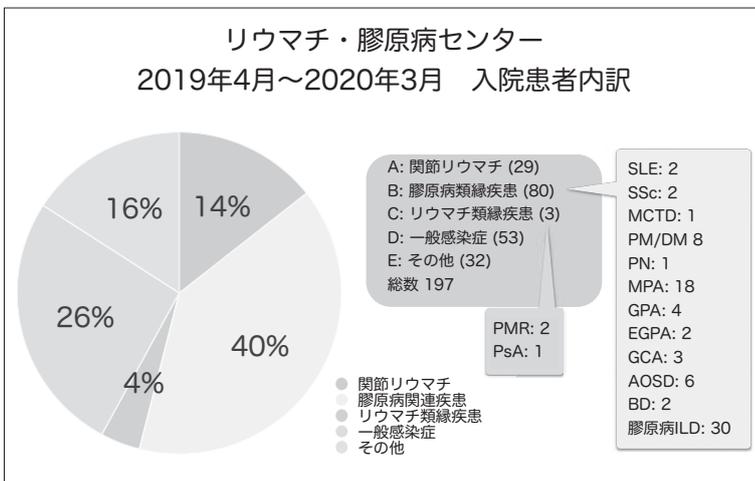


図3. 2019年度入院患者内訳

## 人員構成（2019年4月1日時点）

脳神経外科と脳血管内治療科での診療を円滑に行うために2016年4月より「脳血管センター」を立ち上げ、集学的な診療を行ってきた。

脳血管センター長と脳血管内治療科部長を兼任で鈴木祥生が、脳神経外科部長を佐々木亮が担当した。主任医長として大高稔晴が、医長として佐藤純子が常勤で勤務し、2019年4月1日からは長年にわたり岡山医療センターでご活躍されていた青井瑞穂先生が常勤医として赴任した。また、非常勤として聖隷浜松病院から藤本医師がてんかん外来を行い、北里大学医学部救命救急科から田村医師、佐藤病院から横田医師、汐田総合病院から山内医師が外来を主に業務にあたった。

## 業務内容

急性期脳梗塞やクモ膜下出血を始めとした急性期脳血管障害患者に迅速に対応すべく「脳卒中ホットライン」を有効に運用しながら、直達手術や脳血管内手術などを患者の状況に合わせ治療方法を選択し行った。

また、脳血管障害はSCUで入院診療を行い、全身状態の重症な患者は急性期ケアユニット（ACU）で治療を行った。SCUの稼働と連携し早期リハビリテーションを充実させた。急性期治療から機能障害の回復まで一貫した治療を行い治療成績の向上に貢献した。

## 2019年度総括

2016年からセンターが稼働し4年目を迎え診療内容も充実してきた。2018年8月にはSCUが稼働し、より高度な診療を提供することができるようになった。体制が確立し1年が経ち診療も落ち着いてきた。

夏に新棟の工事のために約1か月間手術が組めなかった時期があったが、筆者が学会会長を務めた全国学会である第38回The Mt. Fuji Workshop on CVDの開催もあり、準備と診療が両立できた。

第38回The Mt. Fuji Workshop on CVDでは、「頭蓋内動脈狭窄症の治療」というテーマで脳血管障害の最後の未開地である頭蓋内動脈狭窄に対する積極的治療の理解と議論を行い、学会は盛会に終えることができた。当センターとしても治療が困難なこの疾患に対する積極的治療アプローチを示すことができた。

夏の新病棟開設準備のために2018年度よりはメジャーな手術件数は減少したが、急性期治療後の機能回復にも力を入れた。また、「物忘れ外来」も開設し、脳神経全般の診療に貢献できるようになった。高齢患者が多い地域であることを念頭に置き地域に貢献できる診療体制の構築を第一に考えている。

10月5日には市民公開講座を開催し、「脳血管障害」と「認知症」について市民への啓蒙を行った。その際に地域ケアセンターとの交流も行い、新たな地域住民との関わりやサポート体制を模索している。

実績

2016年から2019年までの手術件数の実績を表に示す。

手術名	2016年	2017年	2018年	2019年
○脳血管内手術症例				
破裂脳動脈瘤塞栓術	10	12	15	8
未破裂脳動脈瘤塞栓術	25	33	38	22
脳動静脈奇形塞栓術	5	5	1	1
脊髄動静脈奇形塞栓術（脊髄硬膜動静脈瘻を含む）	1	0	0	0
硬膜動静脈瘻塞栓術（脊髄を含まない）	2	0	9	3
その他動静脈瘻塞栓術	0	0	0	0
腫瘍塞栓術	2	0	2	1
頭頸部病変塞栓術	1	0	0	0
その他塞栓術	0	0	0	0
頸動脈ステント留置術	20	45	28	15
頭蓋外PTA/Stenting	8	8	10	12
頭蓋内PTA/Stenting（再開通療法を除く）	1	7	10	4
急性再開通療法	7	27	12	13
脳血管攣縮治療	1	0	0	0
その他	8	25	20	8
合計	92	162	145	87
○脳血管造影検査				
152	258	249	232	
○直達手術症例（開頭手術他）				
破裂脳動脈瘤クリッピング術	1	1	3	2
未破裂脳動脈瘤クリッピング術	1	3	4	4
脳動静脈奇形摘出術	0	2	0	0
開頭脳内血腫除去術	3	10	7	6
神経内視鏡的頭蓋内血腫除去術	7	6	9	10
定位的脳内血腫除去術	1	10	1	0
脳腫瘍摘出術（脳膿瘍摘出術を含む）	8	8	13	7
急性硬膜外血腫除去術	1	1	0	1
急性硬膜下血腫除去術	0	2	3	1
慢性硬膜下血腫穿頭ドレナージ術	22	25	24	36
STA-MCAバイパス術	4	1	6	2
頸動脈内膜剥離術	3	4	11	9
脳室ドレナージ術	4	12	14	4
V-Pシャント術	1	0	1	1
L-Pシャント術	9	24	21	16
神経内視鏡的水頭症治療手術	0	1	0	0
その他	5	11	26	18
合計	70	121	143	117

## 人員構成 (2019年4月1日時点)

医師	12名 (消化器内科 6名、呼吸器内科 1名、呼吸器外科 3名、外科 1名、総合診療科 1名)
看護師	14名 (うち内視鏡技師 6名)
臨床工学技士	14名 (うち消化器・内視鏡センター担当4名)
看護助手	1名

## 業務内容

当センターは、2007年4月にそれまでの内視鏡検査室を整備して、内視鏡センターとして開設された。さらに2012年4月には、消化器内科外来が内視鏡センター向かいに新たにオープンするのに合わせ、名称を消化器・内視鏡センターとして開設された。

2019年7月には新外来棟オープンに合わせ、内視鏡室も新外来棟に移った。

患者が安全、快適かつ迅速に内視鏡検査や内視鏡治療を受けられるように、専用の待合室、更衣室、リクライニングシートを兼ね備えたりカバリールームを完備している。同時に消化管早期癌の診断において有用な最先端の内視鏡システム(NBI)や拡大内視鏡の導入、そして、消化管腫瘍に対する内視鏡的ポリープ切除術、内視鏡的粘膜切除術(EMR)、内視鏡的粘膜下層切開剥離術(ESD)、内視鏡的乳頭括約筋切開術(EST)などの治療内視鏡を安全、迅速に行える高周波装置VIO300を導入している。

取り扱う内視鏡機材は、上部・下部の消化管内視鏡や経乳頭的胆管膵管造影(ERCP)用の胆膵内視鏡だけでなく、気管支鏡を含む。またX線透視を用いる内視鏡検査・治療についてはX線透視装置を用いている。特に消化器内科においては、胆道系処置を積極的に行っているため、X線透視下での内視鏡検査治療も頻回に施行している。

当センター所属の医師は消化管については消化器内科を中心として、一部を外科が担当し、気管支鏡については呼吸器内科と呼吸器外科が担当している。また人間ドックや検診での内視鏡検査で

は総合診療科の医師も内視鏡検査を行っている。特に人間ドックや検診の患者に対しては、苦痛のない検査目的で細径内視鏡検査を心掛けている。多くの内視鏡技師が在籍する内視鏡センター看護室スタッフ・臨床工学技士が検査の介助を担当して、円滑に業務を遂行している。

## 2019年度総括

患者の待ち時間や検査時間を短縮し、苦痛や不安のない検査・治療を実践することを目指して、より安全で効率的なセンター運営を行ってきた。外来担当医や内視鏡検査・治療担当医との緊密な連携のうえに質量ともに十分に満足のできるものであった。

内視鏡治療において技術的難易度の高いESD(早期胃癌や早期大腸癌)・ERCP(胆膵内視鏡を用いた胆道系の治療)も順調に件数を伸ばしており、かつ安全に治療を完遂できている。緊急治療が必要とされる内視鏡的消化管止血術や、化膿性胆管炎に対する胆道ドレナージも、患者の安全を考慮し、細心の注意を払って内視鏡治療を行っている。

2020年度は、診療実績のより一層の充実と患者にとってさらに安全で快適な診療の実現を目指す。

## 実績

項目	件数
上部消化管内視鏡検査	2,141件
うち内視鏡治療	96件
早期胃癌ESD	24件
経皮的内視鏡下胃瘻造設術	18件
内視鏡的止血術	13件
食道静脈瘤硬化療法	1件
下部消化管内視鏡検査	1,431件
うち内視鏡治療	280件
早期大腸癌ESD	14件
大腸ステント留置術	8件
内視鏡的大腸ポリープ切除術	247件
経乳頭的胆管膵管造影	188件
うち内視鏡治療	136件
内視鏡的乳頭切開術	77件
内視鏡的胆道ステント留置術	84件
気管支鏡検査	41件

## 人員構成 (2019年4月1日時点)

放射線診断科常勤医	2名
放射線診断科非常勤医	9名
診療放射線技師	19名
内訳	
マンモグラフィ認定技師	5名
血管撮影・インターベンション専門技師	2名
磁気共鳴専門技術者	1名
X線CT認定技師	2名
救急撮影認定技師	1名
第1種放射線取扱主任者	3名
放射線管理士	2名
放射線機器管理士	2名
医用画像情報精度管理士	1名
Ai認定診療放射線技師	2名
衛生工学衛生管理者	1名
シニア診療放射線技師	1名
アドバンスド診療放射線技師	3名
統一講習会終了技師	15名
事務兼検査補助員	3名

## 業務内容

- 単純撮影装置、乳房撮影装置、骨密度測定装置、X線テレビ装置、血管撮影装置、CT装置、MRI装置を用いた診断目的画像撮影
- 各装置を用いた放射線診断技術の治療的応用(IVR)時の機器操作
- 放射線機器の保守管理業務
- 撮影画像管理業務
- 高精細モニタ管理業務
- 放射線被ばく低減のための管理業務
- 放射線検査に対する相談窓口業務
- 撮影技術などの学術研究

## 2019年度総括

- ・ 院外からの紹介検査 (実績)  
CT: 年間1,989件 (対前年度比99.5%)  
MRI: 年間211件 (対前年度比96.8%)
- ・ 外来棟移設に伴い高精細CT・3T-MRI・一般撮影・外科用イメージの増設、3D機能搭載マンモグラフィ装置への更新
- ・ 専門資格の取得  
マンモグラフィ認定技師を取得
- ・ 診療放射線技師法改正と業務拡大に伴う統一講習会へ積極的に参加
- ・ 被ばく低減施設認定取得に向け、書類審査と訪問審査受審

## 実績

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	前年度比 (%)
一般撮影	胸部・腹部	2,472	2,576	2,524	2,524	2,254	89.3
	骨	738	941	1,069	1,135	1,204	106.1
	マンマ軟線	96	88	93	100	112	112.0
	ポータブル	411	525	622	651	711	109.2
	骨塩定量	13	21	32	52	42	80.8
	小計	3,730	4,151	4,340	4,462	4,323	96.9
造影	GI	19	20	18	30	29	96.7
	注腸	7	6	5	5	4	80.0
	ブロック	11	8	7	9	11	122.2
	TVその他	80	88	76	78	69	88.5
	小計	116	122	106	122	113	92.6
CT	件数	1,238	1,385	1,544	1,615	1,542	95.5
	造影率	31.3%	28.0%	25.1%	24.3%	22.3%	91.8
MRI	件数	289	368	477	515	568	110.3
	造影率	9.3%	9.4%	6.5%	6.0%	5.2%	86.7
ANGIO	循環器	75	85	76	81	70	86.4
	頭頸部	0	21	38	40	29	72.5
	体幹部	5	7	5	3	2	66.7
	四肢	5	4	5	4	4	100.0
	小計	85	117	124	128	105	82.0

## 人員構成（2019年4月1日時点）

医師	1名
看護師	2名
（専従医療安全管理者、専従院内感染管理者）	
薬剤師	1名
診療放射線技師	1名
臨床工学技士	1名
事務職	2名

## 業務内容

1. 病院安全管理委員会で用いられる資料作成ならびにその他委員会の運営に関する事
2. 医療安全対策に関する日常活動に関する事
3. 医療事故発生時の指示、指導などに関する事
4. 医療安全に関する職員への教育、研修の実施
5. そのほか、医療安全体制の構築および対応策に関する事

## 2019年度総括

- ◎報告事例の共有
  - ・病院安全管理委員会、セーフティマネージャー運営会議内でのインシデント・アクシデント、オカレンス事例の報告と情報共有を実施
- ◎新外来棟開設に向け、患者搬送シミュレーション開催と搬送中の急変発生を想定した環境整備
  - ・搬送時の救命バックを配置、急変対応一時待機エリアの倉庫整備、患者搬送基準を新設
- ◎重点施策達成のためのワーキンググループ活動（セーフティマネージャーとの連携）
  - ・院内防犯体制再構築
  - ・患者誤認撲滅
  - ・身体行動制限削減
  - ・有害事例発生対応
- ◎医薬品、医療機器、職場環境安全ラウンドの実施と情報共有
  - ・他院における異物混入事件を受け、各病棟医薬品管理エリアへ防犯カメラ設置

## ◎職員医療安全研修開催

- ・チームSTEPPS研修：「DESC（デスク）スク립ト」を知ることを目標に開催。
- ・医療安全セミナー：「緊急時の気道確保」…急変事例の振り返りから、シミュレータを用いた体験型セミナーを開催
- ・医薬品医療安全セミナー

## ◎院内医療安全管理指針・医療安全マニュアルの整備

## ◎「安全管理情報」の発行、「医療安全標語応募」を継続

## ◎医療安全地域連携加算相互ラウンドの実施

- ・JCHO横浜保土ヶ谷中央病院、育生会横浜病院との相互ラウンド実施

## 実績

## ◎医療安全管理カンファレンス計49回開催

## ◎職員医療安全研修

- ・「新入職員向けチームSTEPPS振り返り研修」2回
- ・「チームSTEPPS StepIX」研修 計15回
- ・医薬品安全管理セミナー 計6回開催
- ・医療安全セミナー「緊急時の気道確保」計2回
- ◆受講率
  - ・チームSTEPPS StepIX：91.7%
  - ・医薬品セミナー：87.7%

## ◎「安全管理情報」計12部発行

人員構成 (2019年4月1日時点)

医師 1名  
 看護師 1名  
 医師事務作業補助者 18名 (うち派遣 5名)

業務内容

- 術前検査などのスケジューリングやオーダーリングの代行入力
- 電話での検査予約の変更
- 定期受診者の画像検査予約代行
- RIやサイバーナイフなどの院外特殊検査・治療の予約代行
- 血液浄化センターにおける定期注射・検査オーダーの代行入力
- 証明書、診断書、退院サマリの作成支援
- 麻酔科受診者データ入力
- 手術症例登録 (NCD)
- 学会関係のデータ入力 (整形外科、心臓血管センター、脳血管センター)
- リウマチ・膠原病内科、乳腺外科の診療支援 (オーダーリング代行入力、診察記事代行入力、各種統計処理など)
- 認知症スケールの実施 (長谷川式、MMSE)
- 新任医師への外来診療の事務的支援
- 脳外科、リウマチ・膠原病内科、病理診断科への専任診療支援

2019年度総括

診療報酬における医師事務作業補助体制加算は20対1を維持している。

2019年度の部署目標には、1. 業務の整理・明確化・拡充、2. 医療チームの一員としての役割を実践、3. 専門性を高める自己研鑽、を掲げ取り組んできた。

1. に関して：新たに病理診断科の支援を開始、また学会関係のデータ入力を新たに3診療科に拡大した。更に業務マニュアルを作成することで、煩雑さの軽減、統一化を図っている。

2. に関して：新外来棟開棟時に案内役として、また新型コロナウイルス感染症対策の一環としてのトリアージなど、チーム活動に参加した。

3. に関して：部署内でワークショップを開催し、コミュニケーション・スキルを学習した他、学会への参加、研修成果報告など、学びを共有した。

実績

項目	件数
医師からの業務依頼件数	14件
術前スケジューリング業務	122件
検査代行予約業務	2,356件
PET検査予約業務	56件
診断書、証明書などの発行件数	9,696件
入院予約の変更など	16件
検査予約変更など	869件

## 人員構成 (2019年4月1日時点)

地域医療連携室	7名
医療相談・入退院支援室	7名

## 業務内容

### 地域医療連携室

- ①地域医療機関・患者からの受診・入院相談
- ②紹介状・返書管理
- ③地域医療機関や地域住民向けセミナーや医療講座開催
- ④地域医療機関や多職種との連携会実施と啓蒙活動

### 医療相談室

- ①医療費や退院後の生活、介護・福祉制度利用など医療に関する相談
- ②無料低額診療事業に関する相談

### 入退院支援室

- ①入院支援：入院前オリエンテーションや面談を実施し、入院後の退院支援へつなげる
- ②退院支援：入院時より、退院に向けた意思決定支援と療養先への退院調整

## 2019年度総括

### ◎地域医療連携室

- ・8月7日「第5回 聖隷横浜病院 地域連携のつどい」開催（新外来棟紹介のため院内開催）
- ・10月5日「聖隷横浜病院 市民公開講座 - 食事と運動から探る脳卒中と認知症の予防 -」院内開催
- ・11月15日「横浜保土ヶ谷地域支援セミナー - 急性期病院で認知症を診る -」院内開催
- ・年3回「救急フォーラム」開催
- ・年11回 医療機関向け講演会・セミナー 開催
- ・年3回 地域住民向け講演会・健康講座 開催
- ・新入職医師・診療科を中心とした医師会・地域医療機関へ啓蒙活動
- ・横浜市内・保土ヶ谷区内医療機関との地域医療連携会参加
- ・横浜市内多職種連携会参加

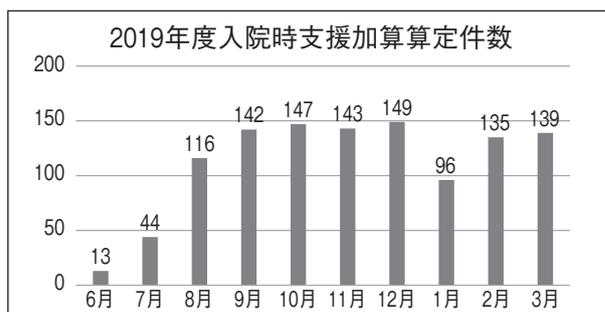
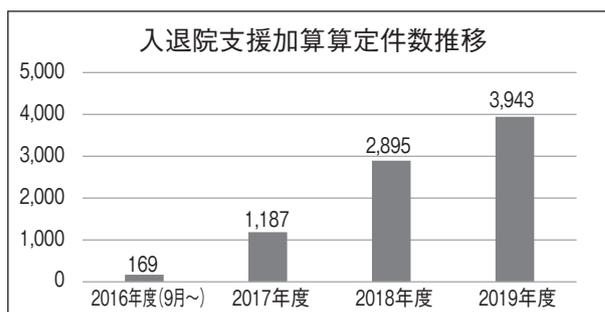
### ◎医療相談室

- ・医療福祉相談、退院支援、無料低額診療事業、医療安全など

### ◎入退院支援室（入退院支援加算Ⅰ算定、6月より入院時支援加算算定）

- ・病床管理センターメンバー（退院支援専従看護師、MSW、当センター課長）
- ・看護部 在宅療養支援委員会メンバー（入退院支援専従看護師、当センター課長）
- ・横浜退院支援ナースの会参加
- ・横浜市内多職種連携会参加（9月当院開催含む）
- ・地域包括ケア病棟への在宅サポート入院や転院の相談、受入れ調整
- ・入院支援の開始（予定入院患者への介入開始）

## 実績



スタッフ (2019年4月1日現在 括弧内：医籍)

部長 小西 建治 (2001年)

2019 年度総括

2019年度のスタッフは2018年度に続き常勤1名で、外来は非常勤スタッフに対応していただき、時間外や救急対応は他科にも助けていただきながら可能な範囲で対応とした。

気管支鏡検査も水曜日のみ施行とし、肺がんや肺結核の診断、間質性肺炎の精査などの目的で継続している。特に、肺がんに関しては当科で診断をつけて、呼吸器外科に手術を依頼することができている。

2018年度から、肺がんの化学療法導入を控えてきたため外来での化学療法はわずかとなったが、治療希望のない方の外来フォローは続けており、それ以外にも他院での化学療法終了後の外来フォローや、終末期の緩和目的での入院対応なども行えるようにしてきた。

外来を保っていることから、地域柄高齢者の慢性疾患の患者も多いため入院患者数はむしろやや増えることとなった。

他科に入院中の患者の呼吸器症状対応も多く、現状を保ちながら必要なときに入院対応ができるように今後も可能な範囲で続けていきたい。

実績

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	延患者数	9,451	9,260	8,543	7,727	7,248
	1日平均患者数	32.1	31.6	29.1	26.5	25.6
入院	延患者数	10,000	11,633	9,209	4,480	5,162
	1日平均患者数	27.3	31.9	25.2	12.3	14.1

## スタッフ (2019年4月1日現在 括弧内：医籍)

消化器内科部長	吹田 洋將	(1987年)
肝胆膵内科部長	石橋 啓如	(2002年)
消化器内科医長	安田 伊久磨	(2001年)
消化器内科医長	豊水 道史	(2010年)
消化器内科医員	武田 武文	(2013年)
消化器内科専修医	佐藤 育也	(2015年)

## 2019 年度総括

### ①外来業務

消化器内科は現在6名体制での診療を行っている。

外来診療においては曜日によって外来担当・内視鏡検査・超音波検査の担当医が異なり、診療担当内容も、消化管疾患、肝臓疾患、胆道・膵疾患など、ある程度専門性を前面に出して診療を行うことが可能となった。

2019年度の外来患者数は、総患者数：14,690名  
1日平均：51.4名であった。

月～金曜日において、午前中は外来2診体制で初診(予約外診察)・予約診察を行っているが、内視鏡検査などのマンパワーの関係で、午後は予約患者のみの診療となっている。

外来診療においては、待ち時間の短縮化などで患者が受診しやすいように心掛けている。また緊急での検査が必要な場合でも、これまで通り迅速に対応ができています。

今後も地域の先生方と連携を密にして外来業務を継続していきたいと考えています。

### ②検査業務

2019年度の内視鏡検査件数は、上部消化管内視鏡検査は2,141件、下部内視鏡検査は1,431件であった。治療内視鏡では早期胃癌ESD24件、上部消化管内視鏡止血術13件、内視鏡的胃瘻造設術18件、大腸ポリープ切除術247件、早期大腸癌ESD14件、内視鏡的十二指腸乳頭切開術77件、内視鏡的胆管ステント留置術84件などであった。ERCP関連の胆道系処置の増加が著しく、今後も質の高い医療を提供していきたいと考えています。

肝臓の治療に関しては、2019年度は肝腫瘍血管塞栓術44件、肝腫瘍ラジオ波焼灼術3件の治療実績があった。

### ③病棟業務

2019年度は計742人の入院があり、月平均61.8人、平均在院日数は11.8日であった。

今後も地域の開業医の先生からの紹介患者をいつでも受け入れることのできる体制を構築し、消化器内視鏡などによる検査・処置目的の入院も含め入院患者数の増加に対応できるようにしたい。そして、何より、患者一人ひとりの病態や状況に即したきめ細やかな診療業務をより一層行っていきたい。

## スタッフ (2019年4月1日現在 括弧内：医籍)

部長 神谷 雄二 (1993年)  
医長 升田 雄史 (1998年)  
医員 上野 真由美 (2007年)  
※2020年度より主任医長 升田 雄史

## 2019 年度総括

2019年4月より当科の外来診療が縮小の方針となり常勤医2名が退職した。それに伴って初診患者の受け入れを中止した。また、当科に通院されていた大半の患者の継続加療を他の医療機関にお願いすることとした。

診療体制縮小に伴って、糖尿病特定行為研修修了看護師や糖尿病療養指導士などのスタッフと当院での糖尿病診療のあり方や方向性に関して相談を重ねた。

入院加療および他科とのコンサルテーションに関してはこれまでどおり継続して、急性期疾患や周術期の血糖コントロールなどに対応した。2019年夏に入院血糖管理システムの電子化の導入に伴って入院血糖管理はより一層充実して、インシデントアクシデントの減少につながった。

外来業務に関しても、糖尿病療養指導のより一層の充実や糖尿病教室の簡便化などに関して話し合いを重ねた。現在中断している初診患者の受け入れをいずれ再開できるように診療体制を整えていく。

## スタッフ (2019年4月1日現在 括弧内：医籍)

部長	芦田 和博 (1997年)
主任医長	新村 剛透 (2005年)
医長	吉野 利尋 (2002年)
医長	中島 啓介 (2003年)
医長	眞壁 英仁 (2007年)
医長	河合 慧 (2009年)
医長	山田 亘 (2011年)
医員	福田 正 (2012年)
医員	宮崎 良央 (2013年)

## 2019 年度総括

当科開設から5年が経過した。当科の所属医師は全員が医局人事ではなく、一人ひとりが意志をもって集まってきた医師である。このチームでより一層地域に貢献するためにはどうすればよいか？この命題に対する取り組みを2018年に引き続き行った。

具体的には高齢化社会にある当院周辺環境、および夜間に急変・発症しやすい循環器診療を考慮すれば、今まで以上に断りのない救急診療が最も大切である。2018年と同様、病院全体として満床近くになる冬場にあっても、病棟看護師、救急スタッフなど様々な人々の不断の努力と協力をもってして、断りのない救急診療を展開することができた。

得意とする虚血性心疾患・下肢虚血治療のみならず、地域で増加している高齢者心不全診療にも注力し、積極的な受け入れを行ってきた。また、2018年から導入したカテーテルアブレーション治療件数も増加し、今や国民病とも言われるようになった心房細動の根治術として、少なからず地域に貢献できていると思われる。

具体的な診療内容としては、心不全、狭心症、心筋梗塞、下肢閉塞性動脈硬化症、各種不整脈など循環器全般に対する外来診療、入院診療、救急診療、カテーテル治療 (PCI、EVT)、ペースメーカー治療を行っている。高齢社会に伴い、様々な

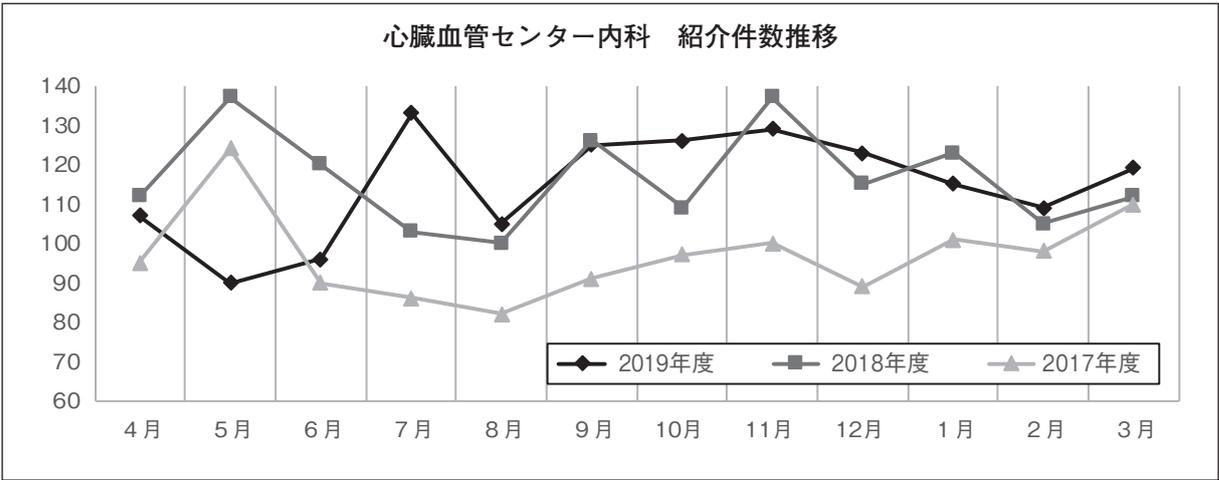
疾患を併発している患者が増加傾向にあるが、民間総合病院ならではの、様々な診療科と風通しの良い密な連携を構築することで、包括的な患者対応ができるように尽力している。地域連携室の密接できめ細やかなサポートにも感謝している。

またこの5年間、一貫していえることは、当院は様々なメディカルスタッフが常に全面的に協力してもらえる病院だということである。我々の分野も日進月歩であるが、メディカルスタッフが先取的に研修・知識習得に励んでもらえることにより、チームとして安全・安心な医療が提供できていると自負している。彼らの献身的な協力体制に対し、この場を借りて深く感謝したい。またこういった組織づくりを先導されている、院長、看護部長、事務長にも深謝申しあげる次第である。

一方で、国内外の様々な学会、研究会においても医師、スタッフともに多くの発表をしてきた。自施設における日常診療だけで独りよがりになってしまうのではなく、学会という批評の場で積極的に発表してくれたチームの仲間に敬意を表する。これからも様々な循環器診療、学会活動といったoutputを通じて個人的にもチームとしても人間的成長を目指し、より地域に貢献できる診療科を目指したいと思う。

実績

図1



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度	107	90	96	133	105	125	126	129	123	115	109	119	1,377
2018年度	112	137	120	103	100	126	109	137	115	123	105	112	1,399
2017年度	95	124	90	86	82	91	97	100	89	101	98	110	1,163

図2

PCI	381件
心臓カテーテル検査	264件
アブレーション	76件
ペースメーカー留置	67件

診療部

## スタッフ (2019年4月1日現在 括弧内：医籍)

副院長 兼 外科部長	郷地 英二 (1986年)
消化器外科部長	野澤 聡志 (1990年)
外科主任医長	齋藤 徹 (1998年)
外科主任医長	永井 啓之 (1998年)
外科医長	横山 元昭 (2002年)
外科医員	藤井 康矢 (2015年)

## 2019 年度総括

胃癌・大腸癌・肝胆膵領域の癌を中心とした消化器がんに対する手術・化学療法を積極的に行った。また、胆嚢結石症などに対する腹腔鏡下手術、鼠径ヘルニアを中心としたヘルニア手術などの良性疾患治療、穿孔性腹膜炎やイレウス、急性虫垂炎・急性胆嚢炎など、急性腹症の積極的受け入れと緊急手術の実施など、近隣の医療機関や当院の各内科と連携し、地域のニーズに応えられるよう努めた。2018年度は6名体制で臨み、緊急手術を要する症例へも積極的に対応した。

### ○消化器悪性腫瘍の集学的治療

胃癌、結腸直腸癌、肝癌、膵癌、胆道癌などに対し、

1. 手術治療 (腹腔鏡手術を含む)
2. 化学療法 (外来化学療法を含む)

を軸として積極的に治癒を目指して治療している。胃癌・結腸直腸癌など術後補助化学療法が標準化されてきており、患者の状態を十分検討した上でこれら補助療法の施行により根治性を高める治療を行っている。低侵襲と考えられる腹腔鏡下手術 (結腸切除術、胃切除術) も、安全性を十分確保しつつ積極的に採用している。一方、大腸癌イレウスなど準緊急手術を要する症例も内科との連携により安全に根治性を保つ治療を行うなど、病状に応じて患者のニーズに幅広く対応している。

原発性肝癌・転移性肝癌に対する肝切除術、肝胆膵領域がんの膵切除術など高難易度の治療を安全に施行している。手術前後の栄養管理や術前からリハビリテーションを積極的に導入するなどにより、超高齢者における大手術も安全に施行している。

近年、大腸癌、膵癌などにおいて腫瘍縮小効果が高い化学療法が登場している。局所進展により当初切除不能な腫瘍が化学療法により切除可能となった症例もあり、積極的な治療に取り組んでいる。

当院ホームページの外科・消化器外科紹介に、当科の扱う疾患・治療について一般の方にも分かりやすい説明を掲載した。

### ○一般外科領域の手術

鼠径ヘルニア手術、腹腔鏡下胆嚢摘出術など入院期間の短縮に努めている。腹腔鏡下虫垂切除術や、急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術など、鏡視下手術の比率が上昇した。

### ○「National Clinical Database」(NCD) への手術症例登録

2011年1月から運用された外科系の専門医制度と連携したデータベース事業「National Clinical Database」に継続参加している。

## 実績

### ○2019年度の主な手術実績

胃癌	18例
結腸癌	36例
直腸癌	6例
肝切除術	5例
膵手術 (膵頭十二指腸切除など)	6例
胆石症	73例
虫垂炎	37例
腹膜炎 (穿孔性など)	9例
腸閉塞手術	22例
ヘルニア	100例

### ○2019年度の化学療法実績

2019年度は胃癌、大腸癌、膵癌、胆道癌の各疾患に対して入院化学療法 53件、外来化学療法 461件を実施した。

## スタッフ (2019年4月1日現在 括弧内：医籍)

副院長 兼 部長 大内 基史 (1987年)  
 主任医長 竹内 健 (1996年)  
 主任医長 早川 信崇 (1999年)

## 2019 年度総括

## 1. 検査・処置治療

- ①気管支鏡：4件
- ②気管支動脈造影・塞栓術/右心カテーテル検査：22件
- ③CT下肺生検3件

## 2. 手術症例

合計：84件

- ①肺癌：26例
  - (ア) 開胸葉切：5例
  - (イ) VATS (補助下) 葉切：5例
  - (ウ) SITS：SITS (単孔式完全鏡視下) 葉切：16例

- ②肺アスペルギルス症：6例
  - (ア) 葉切：5例
  - (イ) 胸膜肺全摘術：4例
- ③NTM：7例
  - (ア) SITS葉切：2例
  - (イ) 開胸葉切：5例
- ④気管支拡張症：0例
- ⑤自然気胸：25例 (VATS)
- ⑥巨大肺のう胞症：2例
- ⑦膿胸：4例
  - (ア) VATS洗浄：3例 (急性)
  - (イ) 大網充填術：1例
- ⑧胸腺腫：胸骨正中切開拡大胸腺摘出術：4例
- ⑨胸壁腫瘍・縦隔腫瘍：4例
- ⑩肺生検：0例 (間質性肺炎など)
- ⑪転移性肺癌：3例
  - (ア) VATS部分切除：2例
  - (イ) SITS葉切：1例
- ⑫肺化膿症：0例
- ⑬その他：5例

スタッフ (2019年4月1日現在 括弧内：医籍)

院長 林 泰広 (1985年)  
 部長 松井 和夫 (1978年)  
 医長 鳥居 直子 (2007年)  
 医員 石田 航太郎 (2014年)

2019 年度総括

耳鼻咽喉科は、基本的には外科系の診療科であるが、実際には頭頸部の疾患すなわち鎖骨から頭蓋底におよぶ領域のさまざまな疾患（脳と眼の疾患を除く）を取り扱う総合診療科という性格を有している。

乳幼児から老人までの、難聴、めまい、顔面神経麻痺、アレルギー性鼻炎、嗅覚・味覚障害、言語・発声などに関わる障害、呼吸、嚥下などにも関わる障害、種々の頭頸部腫瘍など、広くカバーしている。

当科では耳鼻咽喉科疾患全般を対象疾患として扱っている。入院治療を要する疾患としては、急性の扁桃炎、咽喉頭炎、扁桃周囲炎・膿瘍、突発性難聴、めまい、顔面神経麻痺、手術治療で改善の望める鼻疾患、頭頸部の腫瘍などである。

専門外来として、補聴器、嚥下・音声などを行っている。これらは、予約制で行っている。

当科の最も得意とするものは、難聴に対する手術治療である。鼓膜穿孔、耳漏、耳閉感などを伴う中耳の病気で、手術治療により耳症状の改善が望める疾患である。これに対して耳科手術（鼓室形成術・アブミ骨手術など）を行っている。

また、睡眠時無呼吸症候群に対しては、診断として1泊入院のPSGを中心に行っている。

その他、頭頸部の腫瘍のうち、咽頭・喉頭癌などの悪性腫瘍が疑われた場合は当院に放射線治療の設備がない関係で、他院に紹介している。

一般外来については、横浜市立大学より外来に付いて診療していただいているため、平日初再診を2-3診体制で行っている。松井のみ完全予約制である。

専門外来は、補聴器外来と音声・嚥下外来をこれまでと同様に行っている。

手術に関しても、2018年と同様、火曜・水曜・金曜に行っている。

実績

全身麻酔症例数 293 例

耳科手術	219 例
鼓室形成術	121 例
慢性中耳炎	55 例
真珠腫性中耳炎	63 例
中耳奇形	3 例
鼓膜チューブ挿入術	24 例
人工内耳手術	0 例
アブミ骨手術	6 例
顔面神経減荷術	4 例
先天性耳瘻管摘出術	2 例
外耳道形成術	2 例
鼓膜形成術	8 例
乳突削開術	50 例
試験的鼓室開放術	0 例
中耳根本術	0 例
内リンパ嚢開放術	0 例
聴神経腫瘍摘出術	0 例
鼓膜切開術	2 例
鼻科手術	31 例
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	11 例
鼻中隔矯正術	8 例
鼻甲介切除手術	7 例
視神経管開放術	0 例
涙嚢・鼻涙管手術	5 例
眼窩吹き抜け骨折手術	0 例
顎・顔面骨折整復術	0 例
鼻外手術	0 例
口腔咽喉頭手術	33 例
扁桃摘出術	26 例
口蓋扁桃摘出	26 例
アデノイド切除	5 例
舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術	3 例
口蓋垂・軟口蓋形成術	0 例
舌・口腔良性腫瘍摘出術	2 例
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	0 例
咽頭良性腫瘍手術	1 例
咽頭悪性腫瘍手術	0 例
喉頭微細手術	2 例
喉頭腫瘍	2 例
嚥下・音声機能手術	2 例
嚥下機能改善	0 例
誤嚥防止	0 例
音声機能改善	2 例
(うち声帯ボリープ切除)	2 例
喉頭形成術	0 例
喉頭截開術	0 例
頭頸部手術	10 例
頸部郭清術	0 例
顎下腺	0 例
良性腫瘍	0 例
悪性腫瘍	0 例
耳下腺	1 例
良性腫瘍	1 例
悪性腫瘍	0 例
甲状腺	1 例
良性腫瘍	1 例
Basedow病手術	0 例
悪性腫瘍	1 例
鼻・副鼻腔	1 例
良性腫瘍	1 例
悪性腫瘍	0 例
喉頭	0 例
悪性腫瘍	0 例
リンパ節生検術	0 例
頸部嚢胞摘出術	0 例
顎下腺摘出術	1 例
食道異物摘出術	0 例
気管異物摘出術	0 例
異物摘出術 (外耳・鼻腔・咽頭)	2 例
気管切開術	3 例
上皮小体過形成手術	0 例
深頸部膿瘍切開術	0 例

スタッフ (2019年4月1日現在 括弧内：医籍)

部長 徳田 裕 (1978年)

部長 劉 孟娟 (1994年)

2019年度総括

当科は乳腺の悪性疾患から乳腺症、乳腺炎、乳腺膿瘍、乳腺線維腺腫、葉状腫瘍、女性化乳房症などの良性疾患まで対応し、乳がんを中心に診療している。特に初回の受診時にマンモグラフィ・乳房超音波検査を施行し、5mm以上の悪性を否定できない病変については超音波ガイド下細胞診や組織診を行い、迅速な診断を行っている。その結果当年度の乳がん手術症例数は49例であり、目標を大きく上回っている。

乳腺セカンドオピニオン外来の設置

2020年4月からの開始予定で、毎週木曜日午後、完全予約制でセカンドオピニオン外来を設置する準備をおこなった。予約の窓口はすべて地域医療連携室に集約し、あらかじめ紹介状、画像などの資料を入手し担当医に提示したうえで予約日時を決定し依頼者に返信する。また、受診の同意書、費用に関する覚書も作成した。このシステムは他診療科にも対応可能である。

ステレオマンモトーム生検

健診マンモグラフィで発見されたカテゴリ-3の微細石灰化巣に対するステレオマンモトーム生検の第1例目を2020年2月13日に行い乳がんであることが明らかとなり、4月24日に乳房温存術を施行した。穿刺技術については確認できたので、第2、3木曜日午後2件の予定で継続している。

乳がんおよび卵巣がんパネル遺伝子解析に基づくがん予防医療体制の構築

【目的】

コニカミノルタ株式会社の子会社であるAmbry Geneticsとの次世代シークエンサーを用いたパネル遺伝子解析結果に基づく乳がんおよび卵巣がん検診や予防医療を目指す。

【遺伝カウンセリング外来】

がんゲノム医療拠点病院である東海大学医学部付属病院遺伝子診療科と連携するとともに、同科所属の臨床遺伝専門医高橋千果先生（医学部医療倫理学教室講師）を非常勤医師として招聘し、遺伝カウンセリング外来を2020年4月より毎週水曜日半日開設するための基盤整備を開始した。

遺伝子検査の同意説明文書の作成、医療スタッフ育成のための勉強会の計画、BRCA検査の保険適応のための施設認定申請を行った。また、カウンセリングカルテの鍵付き保管スペースの確保を行った。

【倫理委員会審査】

乳がんおよび卵巣がん既発症者に対するパネル遺伝子検査実施の倫理委員会への申請を行い、審理の結果承認を得た。

実績

2019年度の主な治療実績

(2019年4月1日～2020年3月31日)

乳がん手術症例	49例
乳房温存術	33例
センチネルリンパ節生検	26例
腋窩リンパ節郭清	2例
切除のみ	5例
乳房切除術	16例
センチネルリンパ節生検	12例
腋窩リンパ節郭清	4例

## スタッフ (2019年4月1日現在 括弧内：医籍)

整形外科部長	天野 景治 (1993年)
整形外科医長	山田 寛明 (1997年)
整形外科医長	横谷 純子 (2000年)
関節外科部長	竹下 宗徳 (2003年)
整形外科医員	松永 昂之 (2016年)

## 実績

手術	
整形外科手術総数：	508件
脊椎手術：	19件
関節手術：	97件
(うち、人工関節手術：	94件)
外傷手術・他：	392件

## 2019 年度総括

整形外科は従来から千葉大学整形外科の関連病院であったが、2019年度より北里大学整形外科の関連病院にもなり、同大より専修医の派遣も受け入れ、上記スタッフにて、外来、入院、手術といった診療にあたった。

- ・外来は月曜～土曜日の毎日午前、と金曜日午後専門外来(土曜日は2019年8月まで)
- ・手術は原則的には月曜、火曜、水曜、木曜日の午後、適宜午前中や金曜日に手術室の空き状況に応じて行った。四肢の外傷を中心に、股関節、膝関節の人工関節置換術、その他運動器疾患の手術を行っている。2018年度よりもスタッフが増員されたため、手術数も340件から508件へ増加。

### 診療体制：

2019年4月より2019年9月まで、上記常勤4名+job-share1名の診療体制。2019年10月から2020年3月までは、それに加え千葉大学からの卒後3年目の専修医：永井彬登医師が加わり診療にあたっていた。

### 外来診療：

午前一般外来

月曜3診、火曜から金曜：2診、土曜1診で診療。

金曜午後 膝・股関節外来

スタッフ (2019年4月1日現在 括弧内：医籍)

関節外科部長 竹下 宗徳 (2003年)  
 医員 松永 昂之 (2016年)  
 医員 永井 彬登 (2017年)

概要

生まれ育ちの保土ヶ谷への思い入れが強く2016年に赴任した。

整形外科は分野が多いため、普段は整形全般を担当している。一般整形である四肢骨折外傷手術以外に、専門として、股関節、膝関節の変形性関節症、関節リウマチ、特発性大腿骨頭壊死（難病指定・医局の所属班が厚労省研究班）、特発性膝骨壊死といった疾患に、低侵襲手術手技での人工関節手術を行っており、最小侵襲手術の中でも最難とされる筋腱完全非切離でほぼ全例行っている。低侵襲な人工膝関節単顆置換術も行っている。術前の自己血貯血を免除し、ドレン留置をなくすことで早期リハビリテーションが実現した。人工関節の周囲骨折・ゆるみ・破損・脱臼・感染など、他院での術後トラブルに対しても専門的な評価や手術を行っている。

実績

人工関節手術 148例  
 ・人工股関節全置換術THA 77例  
 ・人工骨頭置換術BHP 29例  
 ・人工股関節再置換術revision 3例  
 ・人工膝関節全置換術TKA 34例  
 ・人工膝関節単顆置換術UKA 3例  
 ・人工膝関節再置換術revision 2例  
 整形外科手術総数 508例

2019年度総括

人工関節手術目的での、地域からのご紹介に加えて実際に当院で人工関節手術をお受け頂いた患

者発信の口コミでの受診が年々増えている。相乗効果も非常に大きく、整形外科全般で、手術数や外来・入院数など年々上昇の一途で、年間の人工関節手術は約150例、手術総数は500例を超えた。密な術前計画で、より短時間で、より良い内容の、最新の根拠ある手術を患者に提供したい。また、より一層、近隣の医療機関と、シームレスな地域連携を充実させたい。

従来どおり、千葉大学整形教育関連病院に加え、2019年から北里大学整形教育関連病院にもなった。北里大学整形外科専門研修プログラムの連携施設入りの初年度として、2019年4月から松永昂之医師が診療にあたり、2020年4からは矢野博之医師に引き継がれた。ともに、当院を第1希望で選択してくれたことは特記すべきである。

千葉大学整形外科専門研修プログラムの連携施設としては、2019年10月から永井彬登が診療にあたった。

引き続き、千葉大学・北里大学の2つの医局の若手教育病院としての大きな使命を果たしたい。

また同時に、私と旧知の仲の千葉大医局の後輩達を常勤として獲得するべく活動しているが、その第1弾で2020年4月から大田光俊医師が赴任し診療にあたる。

さてトピックスとして、2020年の3月に、膝や股関節の変形性関節症への最先端治療として、再生医療を導入した。法律で厳しく制限されている治療法で、厳しい基準をクリアし国に届け出が受理された医療機関のみで施行できる特殊な治療法である。導入した再生医療は、患者から採血し、多血小板血漿を加工したものを関節内注射し、関節内の炎症バランスを整える方法で、日帰りで行える。従来は、薬物療法やリハビリテーション、ヒアルロン酸注射などで効果が無い場合、次の選択肢は手術考慮だったわけで、そのちょうど間における最新のバイオセラピーが当院でできる意義は大きい。

スタッフ (2019年4月1日現在 括弧内：医籍)

部長	木下 真弓 (1987年)
主任医長	千葉 桃子 (1990年)
医長	大杉 枝里子 (2005年)
医員	小川 賢一 (1989年)
医員	佐藤 理恵 (2000年)
医員	佐藤 恵子 (2005年)
医員	川名 由貴 (2008年)
医員	日暮 亜矢 (2008年)
医員	大熊 歌奈子 (2009年)

2019 年度総括

当麻酔科は手術麻酔 ペインクリニック 緩和ケア外来を行っている。

手術室の運営に関しては、2019年度は新病棟の手術室の引越しのために一時的に手術件数を抑制している。2019年7月18日から21日の4日間手術室を閉鎖して梱包・移動・開梱をし、清掃、清潔度の確認を行い、無事7月22日より手術を再開した。多くの方に御協力頂き、感謝している。

手術麻酔については、周術期の管理を行っている。術前に術前外来を火・木・金曜日の午後に枠を設け、基本的に手術数日前に診察を行い、個々の患者に適切な麻酔方法、麻酔薬を選択し、安心して手術を受けて頂くように説明している。術後に痛みが生じないように、痛みを感じたときに自分で薬剤を投与できるPCA(patient control analgesia)法、手術前にエコーを使った伝達麻酔(体幹ブロック(腹直筋鞘ブロックや腸骨鼠径・腸骨下腹神経ブロック・TAPなど)、下肢ブロック(坐骨神経ブロック、大腿神経ブロックなど)を施行している。

当院では麻酔指導医 麻酔専門医が専従し、安心して手術を受けて頂ける環境を整えている。

ペインクリニック・緩和ケア外来は小川賢一先生を迎え、ペインクリニック外来の充実を図り、2020年度開棟予定の緩和ケア病棟の準備を始めている。

ペインクリニック外来は月曜～金曜日まで午前午後通じて外来を行っている。新患外来は週3日火・水・木に行っている。硬膜外ブロック、眼窩上および眼窩下神経ブロック、星状神経節ブロック、肋間神経ブロック、腕神経叢ブロックなどに適宜エコーを併用して行っている。週2日火・木午前に透視下ブロックを予定し、頸部/胸部/腰部神経根ブロック、高周波熱凝固およびパルス法、腰部交感神経節ブロック、腹腔神経叢ブロックなどを施行している。脊髄神経刺激装置のトライアルや埋め込みを開始し、入院治療も可能である。

緩和ケア外来は月曜から金曜日まででご本人の化

学療法日や当該科の診察日にあわせて来院して頂き、痛の治療時期の早い遅いにかかわらず、症状緩和を行っている。がんおよび非がん(呼吸不全、腎不全、心不全など)が対象である。痛みや症状緩和を積極的に行っており、他院からの外来や入院患者の受け入れも行っている。また、ご本人の意向に添って、在宅療養への橋渡しも行っている。入院の際はがん看護専門・緩和ケア認定・がん性疼痛看護認定などの看護師やリハビリテーション、栄養士、緩和薬物療法認定薬剤師など緩和ケアチームが介入している。

現在B棟改修を行い、2020年8月の緩和ケア病棟開設に向け、設備や教育などの準備を着々と行っている。

実績

2019 年度入院・外来神経ブロック

METHODNAME	合計
星状神経節ブロック	417
胸部硬膜外ブロック	1
眼窩上神経ブロック	30
眼窩下神経ブロック	4
おとがい神経ブロック	3
坐骨神経ブロック	1
大腿神経ブロック	3
肩甲骨神経ブロック	3
肋間神経ブロック	146
仙骨部硬膜外ブロック	163
腕神経叢ブロック	78
腰部硬膜外ブロック	283
肩甲骨背神経ブロック	14
胸部神経根ブロック	1
浅頸神経叢ブロック	32
椎間関節ブロック	169
トリガーポイント注射	475
硬膜外ブロック持続注入	16
眼窩上神経ブロック(神経破壊剤またはサーモ)用ブロック	2
眼窩下神経ブロック(神経破壊剤またはサーモ使用ブロック)	3
腓骨神経ブロック	2
合計	1,846

部位	XRAYITEMSHORTNAME	合計
頸部	C2ガングリオンブロック	1
	神経根パルス(頸部)	14
	神経根ブロック(頸部)	5
胸部	神経根パルス(胸部)	14
	神経根ブロック(胸部)	20
腰部	硬膜外洗浄(腰部)	1
	神経根パルス(腰部)	44
	神経根ブロック(腰部)	25
	脊髄刺激装置植込術(脊髄電極留置)	1
	椎間関節ブロック(腰)	7
合計		132

## スタッフ (2019年4月1日現在 括弧内：医籍)

主任医長 北村 勝彦 (1982年)

## 2019 年度総括

少子高齢化の影響が地域における小児医療にも大きな負の圧力となっていることはこの数年の傾向から顕著に現れている。2019年夏に新規外来棟が開院し小児科外来も新たなスタートを切った。以前に比べやや狭小な空間であるが、機能的な外来診療が可能となり訪れる患者や保護者からの評価も高い。このまま順調なスタートを切ると思われた年明けに日本全土をおそったCOVID-19流行による受診抑制が地域小児科に与えている影響は多大である。特に慢性疾患の継続診療にも影響が開始しており、今後の経過が懸念されている。

少子化による日常生活の変化は小児心身症の増加と相関関係がみられ、夜尿症、起立性調節障害、慢性便秘、偏頭痛、その他不定愁訴を抱えて受診するケースが増えてきている。こうした患児に対応する専門医療機関や専門医が不足している

ことから当科も積極的に心身症診療に当たっている。特に夜尿症に関しては数年来受診者が後を絶たない。本院の検査課の迅速かつ的確なサポートもあり、治療成績も良好で保護者からの評価も高いものと自負している。

当科の守備範囲は主に保土ヶ谷区、西区、中区、南区であるが、横須賀線や相鉄線沿線からの受診も散見される。急性期疾患のほかに慢性的な心身症の受け入れが原因と思われる。

COVID-19の影響により榎医師によるてんかん外来が4月に閉鎖されたことは大変痛手である。他方、受診抑制は検診や予防接種といった保健活動にもみられ、発達障害、発育障害の発見の遅れや予防接種未施行による将来的な感染症流行が懸念されている。当科は横浜市からの要請を受けて5月下旬から集団検診とされている4ヶ月検診、1歳半検診、3歳児検診も開始している。

田野尻医師（非常勤）による育児相談も保護者から大変好評であることから、地域における子育て、ひいては少子化対策に微力ながらも貢献できているのではないかと自負している。

## 実績

## 年度別診療科別年間外来患者数

診療科 \ 年度	2015	2016	2017	2018	2019
小児科	5,388	5,151	5,540	5,093	4,517
産婦人科	—	—	—	—	—

## 年度別診療科別1日平均外来患者数

診療科 \ 年度	2015	2016	2017	2018	2019
小児科	18.3	17.6	18.8	17.4	15.8
産婦人科	—	—	—	—	—

スタッフ (2019年4月1日現在 括弧内：医籍)

部長 平野 進 (1991年)

## 概要

2016年1月1日に当科が開設され、同年4月から地域包括ケア病棟における訪問診療医からの在宅サポート入院（レスパイト入院）および高次医療機関や周辺急性期病院からの継続リハビリテーションや退院調整を主とした転院依頼を基本的に当科が担当する方針として入院受け入れを開始した。例年同様年間を通じて概ね5～10名程度の入院患者で推移したが、時に15名程度までの入院患者数となった時期も認められた。

2016年5月から隣接する有料老人ホーム横浜エデンの園の入所者訪問診療を週2回行い継続している。

外来診療は当科の性質上再診がないため、小職の前医からの担当患者の予約外来のみ継続した。

## 2019 年度総括

2018年度転院受け入れ31件、サポート入院69件の合計100件であったが、2019年度は転院34件と微増であったがサポート入院件数は97件と大幅に増加し合計131件と2018年度に比し約30%の増加となった。

訪問診療医からの新規の定期的レスパイト入院患者が増加したことが大きな要因であった。引き続き地域連携を強化して症例数の増加を図りたい。

高次医療機関や周辺の急性期病院などからの転院療養の受け入れに関しては、精神科疾患や血液内科疾患などを有し当院での受け入れが困難な

ケースや、急性期から脱していない症例の申し込みもわずかにあり全例受諾はできなかったが、年間を通じて安定した受け入れができた。

紹介病状と来院時の病勢とが大きく乖離しており、地域包括ケア病棟管理が困難で他科受け入れにて一般病棟での他科受け入れ依頼となった症例も散見された。

入院診療における変動する病状に関しての対応は必要に応じて院内ほぼ全ての科のご協力をいただき行った。当科の入院患者は基本的にかかりつけ医に戻り当科の再診がないことから、外来受診者数の増加は見込めないが、入院症例に関してはこの数年で緩やかな増加傾向になった。

エデンの園をはじめとする聖隷福祉事業団の関連施設との連携強化・発展が総合診療科設立の際の目標であったため、隣接する横浜エデンの園入所者の定期診療や当院専門外来への適時紹介、日中の往診対応などを継続して行った。居室への訪問診療は非常に好評で継続している。

また2017年4月より関連施設の横須賀愛光園への産業医業務出張を開始し継続している。

## 2020 年度への展望

地域医療機関からのレスパイト入院受け入れに関しては、開設当初より100%の入院受け入れを引き続き目指す。また転院依頼症例に関しても可能な限り受け入れの方針を継続するが、急性期治療を要する症例が散見され、1名科である当科の陣容では対応が困難であることがあり、今後の検討課題である。

入院管理患者数に関しては引き続き地域連携強化を強めて更なる受け入れ症例数増加を目指す所存である。

スタッフ (2019年4月1日現在 括弧内：医籍)

部長 平野 進 (1991年)

### 概要

当科が開設されて3年目、2019年7月には新外来棟にドック・健診室が移設された。事業規模の拡張に伴い多職種との連携と専従事務員の教育に力を注ぎ、業務全体が円滑化された。

医師については、呼吸器外科の診療応援継続に加え、2019年10月には婦人科医師の採用により新たに子宮がん検診を開始した。

2018年度に引き続き、健診をはじめとする保険外診療全般を行い、各種ワクチン接種や雇入就学時健康診断などの他、横浜市の住民健診、事業所の定期健康診断や個人利用の人間ドックが増加している。2018年4月より導入された健診結果管理システムについては随時プログラムの追加・修正を行い特殊健診や婦人科健診のシステム化も実現した。

### 2019年度総括

当科の認知度の上昇と専属職員の適正配置、健診管理システムの導入などにより、当科開設以来順調に受診者数が増加し、業務内容も年々大幅に拡充されてきた。

しかしながら、売上の大半を占めていた横浜市および横浜市職員共済組合が、がん検診の補助対象を2019年度より大幅に縮小。特に横浜市職員共済組合の内視鏡検査については、広範囲からの施設選定理由となっていたため、利用者は大幅に減少した。さらに、3月には新型コロナウイルスの影響から健診を控える利用者が増加し、2018年度多くあった年度末の駆け込み需要が大きく抑制されることとなった。

健診の内容についてはこれまで同様、市の推奨する住民健診が業務の主体であったが、2019年度新たに子宮がん検診を実施することで、若年層を含め女性の新規利用者獲得に貢献し、複合してその他がん検診の利用も伸びた。地域自治体との協力により8月10日の日曜乳がん検診の稼働率も高まっており、次年度は総合的な婦人科健診にも力を入れていく予定である。

横浜市職員共済組合を除く企業健診については協会けんぽの生活習慣病予防健診を中心に2019年度大きく伸び、次年度以降の収益安定化に期待する結果となった。

インフルエンザの出張集団接種事業は、2018年度より4社増の1校10社に行った。2020年度については新型コロナウイルスの動向に注視しつつ、新たな出張先の開拓をしていく予定である。

当科における健診では異常所見を認めた場合には、速やかに当該専門科に受診依頼して午前中に専門診察を受けていただけるというのが最大の特徴である。2020年度も引き続きこの病院で行う健診のメリットを受診される方々に提供しつづけることが肝要である。

### 2020年度への展望

2020年度は新型コロナウイルス感染症対策として「3密」を避けた受診環境の整備に努めつつ、収益を確保していく所存であるが、より一層スペースの確保が必要となり、各種認定獲得や契約増加のためにも健診フロアの独立化が今後の課題である。

また、婦人科を中心としたがんゲノム医療(遺伝子検査)については、事後フォローやがん未発症者への検査導入についてドック・健診室としても関わりを検討していく考えである。

スタッフ (2019年4月1日現在 括弧内：医籍)

主任医長 榮木 尚子 (1997年)  
 医長 丹羽 祥子 (2009年)  
 医員 露木 文 (2012年)

2019 年度総括

IOLマスター700が入ったことで、白内障手術の術後屈折誤差が減り、より良好な視力が得られるようになった。

概要

当院眼科では地域に根ざした幅広い診療を行っている。大学病院とも連携し必要に応じて専門医に紹介を行っている。

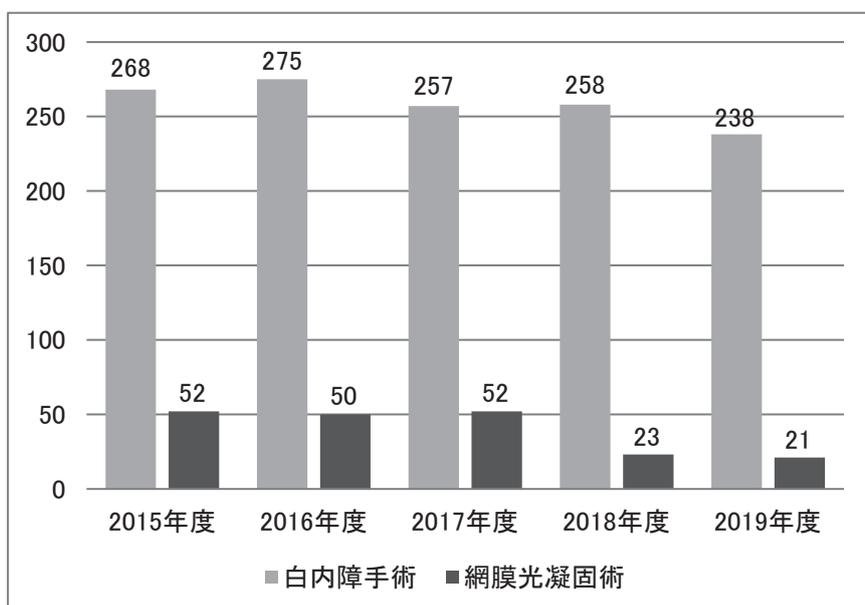
・一般外来

当院眼科では白内障手術を中心とした診療を行うとともに、結膜炎などの前眼部疾患、緑内障、糖尿病網膜症など幅広い診療を行っている。

・白内障手術について

毎週火曜日に白内障手術を行っている。入院は片目で3泊4日を基本に行っているが、患者希望に応じて1泊2日や2泊3日などの短期入院への対応が可能である。全身状態がよい方は、日帰り白内障手術の対応もできるようになった。手術は約1~2月程度で予定できる状況となっている。

実績



## スタッフ (2019年4月1日現在 括弧内：医籍)

部長 山口 裕之 (1993年)

## 2019 年度総括

今まで北里大学救急医学講座の山谷医師および聖マリアンナ医科大学救急医学講座諸先生方の助けを得て、日中は研修医を交えて救急医3人体制を作ってきたが、2019年4月からは近隣病院支援のため、月曜日、および水曜日の午後は山口が近隣病院へ外勤となった。(2019年12月まで)

そのため月曜日と水曜日の午後の人手不足は否めなかったが、日中の受け入れ症例の低下は認められなかった(日勤帯の依頼件数1,466件 受入れ数1,333件 受け入れ率 90.9%、転院搬送、心臓血管内科、脳神経外科を除く)。

また、拠点病院B(内科系医師、外科系医師が24時間常駐し、緊急開腹手術ができる体制)の維持は当直のできる内科系医師が退職したため困難となった。そのため2020年2月に拠点病院Bを返上し輪番制の病院群となっている。また、医師不在により緊急透析症例の受け入れが困難となっているため、今後の救急体制の維持・拡大のためにも内科系医師を中心とした医師の招聘が必須である。

また救急科は救急外来だけではなく午後の予約外の内科受診をする症例にも対応する必要がある、多忙な際には時間の制約はあるものの一般外来を指導する機会として研修医指導に当たることができた。

救急科として受け入れた症例のうち、専門治療を必要としない症例を救急科が入院治療を行っている。当院の入院患者も高齢の方が多い状況である。入院治療は終了しても退院後の生活支援などの問題があり、なかなか退院できない患者も多く存在するが、その際にはMSWの方々の多大なる協力を得ている。医師が患者の生活支援に時間を割く必要がなく非常に助かっている。

研修医教育に関しては患者のバイタルを安定化しながら、理学的所見をしっかりと取ることを重視しつつ、当院の診断機器を駆使して診断する方法を教授している。診断機器に恵まれている環境のため画像診断に頼る傾向が生じてしまうが、今後の成長のため診断機器がない医療施設でも対応できるように理学的所見をしっかりと取りながら患者の重症度、緊急性を判断するようし、画像は理学所見などの答え合わせのつもりで検査を行うように説明している。またOff the job trainingとしては日本救急医学会認定ICLSコースを3回開催した。

当院は3次救急疾患を受け入れることも十分できる設備・環境が整えられている。人手不足は否めないが、提供できる医療は当院で行い、当院での対応困難な疾患に関しては当院で診断を行ったうえでより高次の施設や、あるいは近隣の医療機関に依頼する形で地域医療に貢献できると考えている。Covid-19の蔓延する中で当院の立ち位置を失わないよう、様々な問題がある中でも当院でもできることに真摯に対応していきたいと考えている。

## スタッフ (2019年4月1日現在 括弧内：医籍)

副院長 兼 部長 新美 浩 (1985年)  
主任医長 石川 牧子 (1990年)

## 概要

- 当科は画像診断専門医による画像診断や臨床各科とのコンサルティングを主とする診療科で、特に地域医療機関との連携やモダリティの相互利用に最も注力していることを特色とする
- 日本医学放射線学会・放射線科専門医修練機関 (画像診断・IVR部門)
- 画像診断管理加算1、および冠動脈CT、心臓MRI施設基準
- 聖マリアンナ医科大学放射線医学講座 教育関連病院

## 2019年度総括

1. 2019年度の診療体制は、常勤医2名と非常勤医9名で、月間合計約2,100件のCT・MRI全体の65～70%の迅速読影と、コンサルティング、カンファレンスなどに対応した。2019年度の常勤医数は2名と変わりなく、2名とも放射線診断専門医、放射線科研修指導者である。非常勤医の体制は引き続き、聖マリアンナ医科大学病院、および同横浜市西部病院の放射線科からの診断専門医派遣が主体である。
2. 地域医療機関から依頼された全てのCT・MRI検査の読影診断を行い、地域の画像診断基幹施設の一つとして貢献し続けている。画像診断紹介数はここ数年順調な増加傾向にあり、新規依頼も年々増加傾向にある。画像診断の2019年度、年間紹介数はCTとMRIの合計約2,200件で、紹介患者比率も院内紹介患者数の約20%超を占めている。
3. 2016年に、組織改編の一環として、放射線科医と診療放射線技師による画像診断を合理的かつ包括的に管理する目的で画像診断センターを設置し、センター長は放射線診断科部長の新美が、副センター長は診療放射線技師長の釜谷が担当している。センター設置により、放射線科医と放射線技師の連携をより密接にし、より効率的に質の高い画像診断を提供していくことを目的としている。
4. 2017年に、電子カルテの導入、PACSシステムの更新、オンラインでの画像検査予約と画像レポート閲覧のシステム導入を行い、順調に運営されている。システム導入後は、当センターで撮像された画像と診断レポートが、極めて短時間で依頼元の医療機関においてオンライン上で閲覧可能となり、今後はさらに地域におけるクリニックの先生方の利用増加を期待している。
5. 2019年7月に待望の新外来棟がオープンし、新外来棟には最新型の超高精細CTの導入 (Precision) と新たに3テスラMRIの増設を行い、外来診療のCTは256スライスCTと超高精細CT、および最新型の3TMRIによる三台体制で診療を開始した。また、入院診療としては、原則病棟専用として従来の64列CTと既存の3TMRIを使用している。
6. 超高精細CTは160列のマルチスライスCTであるが、解像度、空間分解能が従来CTに比して飛躍的に向上し、肺縦隔や腹部骨盤領域を含め種々の臓器で極めて高精細な画像が得られるほか、一部領域ではAIを利用した再構成が導入され、特に低被ばく撮影時における高画質の画像再構成に力を発揮している。
7. 過去五年間の画像診断実績推移 (表参照) をみると、2018年度に比してCT検査件数、特に院内検査件数がやや減少し、MRI検査数は増加傾向にある。その原因として、年度途中で月曜日休日診療の開始によるプラス影響と、外来棟引っ越し作業に伴うCT装置の一時的な稼働停止や、糖尿病内科、消化器内科、腎臓内科など内科医師の離職に伴うマイナス影響が大きいと考えられる。造影検査の比率減少は、脳神経外科医の増員に伴う相対的な頭部単純CT件数の増加が一因と考えられる。MRIの検査数増加は、主たる要因としては脳神経外科の増加が考えられる。
8. 次年度は内科の診療体制の再構築による検査件数の増加が期待される。また、紹介患者数はやや頭打ち傾向にあるが、今後は検査モダリティ選択の最適化や土曜日診療の活性化などによる拡大を図っていく必要がある。

実績

過去5年間の画像診断実績推移(2015～2019年度)

		2015年度 月平均	2016年度 月平均	2017年度 月平均	2018年度 月平均	2019年度 月平均	対前年度比 (%) 2019/2018
一般撮影	件数	3,717	4,130	4,308	4,409	4,280	▼2.9
透視造影	件数	116	122	106	123	115	▼6.5
CT	件数	1,238	1,385	1,544	1,615	1,541	▼4.6
	紹介件数	103	110	141	167	165	▼1.2
	心臓CT	84	75	88	96	88	▼8.3
	造影率	31.3%	28.0%	25.1%	24.3%	22.3%	▼8.2
	紹介率	8.3%	7.9%	9.1%	10.3%	10.7%	△3.9
MRI	件数	289	368	477	515	568	△10.3
	紹介件数	15	18	15	18	18	△0.0
	心臓MRI	2	3	4	4	3	▼25.0
	造影率	9.3%	9.4%	6.5%	6.0%	5.2%	▼13.3
	紹介率	5.2%	4.9%	3.1%	3.5%	3.2%	▼8.6

## スタッフ (2019年4月1日現在 括弧内：医籍)

部長	末松 直美 (1978年)
臨床検査技師	日比野 智博 (2010年卒／細胞検査士2013年取得)
	阿部 正嗣 (2011年卒／細胞検査士2012年取得)
	小川 健一 (2019年卒)
	牧田 佳奈 (2019年卒)
事務員	柴崎 修一

## 概要

2019年度7月に新病棟へ引越した。新しい環境は、病理特有のホルマリンや有機溶剤への暴露の心配もなくなり、スタッフのモチベーションも大いに向上した。検体数も順調に伸び、充実した1年になると期待されたが、最後の四半期は、内外からの種々の影響で検体数が大きく落ち込んでしまった。しかし、そのなかにあってもスタッフ一人一人がルーチン業務の見直しなど、将来につなげるための改善に取り組んだ。

## 2019 年度総括

- ・4月より小川健一、牧田 佳奈の臨床検査技師2名が新規採用され、臨床検査技師4人体制となった。予てより、Jターンを希望していた阿部 正嗣は、12月をもって退職、折よく公募のあった石巻日赤病理検査課へ2020年1月に移籍した。先の施設での活躍を祈る。
- ・2019年度、第四四半期は、医師数の減少という病院の事情や、その後の新型コロナウイルスによる世上と相まって病院の実活動が低下し、これらが病理診断科にも大きく影響した。
- ・図1に見るように、2019年度は組織診検体数が2000件を超えると思われたが、第四四半期の落ち込みで1944件／年にとどまった。それでも2018年度の検体数1818件／年を大きく超えた。
- ・細胞診件数は、10月から婦人科健診での細胞診が始まり、第三四半期の検体数が大きく伸びた。婦人科細胞診検体は、細胞検査士への入口となる分野なので、新人2名にとって良い刺激になることを期待している。
- ・2019年度も、琉球大学腫瘍病理学講座 吉見直己先生の教室から、病理専攻医 中江正和先生が1か月の研修に来られた。吉見教授は2019年度をもって退官されるが、今後も専攻医派遣など交流が継続することを願う。
- ・2019年3月より、遺伝子変異自動解析装置 i-densy による遺伝子検査が院内化された。院内で実施された検査はEGFR：22件、RAS/BRAF：46件、IDH1/2：2件、UGT1A1：5件で、計75件であった。
- ・例年のごとく、病理検体数の四半期毎の推移(図1)と、剖検症例の一覧(表1)、C.P.C.開催一覧(表2)、および、定例で開催されている臨床科とのカンファレンス開催状況(表3)を次ページに示す。

実績

図1 2019年度 四半期ごとの検体数の推移および5年間の四半期平均

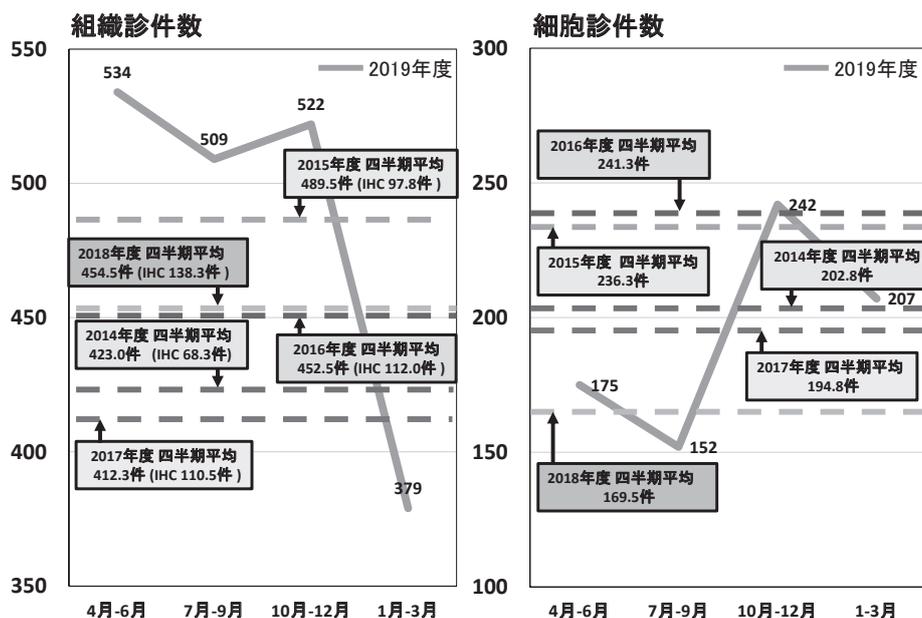


表1 2019年度 剖検症例の一覧

剖検番号	死亡月日	剖検月日	執刀医	出所	担当医	患者年齢	患者性別	臨床診断
0075	03/30	04/01	末松	外科	横山	87	M	上行結腸癌、縫合不全・腹腔内膿瘍、誤嚥性肺炎
0076	08/11	08/13	末松	救急	山口	76	M	大腸癌、肝臓腫瘍、腸管の血流障害
0077	08/28	08/28	末松	心血	河合	87	F	うっ血性心不全、高血圧症
0078	09/09	09/10	末松	消内	吹田	59	M	胆管細胞癌疑い、多発肝転移
0079	12/03	12/03	末松	心血	新村	80	F	急性肺障害、心筋梗塞、脳塞栓
0080	03/13	03/16	末松	救急	山口	78	M	AAA rupture

表2 2019年度 C.P.C. 開催の一覧

開催回数	開催月日	剖検番号	患者年齢	患者性別	臨床診断	病理診断
115	6/18	0074	91	女	巨大膵嚢胞 腹腔内出血	膵の浸潤性粘液性嚢胞腺癌＋多発する胃・大腸の早期癌
116	10/15	0075	87	男	上行結腸癌 縫合不全・腹腔内膿瘍 誤嚥性肺炎	上行結腸癌右半結腸切除術後縫合不全合併65日の状態 麻痺性イレウス E.coli (ESBL+) 菌血症
117	11/19	0076	76	男	大腸癌 肝臓腫瘍 腸管血流障害 咽頭癌照射後	異時性重複癌 1) 咽頭癌照射後状態 2) 穿孔したS状結腸癌と穿孔部に癒着する直腸S状部 細菌性腹膜炎と腸管の麻痺性イレウス→腹部コンパートメント症候群 高血圧性腎硬化症と副腎皮質過形成
118	12/24	0077	87	女	うっ血性心不全 高血圧症	2重がん 1. 胃癌による肺の癌性リンパ管症 2. 上行結腸癌
119	2/25	0078	59	男	胆管細胞癌疑い 多発肝転移	肝内胆管癌とその転移

表3 2019年度 臨床科とのカンファレンス開催状況

	開催数	定例開催頻度		
外科 術前朝カンファレンス	50	週1回	木曜日	
消化器内科 内視鏡カンファレンス	8	月1回	第2火曜日	2019年12月より月1回 第3火曜日
呼吸器・放射線科カンファレンス	18	月2回	第1、3月曜日	2019年1月より月1回 第3月曜日
乳腺科カンファレンス	9	月1回	第4火曜日	2020年1月より月1回 第1火曜日

2019 年度総括

1. 入院前支援機能を構築する
2. 患者の治癒力を高めるための看護力の向上
3. 認知症・高齢者ケアの充実
4. 災害に強い組織
5. 新外来棟への安全で効率的な移行
6. 働きやすい環境醸成

■患者支援センターに専従看護師を配置し、看護部全部署のリンクナースや係長を中心に約1,700件の入院前支援を実現した。早期からの退院支援介入により、退院や転院も計画的な病床管理が可能となった。高齢化に伴い主介護者が入院となるケースでは、入院前支援面接と同時に要介護者のサポートを多職種で連携・調整することで安心した入院生活の環境提供につなげた。

■職員や地域住民を対象に2018年度よりがん看護専門看護師によるACPの普及啓発に取り組んできた。2019年度は1,300件以上の患者の意思決定支援がなされ、個を尊重した支援が浸透してきている。呼吸器看護の専門性の向上を目的として「息すっきりコース」を2年かけて開講し、3名の受講修了者が誕生した。また特定行為研修修了者の活躍、ジェネラリスト教育、看護ナラティブの共有は看護の専門性を高め、「ともに回復過程を踏める看護の実践」の理念実現に寄与した。

■看護部一丸となり、認定看護師や係長を中心に身体拘束について三原則の理解と遵守・弊害や人権の尊重の理解を深め意識改革に働きかけた。「身体行動制限0」を目指し身体拘束の補助具の一つ以上の使用「0」を全職場で達成できた。四季を取り入れた認知症院内デイケア開催や、認知症対応向上研修受講者の増員および認知症サポーター養成講座の開催など、認知症ケアの充実を図った。

■新外来棟への移転を機に新システムの導入となり、運用変更に伴う患者の混乱を予測し、多職種連携によるチームで対応した。新設した患者支援センターは、初診患者の一括問診から検査説明・医療相談や入院前支援と多岐にわたる機能を集約しており、患者の動線を考慮した運用とした。救急室・中央処置室の拡張や看護外来・面談室も確保され、プライバシーの確保と安心の環境提供につながっている。

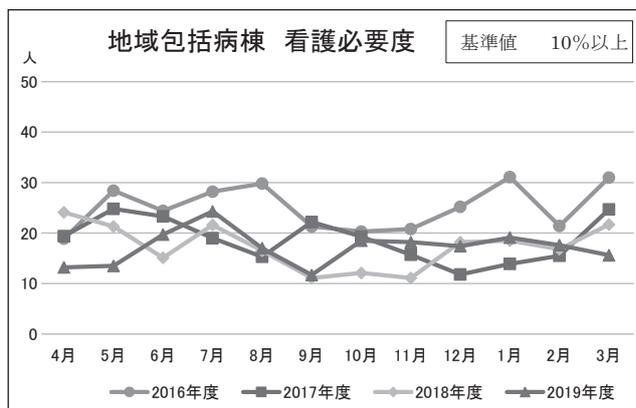
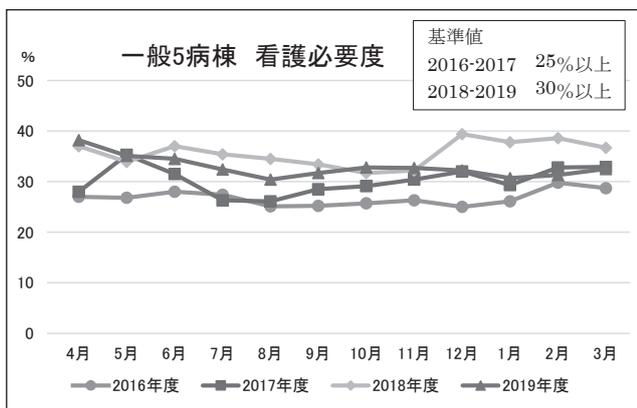
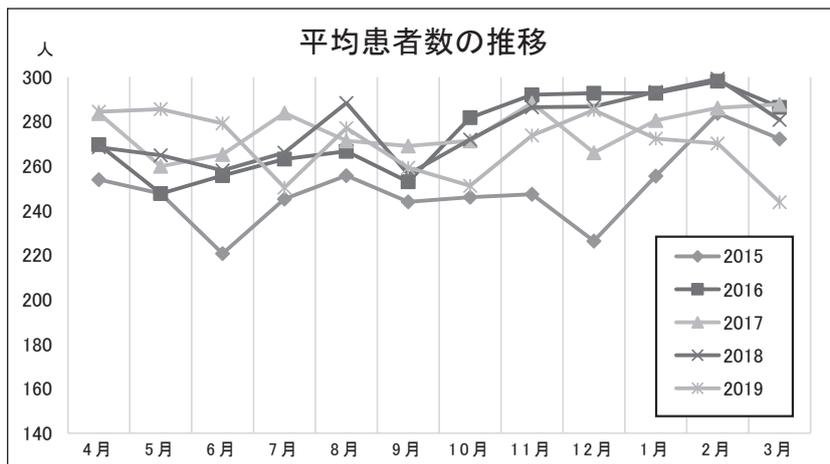
■ボックスシートの導入、入院書類の電子化など業務削減の推進、シート交換専門スタッフの雇用とタスクシェアリング、勤務体制の変更により、約7,500時間の超過勤務削減が実現した。新規看護専門学校の実習受け入れ、2018年度を大幅に上回る170件の看護学生のインターンシップ受け入れ、各種病院説明会の参加などから募集を上回る応募があり、一般入院基本料1の基準の必要看護要員の確保につながった。救急体制の変更や新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも常に働きやすい環境醸成を検討、推進している。

実績

病床稼働率

(単位%)

病棟(定床) / 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
東2病棟	53	87.9	88.4	85.1	70.0	84.4	73.0	72.0	84.0	89.5	77.3	78.3	62.0	79.3
東3病棟	52	95.4	91.7	94.2	82.3	89.5	87.1	84.5	86.8	93.9	92.7	84.0	78.0	88.3
東4病棟	51	97.5	101.3	99.2	85.1	92.2	91.9	81.5	94.2	103.4	98.9	97.2	83.0	93.7
西1病棟	37	95.0	95.4	90.6	89.4	97.6	84.3	79.2	89.2	92.7	92.2	92.5	79.3	89.8
西2病棟	47	99.0	99.2	100.0	96.6	99.2	99.4	97.0	100.4	97.5	96.9	100.7	98.0	98.6
西3病棟	46	96.2	98.2	90.9	78.4	94.7	83.5	89.8	97.1	97.0	92.1	92.0	88.7	91.5
急ユニ	8	81.7	79.8	76.3	80.2	81.9	76.7	65.7	65.4	67.3	58.9	69.0	73.0	73.0
脳ユニ	6	100.0	97.3	100.0	100.0	99.5	99.4	100.0	98.3	100.0	98.9	100.0	100.0	99.5
全病棟	300	94.8	95.2	93.0	83.4	92.3	86.4	83.7	91.2	95.0	90.8	90.0	81.3	89.8



## 2020年度目標

- 多彩な病院機能を十分に生かした病床管理と高稼働の維持  
回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟開棟準備と看護師教育  
緊急入院時や他職種介入による入退院支援の強化
- 共に回復過程を踏める看護実践能力の向上  
身体行動制限の削減、重症化予防  
KIDUKI、KYT、デスカンファレンス、院内認証専門コースの拡大  
RRS/RRTの活用、ナラティブ、傾聴と共感の実践

- 口腔ケアを主として、患者にとって心地よく、治癒力を高められる基本的看護の提供  
院内の口腔ケアチームの結成とシステムづくり  
周術期口腔ケアの強化  
誤嚥性肺炎予防
- 本気モードの災害対策
- 地域住民の健康を支える看護活動  
認知症予防、骨粗鬆症予防、感染予防、ACP推進  
認知症サポーターの養成
- 働き方改革の推進と働きやすい職場環境の醸成  
看護部内外とのタスクシフト・タスクシェアの検討実施  
時間管理  
思いやりと良好なコミュニケーション

委員会名	開催回数	年間活動目標（大項目のみ）	活動実績
在宅療養支援 (TUNAGU) 委員会	9回	1. 在宅療養支援において、中心的役割を担うことができる 2. リンクナースの活動を通して病院と地域の「TUNAGU」をひろげる	1. 毎月退院支援に関する困難事例の検討各職場の退院支援の課題への取り組みを可視化 2. リンクナースが入院支援の目的や役割を理解し実践 往診医や訪問看護師、ケアマネを交えてのデスクカンファレンスを実施 地域の在宅関連機関見学（地域ケアプラザ、老健、グループホーム、小規模多機能）
NQC (看護ケア質向上) 委員会	11回	質の高い看護を効果的・効率的に提供するための業務検討 1. 看護必要度測定監査の継続 2. 看護・検査行為基準の整備 3. 看護技術の見直しと技術向上の推進	1. 委員の必要度院内指導者研修への参加。月一回の必要度の監査を実施。必要度の精度をあげる目的で監査の結果と留意点を院内スタッフに対しNQC NEWSとして配信を実施した。 2. 既存の看護・検査行為基準の見直しを実施。新規で依頼された項目の作成・追加。看護助手業務手順の見直しを手がけた。 3. 口腔ケア実施状況を月一回ラウンドし各職場へフィードバックした。計画の評価とOAG評価が行えているか確認を実施。歯科診療との連携で必要な内容を検討した。
看護リスク マネジメント 委員会	11回	1. 2019年度も患者誤認ゼロを目指す（レベル0は除く） 2. 身体行動制限0をめざし、安易な行動制限をなくす取り組みを行なう 3. 委員としての知識・技術の習得	1. 2018年度より薬剤に関連した誤認事例は削減したが、検査関連の誤認事例が増加した。2020年度も引き続き、患者誤認ゼロに向けた取り組みは行っていく。 2. 身体行動制限0を目指すための一環として、入院時における「転倒転落の説明書」を作成。2020年度の運用を目指す。また、マニュアルや記録の見直しを行った。 3. 新人看護師を対象にした研修（看護医療安全研修Ⅱ・Ⅲ・2019年度Ⅰ）と看護補助者研修の企画と開催を実施した。
認知症ケア向上 委員会	10回	1. 認知症ケアにおける知識・技術・態度を習得する 2. 認知症ケアマニュアルを活用した認知症ケアの実践を推進する 3. 認知症ケアに関する倫理的問題がわかる	1. 毎月各部署の身体行動制限の実施率および解除についてケア方法を検討し、身体行動制限の早期解除に努めた。年度末には院内全体で10%以下の実施率となった。8月には院内のイベントとして入院患者を対象に夏祭りを開催した。 2. 院内職員を対象に認知症ケア講座を年3回開催した。2月には市民を対象として認知症サポーター養成講座を開催した。20人以上の市民の参加があった。 3. 毎月事例検討を行い、明日から実践できるケアを導き出し委員内で共有した。

委員会名	開催回数	年間活動目標（大項目のみ）	活動実績
看護パス・記録監査委員会	11回	患者が見える看護記録の充実 紙書類の電子化を図る	監査表を使用し104症例の記録監査を実施した。 フォーカスチャータリングの勉強会を行い、記録の質向上に努めた。 電子カルテ内テンプレート軽量化を図り、整理した。
看護感染予防委員会	11回	1. 職場の特性を踏まえた感染予防対策に取り組む 2. 感染予防委員として知識・技術の習得	1. 手指消毒剤使用量などのサーベイランスより、各職場目標達成に向けて取り組むことができた。 ラウンド結果を受け、委員会内で他職場のフィードバックも確認でき、自職場への対策案を検討することにつながっている。職場ラウンドを通し職場毎の取り組みを共有していくことで、目標達成につながった。 針刺し・切創は、2018年度と比較し減少は見られたが、新たな課題も明らかとなり対策の検討を継続する。 2. 委員による勉強会では、スタンダードなものからトピックスまでを取り上げ、6回／年実施した。新人を対象に、基本知識についての研修を行った。各職場で知識・技術の習得に向け、実践することができた。
褥瘡予防委員会	11回	1. リスクアセスメントツールを活用した褥瘡カンファレンスの実施ができる 2. 褥瘡診療計画書監査の継続 3. 摩擦とずれを最小限にする患者移動とポジショニングスキルの周知活動 4. 保湿ケアの知識を身に付け、物品の使いわけとスタッフ・家族への指導 5. 入院時の褥瘡保有の有無の観察の強化 6. 紙おむつの見直しと評価 7. 褥瘡対策マニュアルの見直し 8. 褥瘡の創評価の知識を高める	推定褥瘡発生率 1.16% 発生患者数 67名 各職場でのカンファレンス開催が定着してきており、委員会内で職場での発生患者の分析の視点が広がっている。 新人研修、委員会主催のポジショニング研修、毎月のポジショニングラウンドを通じて各職場の技術・知識が向上している。 新規の紙おむつの試用を東4病棟で行い評価することができた。次年度へつなげる。
共育委員会	12回	1. 習得した知識・技術を患者理解につなげる力を育む（研修の学びをOJTに！） 2. 効果的なグループディスカッションができる力を養う 3. 看護補助者（看護助手・クラーク・外来医療秘書・救急救命士・視能訓練士）の教育環境を整える	1. 看護研究Ⅰ（ケースレポート）の準備段階として「病態の理解」を2回実施した。この研修の最終的な評価は2020年度以降となるが、各自の学習の差があることがわかった。患者をアセスメントする力の向上に向けて研修スタイルや内容の検討を続けていく。 2. 特に新人看護師対象のコミュニケーション研修においては、SBARを用いた報告スキルに力を置いて実施。引き続き「伝える力」を養い育てていく。 3. 接遇、防災、嚥下の研修など、実践的な研修を実施した。各々の年間目標設定や評価が短時間でできるようになったことは評価できる。

## 人員構成 (2019年4月1日時点)

看護師	31名
助産師	1名
准看護師	1名
看護助手	4名
クレーク	23名
救急救命士	8名
視能訓練士	2名

## 運営方針

外来：地域に選ばれる病院を目指し、質の高い安全な医療と看護を提供する。

救急：地域とともにある救急外来を目指しチーム医療を実践します。

## 2019年度総括

### 1. 新外来棟への安全で効率的な移行

7月16日に新外来棟がオープンした。通常の外来・救急室の稼働を止めることなく安全に引っ越しを行うことができた。再来受付機や呼び出しシステムの導入により診察受付のスムーズな誘導、待ち時間の有効活用につながった。

移転後の動線変化に対応した急変対応や搬送シミュレーションなど、有事に対する訓練を行った。

### 2. 移行を機に、より質の高い看護サービスを追求する

初診の方には患者支援エリアでの一括問診を行い、診察科の選定、症状トリアージを行い緊急度に合わせ、速やかに対応できるようになった。

中央処置室はベッド数も増え、処置が中央化されたことで安全に処置・観察が実施できる環境を実現した。各看護外来の診察室も診療科の近くに確保され、診察と看護介入がタイムリーに実施できるようになった。

患者支援では入院に伴う案内や検査・手術説明が集約され、利用者の方々をお待たせすることなく実施できた。

### 3. 働きやすい環境を作る

引っ越しに伴う環境変化や新しい診療や看護介入に対し学習会や集合訓練などを実施し、職員の安全・安心につながった。

化学療法IVナースも1名認定された。

## 実績

### 看護外来実績

	2017年度	2018年度	2019年度
糖尿病看護外来	816	861	462
ストマ看護外来	242	229	239
がん電話相談	49	33	35
リウマチ看護外来	1,861	2,408	2,284
CKD看護外来		(6月～) 308	336

## 人員構成 (2019年4月1日時点)

看護師 18名

看護助手 1名

## 運営方針

新外来棟開設を機会に、新たな業務の改善→  
TUNAGU

## 2019年度総括

### I. 安全管理の強化

- ・新外来棟における放射線課・救急との急変対応シミュレーション (MRI) 実施。
- ・院内防災訓練に併せて内視鏡での防災訓練を臨床工学技士と実施。
- ・患者誤認撲滅：内視鏡検査におけるネームバンドの全例着用を導入。
- ・薬品カートの鍵管理の徹底。
- ・確実な検体取り扱いの実施に向けてポリプロップの使用法変更および環境整備。
- ・他部署とのグループ活動 (コ・メディカル会、内視鏡) の定着。
- ・乳腺科によるマンモトーム開始に向けての勉強会開催。

### II. 職場環境の効率化

- ・5S活動による物品管理の常態化。
- ・電子カルテの活用：テンプレートの見直しおよび申し送り廃止に向けての検討。

### III. 看護の質の向上

- ・ワークショップを開催し、自分の大切にしている看護を語ってもらい、それぞれの看護観を知ることができた。
- ・資格取得：IVRナース1名増員。

### IV. 新外来棟引っ越しを安全・効率的に行う

- ・安全・効率的な新外来棟への引っ越しの実施。
  - ①部屋担当を中心に物品・家具などの配置をスタッフへ周知し、計画的に関連部署とともに実施。
  - ②血管造影にて使用する物品をカテ室や倉庫内に収納することができた。
  - ③物品管理の見直しおよび患者動線を考えての業務改善を行った。
- ・画像診断受付へ内視鏡受付業務の移譲。

## 実績

項目	件数
上部消化管内視鏡検査(内視鏡治療含)	2,141件
下部消化管内視鏡検査(内視鏡治療含)	1,678件
経乳頭的胆管膵管造影(内視鏡治療含)	188件
気管支鏡検査	41件
心臓カテーテル検査(経皮的冠動脈形成術含)	645件
アブレーション	76件
ペースメーカー留置	67件
脳血管造影検査(血管内治療含)	319件
CT造影検査	4,116件
MRI造影検査	351件

## 人員構成 (2019年4月1日時点)

看護師	29名
看護助手	7名
クラーク	2名

## 主な担当科

脳神経外科

## 運営方針

1. スタッフ個々が問題意識を持ち、自主的に解決行動できる
2. スタッフ間の連携を意識して行える

## 2019年度総括

1. 専門的知識・技術が向上し、看護ケアに活かせる
  - ・脳疾患の専門性を高めるため定期的に勉強会を月2回実施し、ボトムアップを図った。また、急性期から回復期における専門性を上げるため、SCUとのスタッフローテーションを計6名実施することができた。
  - ・リーダー育成として、主体的に問題解決に向かえるようディスカッションの場をつくり、共通認識を持って取り組むことができた。(職場の共育における問題点)
  - ・身体行動制限については医師との協働により、目標である35%を下回り16%へ減少、抑制着の使用を0にすることができた。

2. 安全で適正な看護を提供する
  - ・災害訓練については、災害週間を設け初動行動などの訓練を実施した。
  - ・新棟への搬送訓練として全身麻酔科の患者を想定し、医師との搬送シミュレーションを実施し実践に活かすことができています。
  - ・インシデント事例について振り返り、環境などの再確認を看護師・看護補助者ともに行うことができた。
3. 働きやすい職場環境を作る
  - ・チーム体制の変更と時短者の業務の整理により、超過勤務時間の減少とともに、NO残業デーでは個々に3回/月以上の実施ができた。
4. 入院時から退院調整を意識した関わりができる
  - ・退院支援担当を経験させることで、一人一人の患者支援スキルを上げることにつなげた。

## 実績

病棟稼働率	平均在院日数	平均看護必要度
89.8%	17.0日	43.1

人員構成 (2019年4月1日時点)

看護師 31名  
 看護助手 6名  
 クラーク 1名

主な担当科

リウマチ・膠原病内科、耳鼻咽喉科、内分泌・糖尿病内科、整形外科、麻酔科

運営方針

チーム力を強め変化を乗り越えよう

2019年度総括

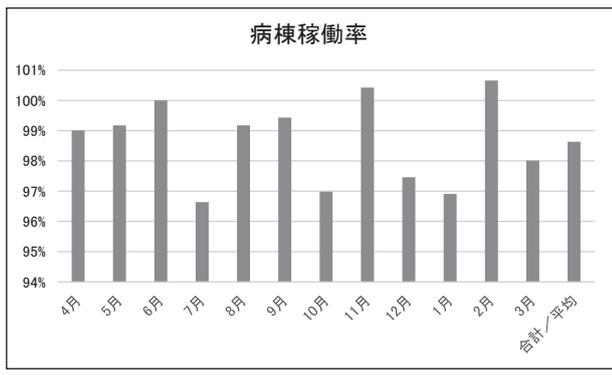
2019年度は、各担当科の入院患者や手術件数の増加があり、それに伴い、より急性期と慢性期・リハビリテーション期などの各病期への効率的であり、かつ質の高い看護介入が必要となった。

スタッフの看護の質の向上とともに、院内全体を考えた病床稼働も求められた。

これらの状況に対し、「入院時から退院調整」「患者のもてる力を生かす医療看護の提供」「全ての人にやさしい環境づくり」の目標をあげ、活動した。「入院時からの退院調整」では、退院支援体制の強化のため、退院調整状況を定期的に確認する体制を作った。週2回は入院患者全体の退院支援状況を確認するための人員配置を行った。

その活動で得た情報を活用して、早期退院のプロセスを目指した。また、各スタッフの退院支援の能力向上に向けて、担当グループがアプローチを行った。

実績



「患者の持てる力を活かす医療看護の提供」では、世間でも注目されている認知症患者の看護、そして身体行動制限の削減について考え、その実践を院内学会で発表を行った。

実践結果として身体行動制限を削減しながら、ルート事故抜去件数も削減することができた。看護の力を再度実感する経験であり、看護者としての倫理に対する感性の成長にもつながる実践を職場全体で取り組むことができた。そして、その実践を他の職場へ広めることもできた。

基本的な技術の提供としては、褥瘡やスキントラブル予防のため清潔ケア時の保湿に注目し、全身の皮膚に保湿剤を塗ることを進めていった。褥瘡発生率としては、やや上昇したが皮膚の乾燥は目立たなくなった。今後もより効果的な方法を模索していくきっかけとなった。

「全ての人にやさしい環境づくり」では職場環境として病床稼働率が高くなっているが、2018年度と比較し月総超過勤務平均時間は削減することができた。これは各スタッフの働き方改革に対する意識の高さも良い結果となったと考えられる。また、災害時対応についても職場全体で取り組みを開始し、搬送練習などを実施した。

相手を尊重したコミュニケーションの徹底では、職場満足度調査においても人間関係の部分では高い評価が出ていた。スタッフ全体が各経験に合わせたともに学ぶ体制ができてきており、新人の離職もなかった。

毎年、大きな変化の波に当たる西2病棟であるが、チーム力で乗り越えることができている。そしてその波を乗り越えるたびに新しい力をつけている。

2020年度は回復期リハビリテーション病棟や緩和ケア病棟ができる。西2病棟も深く関わる病棟となるため、その変化を敏感に感じ、引き続き患者に選ばれる病棟を目指して歩んでいきたい。

2019年度年間手術件数

耳鼻咽喉科	216件
整形外科	498件

2019年度年間入院患者数と1日平均患者

入院患者数	16,967名
1日平均入院患者数	46名

看護部

## 人員構成 (2019年4月1日時点)

看護師	26名
看護助手	6名
クラーク	1名

## 主な担当科

心臓血管センター内科、腎臓・高血圧内科、救急科

## 運営方針

一人ひとりを尊重し、想いを「TUNAGU」看護を  
実践しよう

## 2019年度総括

## 1. 入退院支援の充実

入院時に担当看護師が退院支援計画書を作成することで、大幅な入退院支援加算算定件数の増加につながられた。患者家族とのICへの100%同席を目指し、カレンダー管理で可視化することで80%の同席ができた。これにより、患者家族の想いを共有し退院支援につなげることができた。

## 2. 循環器疾患と腎臓疾患の適切な看護の実践

心臓血管内科医師からのミニ講座を3回/年実施した。各月でフィジカルアセスメントをふまえた事例検討会を実施し、看護実践の評価を行うことで更なるケアの向上に努めた。

## 3. 高齢者の特徴を踏まえた看護の実践

身体行動制限実施率は2%であり、認知症認定看護師を中心に身体行動制限を最小限とする取り組みを継続した。

## 4. 一人一人の考えを引き出すOJTの実践

ウォーキングカンファレンスを取り入れることで患者の問題の共有や方向性を考える場となり、スムーズな退院支援や早期に問題解決への取り組みができた。

## 実績

稼働率	必要度	平均在院日数
91.5%	41.7%	10.3日

## 人員構成 (2019年4月1日時点)

看護師	32名
看護助手	6名 *学生バイトを2名含む
クラーク	1名

## 主な担当科

呼吸器内科、呼吸器外科、乳腺科、眼科、消化器内科 (内視鏡検査のみ)

## 運営方針

東2病棟は混合病棟であるが、呼吸器疾患を持つ患者が多いことから、「息をスッキリ 業務もスッキリ 患者はスッキリ！」というスローガンで日々の看護ケアに取り組んだ。

## 2019年度総括

「入退院支援のさらなる向上」として、退院支援グループを中心に活動日を設定し、拡大カンファレンスの開催や早期退院を意識する取り組みをスタッフ全員で行うことができた。アナムネの勉強会を行い、入院時から退院を意識した情報の取り方をスタッフ全員で共有した。

「治療の段階にあった看護が提供できるための専門性の向上」としては、医師とともに治療に関する倫理的カンファを複数回開催することができた。また、スタッフ3名が病棟主催の息すっきりコースの2年過程を修了し、先輩から後輩へ、後輩から全スタッフへ向けての勉強会の開催したことで、学習の機会を持ち、実践に活かすことができた。

「認知症・高齢者ケアの充実」では、センサー類の評価も含めて、週1回の安全ウォーキングカンファレンスを実施したことで、抑制帯やセンサーを使うことが減少した。週2回へ病棟内デイサービスを開催し、患者のマウスケアや整容にも力を入れ、QOLを高める視点も養うことができた。

## 実績

平均在院日数	12.9日
看護必要度	33.4%
入院時支援加算 I	695件
介護支援等連携指導料	57件
呼吸器外科手術件数	89件
乳腺科手術件数	35件
白内障手術件数	238件

## 人員構成 (2019年4月1日時点)

看護師	34名
看護助手	6名
クラーク	1名

## 主な担当科

消化器外科・消化器内科

## 運営方針

患者が安心して医療を受けられるように「考え・行動できる」チームとなろう！

## 2019年度総括

当院の「高齢者医療の充実」という事業計画に基づき、包括地域ケア病棟の活用・ACPの推進・術前オリエンテーションの見直しや身体行動制限削減など患者が安心して医療を受けられるよう取り組みを実施した。また高齢化という社会情勢も踏まえ、サポート入院や転院の受け入れを積極的に行った。

### 1. 認知症・高齢者ケアの充実

患者へわかりやすい説明を実施していくため、動画による術前オリエンテーションの運用を開始した。患者へのアンケートでは画像を見て説明を受けることでイメージが付き、わかりやすいとの評価を頂いた。

また身体行動制限削減に向けた取り組みとして、スタッフの知識の習得を行い適正使用していただけるようウォーキングカンファレンスを導入しアセスメントの強化に努めた。

ACPは患者の意識も高まり提出率が増加傾向にある。必要に応じ緩和認定看護師と協働し内容の確認や患者の思いを聞き、看護提供を行った。

2. 一人一人が退院調整と退院支援看護師として活躍する

ソーシャルワーカーや退院支援看護師とともに、週一回退院支援カンファレンスを実施した。患者の退院後の生活や支援の内容について入院時より退院を見据えた検討が実施できた。

3. 働きやすい環境づくり

業務内容の検討や遅番やロング日勤の導入など勤務体制の変更を行い、一人ひとりが働きやすい職場を目指し労働環境を整えた。

## 実績

稼働率	必要度	平均在院日数
88.3%	25.0%	14.8日

## 人員構成 (2019年4月1日時点)

看護師	24名
助産師	1名
看護助手	10名
クラーク	1名

## 主な担当科

総合診療内科、内分泌・糖尿病内科

## 運営方針

1. 患者・家族のセルフケア能力を高め、希望にあわせた退院支援ができる
2. 安全で質の高い看護の提供をする
3. 個々の力を出し合い、補完しあえる職場をつくる

## 2019年度総括

### 1. 入退院支援の推進とともに地域包括ケア病棟の役割を果たす

院内での転入は、急性期病棟課長との連携を密にし、退院支援が必要な患者の受け入れを積極的に行った。院外からの入院は、サポート入院100件/年、転院36件/年と2018年度より多くの患者受け入れができた。

在宅復帰率は平均78.9%、病床稼働率は平均89.8%であった。退院に対しては、毎日退院支援看護師を病棟内で配置しスムーズな退院支援につなげる取り組みをした。

### 2. 患者の治癒力を高める看護力の向上

看護力を向上させるために中堅看護師の力を活かす取り組みを実施した。中堅看護師がディスカッションできるような会議を定期開催し、業務改善や日々の看護を検討できる場となった。様々な意見交換ができ、中堅看護師としての自覚も高められ、看護師としての成長にもつなげられた。

### 3. 高齢者に対して安全な環境を提供する

院内デイサービスは毎日1時間の実施が定着した。その他でも昼食前後はラウンジにて音楽療法を取り入れた。また、院内デイサービスには参加できない方でも、離床目的でラウンジを利用し、大人の塗り絵やペーパークラフト、トランプなどのレクリエーションができるよう取り組んだ。

### 4. 働きやすい職場環境醸成

新人教育に対して病棟内でのシステムの可視化ができ、教育体制の強化につながった。

超過勤務削減に対して、20時間以内/月、ノー残業デイ2回/月取得の目標はほぼ全員達成できた。

## 人員構成 (2019年4月1日時点)

看護師 13名

看護助手 1名

## 主な担当科

全科における重症患者もしくは術後など重症化が懸念される患者

## 運営方針

多職種協働により質の高い医療を提供しよう

## 2019年度総括

2019年度は、HCU機能を更に高めるべく、運営方針のもと多職種における協働の場として、以下の目標をもちながら重症患者の治療およびケアを推進した。

1. 急性期患者の先を見据えたチーム医療の提供
  - ・重症患者の回復には、早期からのリハビリテーションの実施が必要であり、急性期からの機能維持を目的としてリハビリテーションスタッフと看護師による離床支援を強化するためにも、多職種におけるカンファレンスの充実と実践を図った。
  - ・当病棟における家族看護の重要性を理解し、実践するための対策として、ICUダイアリーや危機理論を用いた看護展開を図った。
2. 安全で安心できる療養環境の提供
  - ・始業開始時における複数人による患者ラウンドを実施し、情報伝達能力を強化し現場教育や患者ケアに役立てた。
  - ・感染対策予防の強化と環境整備
  - ・全スタッフ対象に、人工呼吸器使用患者と胸腔ドレナージ患者を避難させるというシミュレーションを実施。エアストレッチャーの体験など、現場に即した重症患者搬送を実施した。

3. 広い視野と専門性をもった人材育成
  - ・他病棟で経験できない重症患者のケアや人工呼吸器管理などを学べる場として看護師を短期間受け入れ研修を行った。院内全体の知識・技術のボトムアップを担う場として提供した。

4. 働きやすい環境整備

## 実績

### 2019年度実績

総入室患者数 : 2,105人

月平均入室患者数 : 175人

HCU看護必要度クリア率 : 89.3%

## 人員構成 (2019年4月1日時点)

看護師 11名

## 主な担当科

脳神経外科、脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）

## 運営方針

1. スタッフ個々が問題意識を持ち、自主的に解決行動ができる
2. スタッフ間の連携を意識して行える
3. 脳卒中看護の専門性を高める

## 2019年度総括

脳卒中ケアユニット（SCU）は急性期の脳血管障害（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）の患者を受け入れる専用のケアユニットであり、脳卒中発症早期から24時間体制で集中的に治療を行っている。

死亡率の減少、在院日数の短縮、自宅退院率の増加、長期的な日常生活能力と生活の質の改善を図ることができることを目的に医療・看護を提供している。

SCU開設から1年が経過し、神経学的所見の専門的な観察ツールを身につけ実践することができている。脳卒中患者の病期にとらわれない看護実践ができるよう西1病棟スタッフとのローテーションを実施した。

入院時から早期退院へ向けてメディカルスタッフと協働し、退院支援を行っている。NIHSSの数値で退院時転帰予測し、患者と関わっている。週末や平日関わらず、リハビリテーションスタッフと協働しリハビリテーションや離床支援を行い、患者の残存機能を維持・向上を目指し関わっている。

## 実績

実病床稼働率	99%
平均在棟日数	7.9日
看護必要度平均	73.7%

入院患者内訳：301人 男性：182人 女性：119人

疾患	脳梗塞	脳出血	くも膜下出血
人数	239人	48人	13人

転帰先	自宅	回復期	その他
人数	186人	71人	45人

## 人員構成 (2019年4月1日時点)

看護師	9名
看護助手	1名
クラーク	1名

## 運営方針

透析看護の専門性を深め、安全で適正な看護を提供する

## 2019年度総括

### 1. 透析の基本的技術・知識の統一と看護の質の向上

基本的技術に加え患者のシャントを守る活動として、エコー下ガイド穿刺の技術を新たに取り入れた。看護師4名臨床工学技士4名が習得し、穿刺困難患者4名にエコー下ガイド穿刺を実施している。

### 2. 生活者の力を引き出すセルフケアを支援する

2019年も透析と向き合いながら、様々な生活の変化に対して、患者の意思決定を尊重する関わりを継続している。2019年度は事前指示書の提出率が86%と増加している。合併症の早期発見を目的としたフットケアやフレイル予防などを含めたセルフケア支援と災害時に必要な食事、水分、シャント管理など患者の持っている力を引き出せるよう、さらに知識や技術を深めていく。

### 3. 透析室から見える支援を行う

2018年5月よりCKD看護外来の開始とともに「腎不全期～腎不全終末期～人生の終末期」に連携して関わっていくことを目的とし「そらまめチーム」として活動に参加している。

透析室では腎代替療法の説明や体験見学を行い、また透析治療を選択した患者への意思決定支援を行っている。また、透析患者が入院した時は退院支援の一環で病棟カンファレンスに参加し、病棟・外来・透析室間との連携

ができるよう支援を行っている。また、入院透析患者の搬送や病棟リリーフなど積極的に病棟への支援を行うことができた。

### 4. 共有環境をわかりやすく整理する

2018年に作成した透析室クリニカルラダーを活用し、透析看護技術のレベルを一定に保てるよう新人からベテランまで看護技術を統一した。また新人教育もスタッフ全員が行えるよう透析室共有マニュアルの改訂を行った。

### 5. 新しい環境を安全と効率性から正しく整備し働きやすい職場環境を作る

A棟開棟により、新しい環境でも安全と効率性を考えた物品定数と物品配置を整備した。病棟への搬送距離も長くなり、入院患者の移送中の急変に備えた対策と病棟との連携に努めた。安定した水質管理から引越後はon-line HDFでの治療が増えた。落雷による非常電源停止時にon-line HDFでの治療が困難となったが、生食返血で患者に影響なく終了することができた。この体験をもとに患者参画型防災訓練を実施している。

## 実績

### 外来・入院透析件数

外来維持透析		7,379
入院透析		1,037
合計		8,416

### フットケア (糖尿病)

糖尿病疾患加算(170点)	310件	52,700点
爪切り(60点)	108件	6,480点
胼胝・鶏眼削り(170点)	45件	7,650点
		66,830点
下肢末梢動脈加算(100点)	581件	58,100点

### フットケア (非糖尿病)

爪切り (60点)	32件	1,920点
胼胝 (170点)	16件	2,720点
		4,640点

## 人員構成 (2019年4月1日時点)

看護師	15名
准看護師	1名
クラーク	1名

## 運営方針

新外来棟新設に伴い、安全で効率的な手術環境を新構築しよう

## 2019年度総括

1. 新外来棟新設に伴う手術室運用の検討
2. 患者の特性を踏まえた手術室人材の育成
3. 働きやすい職場環境を整える

- ・7月の手術室移転の前に搬送シミュレーション、急変対応バッグ、急変対応スペースの確保など急変を予測した訓練を実施した。地下への移転に伴い上階へのエアーストレッチャーによる搬送訓練を実施した。
- ・引っ越しのタイミングに伴い、カートシステムの導入や委託業者の業務見直し、薬剤師との協働により安全な薬品管理の検討など業務変更を行った。

- ・医師・看護師・感染管理者を含めSSIカンファレンスを開催しマニュアルの修正や改善業務の周知を図った。
- ・2年目看護師によるケースレポート発表会および、ナラティブを各スタッフに提出してもらい発表を行った。
- ・インシデント共有を目的とし、KYTカンファレンスを実施した。重大アクシデントに対して医師および医療安全管理室を含めて振り返りを実施した。
- ・整形外科手術の増加に伴い、借用機械管理方法の検討と長期借用機械の選別を実施した。
- ・スタッフ間のコミュニケーションスキルの向上のため、ワークショップを開催し、ノンテクニカルスキルを学ぶ場とした。
- ・紙媒体で出力している伝票を整理し、ペーパーレス化に努めた。

## 実績

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
2019年度	143	113	143	127	131	131	142	156	151	131	121	121	1,610	134.2
2018年度	118	124	123	138	134	120	135	139	125	123	125	115	1,519	126.6

- ・緊急手術： 127件
- ・時間外（時間外に入室したもの）：39件 休日緊急手術：20件

## 人員構成（2019年4月1日時点）

看護師 2名  
 がん看護専門看護師 1名  
 精神看護専門看護師 1名（非常勤）

## 運営方針

- ・緩和ケア病棟開棟に向けた運営システムの整備
- ・高齢者医療の充実
- ・地域連携の強化
- ・多様な人材育成に向けたキャリア支援

## 2019年度総括

がん看護・エンドオブライフケア領域の活動としては、2020年度の緩和ケア病棟オープンに向けて基準や入退院のシステム構築や近隣医療機関との連携強化に取り組んだ。

ACPに関しては、年間で1,338件の事前指示書が提出され、1084件の人生会議の内容が診療録に記載されていた。事前指示書の内容だけでなく、その理由や価値観、事前指示を表明する背景となる今までの患者の看取りや介護の体験の語りが記載されるようになった。

精神看護専門看護師(非常勤)は、抑うつや不安が強い患者の心と身体をアセスメントし、病棟の看護師とともにケアを提供・推奨した。

スタッフのメンタルヘルスに関しては、職員自身の相談だけでなく、職員の家族のメンタルヘルスの相談にも対応した。新入職員の体験カウンセリングは2019年度も継続して実施した。

## 実績

〈がん看護相談件数：730件〉

相談内容（延べ件数）	
症状マネジメント	468
がん診断・治療	235
在宅療養の調整	176
家族問題	21
倫理的問題	5
精神的問題	40
アドバンス・ケア・プランニング	29
その他	19

〈精神看護相談件数：272件〉

相談内容（延べ件数）	
患者の精神症状 抑うつ	28
不穏・焦燥感	2
その他	43
職員メンタルヘルス支援	75
復職支援	40
体験カウンセリング	82

人員構成 (2019年4月1日時点)

看護師	15名
理学療法士	1名
作業療法士	2名
うち1名は病院と兼務、1名は育児休暇中	
事務	1名

運営方針

- 1) 経営指標に基づいた事業運営
- 2) 聖隷横浜病院との更なる連携強化
- 3) 質の高いサービスの提供
- 4) 業務の効率化

実績

	収入 (千円)	支出 (千円)	訪問単価	介護訪問件数	医療訪問件数
予算	120,558	95,000	10,622円	8,590件	2,635件
実績	126,827	102,664	10,669円	9,212件	2,559件

2019年度総括

新規依頼、訪問件数、訪問単価も予算通りに推移した。看護職員の増員があり収支ともに予算をやや上回ったが、職員の変動もなく安定した運営ができた。人員については、リハビリテーションの需要が高く、リハビリテーションスタッフの増員を目指していたが、採用に至らず地域の要望に充分応えることができなかった。

また、同一敷地内の居宅介護支援事業所（他法人）との連携にも力を入れていたが、人員不足から閉鎖されたため、機能強化型訪問看護加算は年度末で取り下げとなった。

## 人員構成 (2019年4月1日時点)

薬剤師	24名
薬剤助手	1名

## 業務内容

調剤業務 製剤業務 病棟業務  
 薬剤管理指導業務 医薬品情報業務  
 医薬品購入管理業務 抗癌剤混注業務  
 高カロリー輸液混注業務 持参薬鑑別業務

## 2019年度総括

### ①業務の効率化について

- ・10月19日に薬剤部はB棟2階へ引っ越しを行い、調剤室、製剤室、DI室、病棟室、事務室とレイアウト変更を行い環境整備した。
- ・2019年12月から薬事委員会との連携で、「使用期限切迫薬剤・期限切れ薬剤」の採用の見直しを定期的に行い、在庫管理を徹底した。

### ②業務の質の向上について

- ・外来棟移転後7月22日から手術室に薬剤師を配置し、薬品管理をセット化した。特に管理薬である麻薬や毒薬などの在庫管理も今まで以上に厳重にして安全管理に務めた。

### ③医療安全セミナーの開催

- ・テーマを「がんの痛みは正しい知識で取る～医療用麻薬はどんな薬でどう使われるのか～」とし、全職員対象で2020年1月15日、27日、28日にセミナーを開催した。受講率は87.7%であり、2018年度と比較し、2%増であった。

### ④薬剤師の人材育成について

- ・スペシャリストの育成を目標に緩和、がん、感染、NSTの4つのグループに分けて、部内で16回の勉強会を行った。
- ・実務実習生受け入れを6名行った。(星薬科大学薬学部2名、横浜薬科大学薬学部2名、日本大学薬学部2名)、なお、2019年度から新コアカリキュラへ変更となった。
- ・2019年1月から2023年12月31日の期間で、当院は日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師認定制度により「薬物療法専門薬剤師研修施設認定」を受けた。

## 実績

	2018年度	2019年度	前年度比(%)
外来院内処方箋枚数	2,969	2,675	90.1
外来院外処方箋枚数	99,871	88,264	88.4
外来注射箋枚数	23,178	22,781	98.3
一般名処方枚数	63,937	57,475	89.9
入院処方箋枚数	57,031	55,109	96.6
入院注射箋枚数	85,522	97,776	114.3
薬剤管理指導料2 (ハイリスク薬品) 件数	2,266	2,251	99.3
薬剤管理指導料3 (その他) 件数	5,927	5,335	90.0
薬剤管理指導件数 (合計)	8,193	7,586	92.6
退院時薬剤情報提供件数	3,992	3,640	91.2
外来抗癌剤混注件数	969	958	98.9
入院抗癌剤混注件数	190	108	56.8
TDM実施件数	110	76	69.1
製剤件数	3,488	3,387	97.1
持参薬鑑別件数	5,174	4,811	93.0

## 人員構成 (2019年4月1日時点)

理学療法士	19名
作業療法士	9名
言語聴覚士	3名
受付事務	1名

## 業務内容

1. 各診療科からの指示を受け、リハビリテーションに関連する業務を行った。
2. チーム医療の一環として、関連各診療科のカンファレンス・地域包括ケア病棟のカンファレンス・MSWとのカンファレンスにスタッフを派遣した。
3. 院内の充実した安全や医療の提供のためにRST・NST・緩和ケアサポートに協力した。
4. 院内各委員会にスタッフの派遣を行った。
5. 聖隷リハビリテーション職場長会の方針に従いスキルアップ研修として、聖隷神奈川地区でリハビリテーション部門勉強会を開催した。
6. 外部交流として、県内外の勉強会などに参加するだけでなく講師派遣も行った。
7. 2020年度開設予定の回復期リハビリテーション病棟・緩和ケア病棟の準備会議にもスタッフを派遣し円滑な活動参入を考えている。

## 2019年度総括

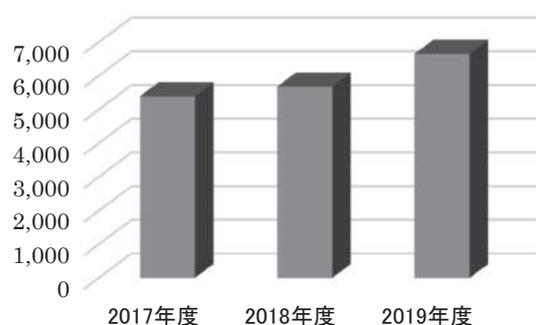
2019年度は2017年度より運用している①業務マニュアル、②部門内の教育マニュアルを使用して業務活動を遂行した。これらは今後改訂をしながら充実させる。特に教育マニュアルについては、2020年度の養成校入学者より臨床実習のカリキュラムが変更されるため、その方針・内容に合わせて改訂を進めた。

## 実績

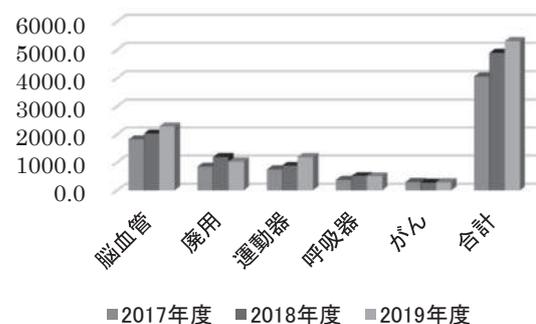
業務実績としては、表に示したように指示件数は2018年度比17%増、疾患別単位取得件数は8%増であった。

院外活動・社会貢献として学会発表・講演活動も講演(8題)・学会発表(13題)・論文(1編)・その他活動(講師など12件)で多くを発信することができた。

指示件数比較(通年)



疾患別単位比較(1月平均)



## 人員構成 (2019年4月1日時点)

臨床検査技師	24名
うち 認定臨床化学	
免疫化学精度保証管理検査技師	1名
医療情報技師	1名
栄養サポートチーム専門療法士	1名
日本不整脈心電学会認定心電図専門士	1名
超音波検査士(消化器)	5名
超音波検査士(体表臓器)	4名
超音波検査士(循環器)	3名
超音波検査士(血管)	2名
超音波検査士(泌尿器)	3名
乳房超音波検査講習会認定	3名
聴力測定技術講習認定(一般)	3名
聴力測定技術講習認定(中級)	2名
緊急臨床検査士	2名
二級臨床検査士(免疫血清学)	1名
二級臨床検査士(微生物学)	1名
二級臨床検査士(病理学)	1名
細胞検査士	1名
有機溶剤作業主任者	1名
特定化学物質および四アルキル鉛作業主任者	1名
毒劇物取扱者	4名
受付事務	3名

## 業務内容

- ① 外来患者採血
- ② 検体検査(尿・血液学・生化学・免疫学・微生物学)
- ③ 超音波検査
- ④ 生体検査(呼吸循環機能・脳波・神経・筋検査)
- ⑤ 耳鼻咽喉科学的検査
- ⑥ 輸血検査
- ⑦ 病理検査
- ⑧ チーム医療への参画(NST・ICT・AST・糖尿病教室・SMBG指導)

## 2019年度総括

- ・新外来棟(A棟)移転に伴い、採血室で整理券番号を採血台ごとにモニター表示しプライバシーに配慮した呼び出しが可能となった。また、車イススペースを広くとり、車イス対応可能な電動昇降の採血台も導入した。
- ・採血時の神経損傷リスク低減のため、翼状針を使用しての採血へ変更した。
- ・生化学自動分析装置をAU5800、DxC700AU(ベックマン・コールター社)、全自動化学発光免疫測定装置をAlinity i(アボット社)、運動負荷心電図装置をSTS-2100(日本光電社)、超音波診断装置をXario200G、Xario100G(キャノンメディカル社)、聴力検査室をAT-66A、AT-E1(リオン社)に更新した。
- ・ポータブルによる脳波、超音波検査を一部開始した。
- ・認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師1名が認定資格を取得した。

## 実績

検査件数	2018年度(件)	2019年度(件)	前年度比(%)
外来採血	45,631	38,462	84
検体検査	1,850,891	1,580,305	85
生体検査	16,036	14,300	89
超音波検査	11,215	8,107	72
耳鼻科検査	7,610	7,463	98
輸血検査	2,905	3,057	105

チーム医療参加回数	回数
NST(栄養サポートチーム)	303回
ICT(感染制御チーム)	50回
AST(抗菌薬適正使用支援チーム)	48回
糖尿病教室	3回
SMBG(自己血糖測定)指導	16回

刊行物	回数
ラボニュース	3回
インフルエンザニュース	3回

## 人員構成 (2019年4月1日時点)

管理栄養士	9名
うち 病態栄養認定管理栄養士	1名
NST専門療法士	2名
糖尿病療養指導士	3名
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	1名
調理師	4名

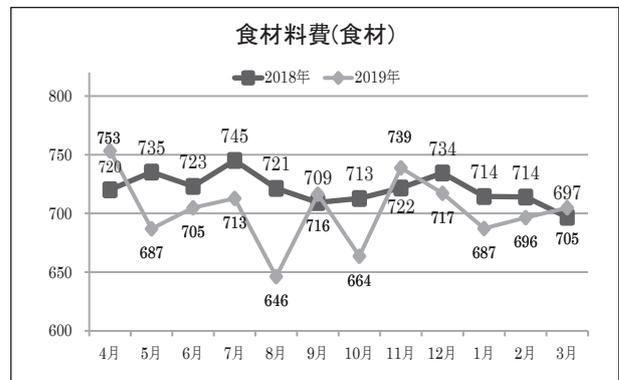
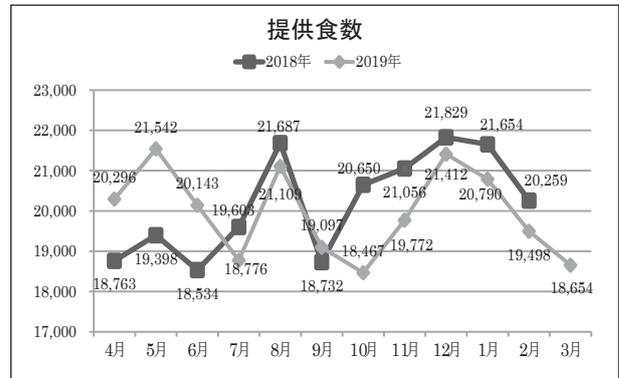
## 業務内容

1. 安全で美味しい食事の提供
2. 治療に貢献する栄養管理・栄養指導
3. 地域連携の活性化と地域貢献
4. チーム医療への参画

## 2019年度総括

- ・安全で美味しい食事の提供  
 食事提供に関したリスク管理を徹底し、特に食物アレルギーの対応について、アクシデントが起こらないようシステム化を図った。  
 入院食が引き続き月平均約20,000食提供することができた。
- ・食事の質を落とすことなく、食材費などの調整を行った。
- ・チーム医療への参画  
 NSTサポートチームにおいて月平均74件の算定を行うことができた。
- ・「季刊誌 せいれい よこはま」において毎号引き続き「今が旬 栄養レシピ」を掲載した。

## 実績



## 人員構成 (2019年4月1日時点)

臨床工学技士 21名  
 うち 不整脈治療専門臨床工学技士  
 透析技術認定士  
 3学会合同呼吸療法認定士  
 臨床ME専門認定士  
 消化器内視鏡技師  
 臨床検査技師  
 心血管インターベンション技士  
 CPAP療法士  
 ICLSインストラクタ  
 CDR など

## 業務内容

1. 生命維持管理装置を含む医療機器の保守点検
2. 生命維持管理装置を含む医療機器の操作および介助業務
3. 医療機器の安全使用のための研修実施業務
4. 臨床補助業務

## 2019年度総括

保守管理業務では医療機器の点検、迅速な修理対応に努め安全に使用できる体制を継続し、定期的な医療機器研修会を開催し、使用者が適切に操作できるように努めた。

新外来棟への移設の際には機器の選定から運用の構築まで他部門と連携し、安全にスタートすることができた。また個々のスタッフの専門性を高め、新しい治療や高度な知識・手技が必要な業務を強化し、質の高い医療の提供に努めた。

### 1. 機器の適正管理

医療機器の点検内容を見直し、より精度の高い内容へ変更した。内視鏡関連器具の感染管理強化として、細菌培養、洗浄方法の改善を行った。

### 2. On-Line HDFの開始

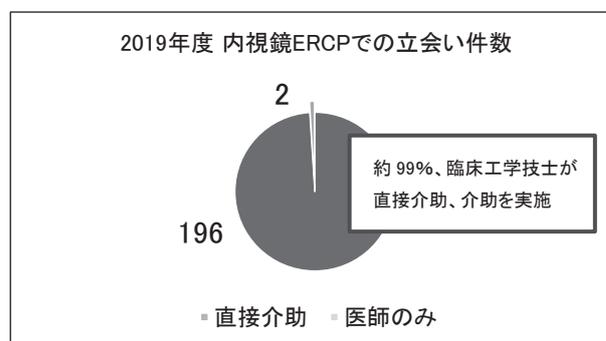
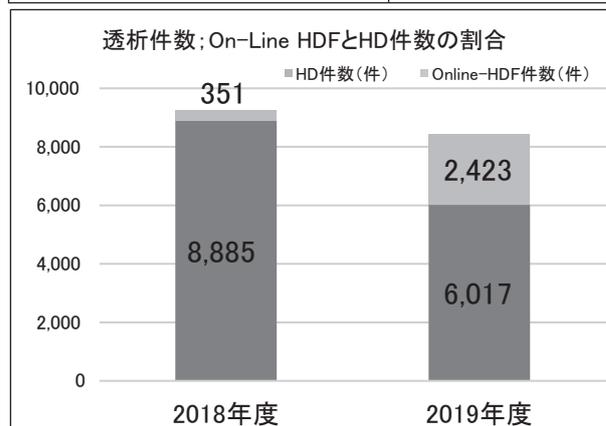
血液浄化センターを新棟に移設し、透析関連機器を最新の機器に更新した。これによりOn-Line HDFが可能となり、更にD-FAS機能を活用したことで、業務の効率化と安全性を高めた。

### 3. 最高の質の追求 (人材育成)

内視鏡でのERCP直接介助業務を確立し、臨床補助業務を強化した。勉強会を定期的に開催し、知識・技術・経験の共有を行った(心臓、脳カテーテル、人工呼吸器、内視鏡など)。

## 実績

2019年度	
医療機器点検件数	28,298
医療機器修理件数	189



# 事務部

職場名称	人員構成	業務内容	2019年度総括
医療情報管理課	課長代行 1名 課長補佐 1名 外来医事係 3名 入院医事係 6.5名 情報システム係 2名 診療録管理室 4.5名 エルダー 1名 (委託・派遣除く)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来医事係：外来受付、外来会計計算・外来診療報酬請求、予約変更受付などの業務</li> <li>・入院医事係：入院受付、DPC分類コーディング、入院会計計算・入院診療報酬請求などの業務</li> <li>・情報システム係：電子カルテなどの各種システム保守管理、データ抽出などの業務</li> <li>・診療録管理室：診療録の管理・点検、がん登録業務、DPCデータ作成管理、スキャナーセンター運営などの業務</li> <li>・課全体：施設基準管理、病院収益に関する分析などの業務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新棟稼働に向けた運用、動線など構築、また案内システムなど新規対応の標準化を進めた</li> <li>・診療報酬改定対応や施設基準、増床、再生医療など遅延なく申請届出に取り組めた。</li> <li>・情報管理業務として、診療録管理の精度向上、スキャナー業務の迅速化</li> <li>・医事業務として、請求止めや保留、査定返戻などを可視化し、圧縮に努めた</li> </ul>
経理課	一般会計 3名 支払窓口 3名 (業務委託)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出納業務</li> <li>・月次、年次決算業務</li> <li>・予算管理</li> <li>・患者自己負担金の授受</li> <li>・資金調達事務</li> <li>・資産保全業務(登記事務)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月 係長交代人事</li> <li>・7月 新外来棟開設 →会計案内システム導入(共働) →自動精算機2台導入(共働) →支払窓口へ名称変更 →支払窓口運用再構築</li> <li>・10月消費税込改正対応(共働)</li> <li>・11月簡易原価計算書作成(共働)</li> <li>・3月 民法改正準備(共働)</li> </ul>
施設資材管理課	課長 1名 資材係 5名 施設係 4名 建築準備室 1名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資材係 院内のあらゆる『もの』に関する管理全般(薬品・食材など一部を除く)の予算、購入、在庫管理業務</li> <li>・施設係 建築物、電気、空調設備、給排水、防災、医療ガス、環境の管理業務</li> <li>・建築準備室 新外来棟建築工事計画に関わる工程、予算、図面、既存改修調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新外来棟建築に伴う医療機器の備品整備実績 CT、MRI、一般撮影装置、乳房撮影装置、中央材料室機器 他</li> <li>・エネルギー使用量前年度比 電気4.7% ガス32.1% 灯油▲33.3%</li> <li>・新外来棟建築工事実績 2019年9月末 新外来棟工事完了</li> </ul>
総合企画室	室長(事務次長) 1名 課長補佐 1名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新外来棟に関する運用検討</li> <li>・病院経営分析業務</li> <li>・病床機能シミュレーション</li> <li>・横浜市二次救急拠点病院、輪番病院事業および疾患別救急医療体制</li> <li>・神奈川県、保土ヶ谷区、南区救急災害医療体制</li> <li>・予算作成</li> <li>・広報資料作成支援</li> <li>・総合案内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月曜祝日稼働を開始した。</li> <li>・A棟稼働後の課題整理と解決へのアプローチを実施した。</li> <li>・建築準備室とともにA棟竣工式典、内覧会の準備と当日の運営を行った。</li> <li>・A棟稼働開始とともに総合案内の業務を担った。</li> <li>・地域連携・患者支援センターと協力し毎月横浜市内の救急隊を訪問した。</li> </ul>
総務課	課長 1名 課長補佐 1名 課員 8名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人事(採用活動、実習受入れ)</li> <li>・労務(給与全般、社会保険)</li> <li>・庶務(補助金、施設基準、免許管理、院内保育園管理など)</li> <li>・広報(対外的な広報、患者サービス、イベントに関する業務)</li> <li>・医局事務、電話交換、事務当直</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A棟オープンに伴う各種届出、案内サイン検討や広報活動を実施した。</li> <li>・看護師採用では、インターンシップに加え、聖隷クリストファー大学対象の見学バスツアーを実施。応募者が着実に増加している。</li> <li>・スタッフ交代に伴い「総務課共通業務ラダー」を使用。教育内容と責任を明確にし、育成に努めている。</li> </ul>

## 開催実績

開催回数：年12回

(他、外部委員招聘しての医師臨床研修管理委員会3回)

定例開催日：毎月第2週水曜日

## 目標・開催目的

研修医の処遇・環境・研修内容をさらに向上し、より優秀且つチーム医療を大切にする人材に選ばれる病院を目指す。

また臨床研修人気地区・横浜において応募者数増員を計る。

## 2019年度総括

### 【指導体制・教育環境・安全管理】

- ・病院必修または研修医向け勉強会に参加  
《医療安全講習会、感染対策講習会、CPC症例検討会、臨床病理症例検討会、化学療法勉強会、CV勉強会、メンタルヘルス講習会、BLS・ICLS講習会、NST勉強会、臨床推論、レントゲンの読み方、死亡診断書記載方法、コードブルーシミュレーションなど》

・2020年1月25日(土)

JAMEP：基本的臨床研修能力評価試験受験

### 【学会発表】

- ・2020年3月 日本内科学会地方会発表  
コロナ感染拡大防止のため開催中止

### 【採用内容】

- ・研修医マッチング11年連続フルマッチ
- ・研修医募集説明会参加実績(2019年4月～2020年3月)  
MEC合同説明会、  
神奈川県医師会主催2019年合同説明会

### 【協力病院】

- ・大学病院(聖マリアンナ医科大学、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院、東海大学医学部付属病院)のローテイト可能な診療科の増設

## 2020年度目標

### 【研修医の確保】

- ・コロナのため医学生説明会出展中止
- ・病院見学中止の中で、密の環境を避けWebなどを用いた説明会・臨機応変な学生対応
- ・情報発信の新規開拓

### 【研修医教育の充実】

- ・研修医向け図書の充実、手技のための練習用備品購入・管理
- ・卒後臨床研修指導医講習会未受講者の受講推進
- ・外来研修、選択科研修の充実

## 開催実績

開催回数：1回(2019年2月)

定例開催日：年1回

## 目標・開催目的

医療で供するガスおよびガス設備の安全を確保し、医療ガスの安全な取り扱いと、正しい基礎知識の普及活動の実践

### 【活動報告】

- ・保安講習

新人オリエンテーションにて医療ガス設備やボンの安全な取り扱いなどの保安講習

「医療ガスの取り扱い」を実施

- ・医療ガス設備定期保守点検について点検実施日  
4月9日～10日 [12カ月点検]  
7月31日 [3カ月点検]  
10月28日～29日 [6カ月点検]  
1月23日～24日 [3カ月点検]

- ・改修工事に伴う、医療ガス設備工事の報告
- ・東棟1階 病床増設改修工事に伴う増設準備工事
- ・A棟1階心臓カテーテル室 酸素、空気、吸引アウトレット増設工事(1箇所)

## 2020年度目標

- ・保安体制強化のため、医療ガス設備を使用した職場向けに保安勉強会の実施

開催実績

開催回数：年12回  
 定例開催日：毎月第1週水曜日

目標・開催目的

- ①職員健診受診率100%の維持
- ②職員本人の健康意識向上のための取り組み
- ③メンタルヘルスケアへの取り組みの継続
- ④労働環境改善のための活動
- ⑤時間外労働の上限規制に対応した取り組み
- ⑥年次有給休暇の確実な取得に係る取り組み

2019年度総括

- ①職員健康診断・特殊健康診断の実施  
 夏 2019年5月～6月 受診率100%  
 冬 2020年1月 受診率100%  
 長期休職者・病欠者を除く  
 (ドック受診者含める)
- ②職員に対する予防接種の実施  
 ○HBワクチン  
 1回目接種月：2019年8月 接種者：91名  
 2回目接種月：2019年9月 接種者：91名  
 3回目接種月：2020年2月 接種者：90名  
 ○風疹・麻疹ワクチン  
 接種月：2019年8月 接種者：54名  
 ○インフルエンザワクチン  
 接種月：2019年10月、11月 接種者：637名  
 ○T-spot検査  
 医師・研修医・看護師の新入職員全員に  
 対して実施 受検者：54名
- ③職場巡視  
 巡視記録を作成。設備故障や棚の整理整頓の指導など、職場環境の改善などに努めている。
- ④講演会実績  
 日時：2019年10月1日 17時30分～  
 参加人数：58名  
 講師：聖隷健康保険組合 鈴木ます美氏  
 テーマ：「食コンディショニング  
 ～おなか スッキリ!!～」
- ⑤メンタルヘルスケア担当者会議の開催  
 衛生委員会内にメンタルヘルスケア担当者を置

き、職員のメンタルヘルスを推進するため開催している。ストレスチェックの結果分析、メンタル不調者の情報共有とサポート体制の検討を実施している。

- ⑥新卒入職者対象のストレスマネジメント研修、体験カウンセリングの実施  
 対象者  
 2019年度新卒入職者、および既卒入職者のうち希望者  
 ストレスマネジメント研修  
 2019年5月17日 参加人数：50名  
 体験カウンセリング  
 2019年5月9日より 1人15分程度  
 参加人数：69名
- ⑦全職場におけるノー残業デイ実施  
 毎月末に各職場より提出されるノー残業デイ報告書の取りまとめと報告。  
 各職員が毎月1日以上設けることを目標としている。  
 2019年実績：ノー残業デイ実施日数前年度比33%の増加
- ⑧時間外労働の上限規制への対応  
 毎月の時間外労働時間が30時間を超えた職員を委員会で把握。  
 年間360時間以内を目標に各職場への働きかけを実施。  
 36協定特別条項(年720時間未満、月100時間未満、月45時間以上が年6回未満)違反の該当者なし。
- ⑨年次有給休暇の確実な取得への対応  
 有休消化実績表を活用し、職員の有休消化状況を把握。有休取得義務対象者について、年間取得数が5日未満の該当者なし。

2020年度目標

- ①職員健診受診率100%の維持
  - ②職員本人の健康意識向上のための取り組み
  - ③メンタルヘルスケアへの取り組みの継続
  - ④労働環境改善のための活動
  - ⑤時間外労働の上限規制に対応した取り組み
  - ⑥年次有給休暇の確実な取得に係る取り組み
- 【重点目標】
- ①長時間労働改善への取り組み

## 栄養委員会

委員長 永井啓之

### 開催実績

開催回数：年5回  
定例開催日：不定期（5、7、9、11、2月）

### 目標・開催目的

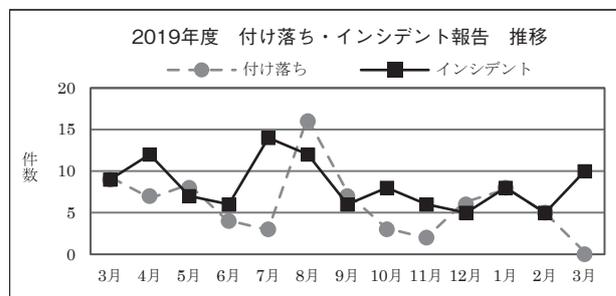
個々の適切な栄養管理と食事提供のために、食事療養の内容および安全な食事の提供方法について検討を行う。

### 2019年度総括

- 食事、栄養関係実績確認  
栄養食事指導件数、提供食数などの実績一覧により、現状把握などの意見交換を行った。指導件数は平均212件/月で内分泌内科縮小により減少、提供食数は平均19,963食/月と2018年度と同水準であった。
- インシデントレポートの報告と分析  
栄養課内より提出されたインシデントレポートの報告を行った。髪の毛やビニール片などの異物混入に関して、その原因と対策の意見交換を行った。
- 利用者の声の報告と対策  
「利用者の声」（投書）に対する回答の報告を行った。利用者の生の声を共有することで、安全でおいしい食事の提供に向けての検討を行うことができた。

- 嗜好調査の結果報告  
年2回の入院患者対象の嗜好調査の結果報告を行い、今後の食事内容や提供方法についての意見交換を行った。
- 検食の実施  
適切な食事提供を目指す目的で、実際に提供している病院食の検食を行った。
- かもめ食メニューの充実化  
緩和ケア病棟開設に向けてかもめ食のメニューとして塩昆布、おしるこ、そうめん、クリームワッフル、ココアワッフル、ミニたい焼き、ゆずシャーベットの追加を行った。

### 実績



### 2020年度目標

- 他部署と連携し、食事提供における安全性の保持
- 「利用者の声」に対する対応策の検討
- 増床に向けた食事提供方法の検討
- 嗜好調査によって要望の多かったメニューについて、病院食に取り入れる

## 広報委員会

委員長 鳥居直子

### 開催実績

開催回数：年12回  
定例開催日：毎月第2週金曜日

### 目標・開催目的

利用者および職員に当院を理解していただき、また当院と利用者および職員をつなぐものとしての広報活動を目的とし広報委員会を開催する。

### 2019年度総括

- 季刊誌「聖隷よこはま」（No.124～127）を年4回、各3,500部発行

- 外来診療担当表を毎月1日に3,000部発行
- 季刊誌および外来診療担当表の企画立案、執筆、校正作業
- 2018年度年報（第11号）300部
- ホームページの「聖隷よこはま～スタッフブログ～」の継続更新、アクセス解析およびモバイル利用件数の把握（毎月）
- 社内報「SEIREI」の企画立案、執筆
- 院内掲示管理（年1回）

### 2020年度目標

- 回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟など認知度を上げるため季刊誌、月刊誌、ホームページを活用して情報発信する。

# 化学療法委員会

委員長 野澤 聡 志

## 開催実績

開催回数：年12回  
定例開催日：毎月第2週火曜日

## 目標・開催目的

化学療法を安全かつ適正に推進することを目的とし、レジメンの妥当性の評価や承認、治療計画書の作成、化学療法運用方法の検討、スタッフへの啓発・教育などを行う。

## 2019 年度総括

申請レジメンの検討や承認、血管外漏出の発生報告、検討について年間を通じて行った。化学療法を施行した診療科は外科、呼吸器内科、消化器内科、脳神経外科、呼吸器外科、リウマチ・膠原病内科、腎臓内科の計7科であった。その他として下記の取り組みを行った。

- ・ベージニオが外来導入可能となり、外来導入レジメンが下記7種類となった。  
UFT+ユーゼル、TS-1、ゼローダ、ロンサーフ、イブランス、パクリタキセル、ベージニオ
- ・免疫チェックポイント阻害薬における副作用対策についての運用を開始した。
- ・入院患者の化学療法の注射箋も外来と同様に病棟へ払い出す運用へと変更した。
- ・薬剤師が抗がん薬の調剤時に、外来・病棟へ払い出す注射箋に抗がん剤の投与速度を記載する運用を開始した。
- ・外科がん患者カンファレンスを開始した。

- ・電子カルテの文書サマリに「化学療法関連」フォルダを作成し、免疫チェックポイント阻害薬説明書、抗がん剤による副作用の対処法、外来導入関連文書など多診療科で使用する文書を共有できるようにしたことで業務の効率が向上した。
- ・化学療法IVナースを新たに1名認定した。
- ・救急外来での化学療法患者への対応について救急外来スタッフ向けマニュアルを作成した。

## 実績

レジメン承認件数	通常申請	患者限定申請	既存レジメン改訂
	10件	0件	25件

	入院	外来	合計	前年度比
化学療法施行件数	182件	1,650件	1,832件	116.5%
化学療法混注件数	291件	2,141件	2,432件	108%

## 2020 年度目標

- ①外来での化学療法を安全に行うために必要な運用の検討や環境整備を行う。
- ②閉鎖式接続器具を見直す。
- ③より安全な化学療法を目的として「連携充実加算」の算定を開始する。算定にあたり外来化学療法加算を算定する患者に対し連携シートを交付し、保険薬局との連携を開始し当院HPへレジメンを掲載する。また保険薬局薬剤師を対象とした講習会を開催する予定である。また化学療法委員会へ栄養士の参加を開始する。

# 図書委員会

委員長 伊東 宏

## 開催実績

開催回数：年4回  
定例開催日：不定期月第3週水曜日

## 目標・開催目的

新棟移動にあたり、各部署にある図書の確認  
購入図書のアンケート調査の実地  
不要図書の廃棄

## 2019 年度総括

新棟移動のため図書の移動があり、整理整頓をした。読まれていない雑誌の購入停止や必要な図書の購入はアンケート調査よりできた。  
利用規定の改訂（会議室としての使用不可、破棄方法の追記）  
電子ジャーナル共同購入担当者会議に出席した。

## 2020 年度目標

図書館利用の促進  
電子ジャーナルの充実化  
古書の整理

## 開催実績

開催回数：年12回  
定例開催日：毎月第2週月曜日

## 目標・開催目的

- ・緩和ケア病棟の開設に向けた整備
- ・看取りケアの質の向上
- ・非がん疾患の緩和ケアの充実
- ・緩和ケア教育プログラムの検討

## 2019 年度総括

入院患者の緩和ケアチームの介入件数は84件と増加した。非がん患者の症状マネジメントの依頼が増加したことが要因と思われた。がん患者の多くが消化器がん患者であり、疼痛や消化器症状の症状マネジメントに関する依頼がほとんどであった。

退院した33名中、26名が訪問診療や訪問看護のサービスを受け、うち13名はホスピス機能を持つ有料老人ホームなどの施設を利用していた。また、緩和ケア外来を利用する患者は55名であり、半数以上ががん治療中の患者であった。

緩和ケア外来に通院する患者は、症状緩和の治療を受けるだけでなく、がん治療や療養について考え、ACPを行う場となっていた。

## 実績

### 入院患者緩和ケアコンサルテーション実績

依頼件数		84件
区分	がん	68
	非がん	16
がん患者について		
依頼の時期	診断から初期治療前	2
	がん治療中	18
	積極的がん治療終了後	48
依頼時の依頼内容	疼痛	61
	疼痛以外の身体症状	17
	精神症状	2
	家族ケア	18
	倫理的問題	8
	地域との連携/退院支援	31
依頼時のPS	1	6
	2	19
	3	22
	4	21
転帰	退院（うち在宅ケア導入）	33 (26)
	死亡退院	31
	緩和ケア病棟転院	2
	その他の転院	1

## 2020 年度目標

- ・緩和ケア病棟の開設に向けた整備
- ・看取りケアの質の向上
- ・心不全緩和ケアの推進
- ・緩和ケア市民・医療者講座の開催：緩和ケア市民講座
- ・緩和ケア病棟スタッフ教育

## 開催実績

開催回数：年12回  
定例開催日：毎月第4週水曜日

## 目標・開催目的

院内感染予防および感染防止対策の充実と強化を図る

## 2019 年度総括

- 1) 職員対象院内感染対策勉強会開催  
第1回「薬剤耐性菌について」  
第2回「輸入感染症って？」  
抗菌薬適正使用「感染症治療で押さえておくべきポイント」
- 2) 月毎の検出菌分離状況・耐性菌検出状況・結核陽性患者の把握  
・MDRP（多剤耐性緑膿菌）1件
- 3) 特殊抗菌薬使用状況  
・特殊抗菌薬適正使用率81.1%

- 4) 針刺し切創および血液体液曝露状況の把握と対策  
・針刺し切創23件 皮膚粘膜曝露9件
- 5) 手指衛生実施回数6.34回/患者日（病棟）  
23.94回/患者日（急性期ケアユニット）
- 6) 安全機構付留置針導入
- 7) ICT/ASTラウンドの実施（週1回）  
・環境ラウンド  
・抗菌薬適正使用ラウンド328件
- 8) 血液培養2セット率99.0%
- 9) 育生会横浜病院と年4回カンファレンス開催
- 10) 済生会横浜病院・横浜栄共済病院・横浜保土ヶ谷中央病院と年1回相互ラウンド

## 2020 年度目標

- ・新型コロナウイルス感染症対策
- ・院内感染防止対策の徹底および推進
- ・抗菌薬適正使用支援チーム（AST）活動充実
- ・サーベイランス還元情報の活用

# クリニカルパス委員会

## 開催実績

開催回数：年10回  
定例開催日：毎月第3週月曜日

## 目標・開催目的

疾患に対して科学的根拠に基づいた質の高い水準で保たれた医療を提供できるクリニカルパスの作成を行っていくとともに、情報を共有化しチーム医療を実現、患者および家族と医療を提供していく中での問題点の共有、診療報酬の適正化を図っていくためにクリニカルパスの審査や普及に向けた取り組みを行う。

## 2019 年度総括

1. クリニカルパスの導入支援。乳腺科、脳神経外科に運用開始の支援を行った。乳腺科4種類、脳神経外科6種類が運用を開始している。
2. バリエーションの集計を開始した。クリニカルパスの精度を高めるために3月に1回バリエーションの集計結果を報告している。また、集計結果は院内で共有されている。

3. 作成基準、運用の見直しを行った。病棟の増築にともないクリニカルパスの作成基準、運用の見直しを行った。
4. クリニカルパス関連統計の分析を行った。院内の統計データとクリニカルパス学会で公開されている統計データの比較分析。また、クリニカルパス毎の入院期間の検証などを行った。
5. 2019年度クリニカルパス使用率は、クリニカルパス使用患者数2133名（退院患者数5868名）使用率36.4%であった。  
（参考：2017年度17%、2018年度30%）

## 2020 年度目標

1. クリニカルパス使用率の向上  
⇒バリエーションの分析を行い、クリニカルパスの精度を上げて使用率40%から50%を目指す。
2. バリエーションの分析  
⇒定期的にバリエーションの分析を行い、クリニカルパスの精度を高める。

## 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第4週月曜日

## 目標・開催目的

聖隷横浜病院における、救急患者の受入れ強化、救急業務の効率化などを検討することを目的として開催する。

## 2019年度総括

## ○救急車受入れ強化対策

時間外救急車受入れ強化対策として下記対策を立案、実行した。

1) 毎月搬送患者の報告書を作成し各救急隊へ持参。その際、救急隊からの意見・要望を把握し委員会の議題に取り上げ改善を行った。

2) 救急車・ウォークインの受入れ状況について月次で情報分析を図った。

## ・救急車受入れ状況

(時間内外における受入れ・要請件数、救急隊別件数など)

## ・救急入院率

3) 院内開催および医師を各区消防署に派遣し、教育講演会の実施。救急隊との関係強化を図った。

## ○院内救急対応システム（RRS：Rapid Response System）の運用開始

入院患者の急変を早期に気づき対応できるように、特定行為研修を履修した認定看護師によるRRSを6月から開始。2019年度は月平均18回の患者対応を実施。

## ○救急救命士の業務拡充

JTAS（緊急度判定支援システム）による救急患者のトリアージ実施。

全職員へBLS（一次救命処置）講習の定期開催。診療・処置介助および、新規患者への問診実施。防災・搬送訓練および急変対応勉強会の開催。

## ○特別顧問 相馬一亥 先生

2015年度より特別顧問として救急委員会へお招きしており、引き続きの救急体制や救急救命士の教育など幅広い見地から助言・評価をいただいた。

## ○ICLS講習会

2回開催し院内外より合計24名が受講した。

## ○救急フォーラム

院内外で3回開催し、合計58名の救急隊員などが受講した。

## ○コードブルー対応

2019年度は6件の要請があり、各々事例について報告を行い適切な対応を検討した。

RRSの開始に伴い、早期の気づき対応でコードブルーの要請は大きく減少した。

## 2020年度目標

## (ア) 救急診療体制の再構築と強化

①一般輪番病院としての受け入れ体制の確立

②救急車受け入れ件数：年間3,000件

## (イ) 救急重点診療科の受け入れ態勢の強化

①「急性心疾患」、「脳血管疾患」、「外傷（整形外科）救急」の受け入れ体制の充実

②急性期ケアユニットの病床稼働率向上  
80%以上

## 実績 救急車受入実績

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
2015年度	277	276	295	357	386	306	307	303	316	372	387	323	3,905
2016年度	320	303	299	366	374	317	324	371	419	469	389	407	4,358
2017年度	415	387	371	453	429	396	412	423	500	560	458	445	5,249
2018年度	418	399	410	520	447	400	477	418	501	558	390	388	5,326
2019年度	430	396	387	452	536	484	462	479	521	526	360	324	5,357

## 開催実績

開催回数：年12回  
定例開催日：毎月第1週月曜日

## 目標・開催目的

血液浄化センターの運営を円滑にするため、また人工腎臓を用いた治療に関する機器および使用される透析液の安全管理を行う。

## 2019年度総括

- ・2019年度は8416件（入院：1037件・外来7379件）の透析治療を提供した。年度末より非常勤体制となり、外来透析・入院透析ともに減少したため、2018年度より提供件数が減少した。
- ・2017年度より取り組みを始めたそら豆チーム（CKDチーム）の取り組み、CKD外来看護師の介入により、その人らしく腎不全期・腎不全終末期と人生の終末期に向き合えるための支援を継続して行っている。

- ・エコー下ガイド穿刺の技術習得者が8名（看護師4名・臨床工学技士4名）となり、4名の穿刺困難患者に実施しており、シャントを守るための支援を強化できた。
- ・2019年度は新外来棟へ移動し、新しい環境で透析治療を開始した。水質の改善によりOn-line HDFでの治療が増加した。落雷による非常電源停止により、On-line HDFができなくなるというできごともあったが、例年の防災訓練により速やかに生食返血にて患者に影響なく透析を終了することができた。入院透析患者の搬送や、病棟へのリリーフ、病棟カンファレンスへの参加など積極的に病棟との連携・支援を行うことができた。

## 2020年度目標

2020年度は非常勤体制となるため、患者が安全で適切な治療・ケアが継続して受けられるよう業務やシステムの見直しを行い、院内・外と連携していく体制をつくる。

# 研修委員会

## 開催実績

開催回数：年12回  
定例開催日：毎月第3週火曜日

## 目標・開催目的

病院理念を基盤に、職員一人ひとりが、チームおよび組織の中で自己の役割を自覚し、立案した目標に対して責任をもって遂行することができ、よりよい医療を提供できるようになることを目的に教育活動（階層別研修）を行う。

## 2019年度総括

- <新人職員研修>  
2019年6月27日～6月28日  
研修参加者：研修生58名  
インストラクター13名
- <2年目職員研修>  
2019年5月30日～5月31日  
2020年2月6日～2月7日  
研修参加者：研修生37名  
インストラクター8名

## <中堅職員研修>

2019年8月28日、9月25日～9月26日、  
10月29日、11月27日、2020年2月26日  
研修参加者：研修生12名  
インストラクター10名

## <アドバンス研修>

2019年2月4日  
研修参加者：研修生5名  
インストラクター4名

各階層統一で学習の循環過程を常に意識し、日常の体験を通して自分や他者との関わり方に気づき、自分やチームの在り方を考えられる環境を提案した。また、階層別に研修生の特性を考慮したプログラムを構成することで、自職場に立ち返った時に役割や将来を各階層で落とし込めるよう努めた。

## 2020年度目標

病院理念を常に意識し、変わり続ける人材の特性と、社会の在り方に応じて、より効果的な研修内容を探求する。さらに、研修を行う委員自身のスキル研鑽にも取り組む。

## 減免・無料低額診療委員会

委員長 山本 功二

### 開催実績

開催回数：年7回

定例開催日：第2週火曜日（4月、6月、7月、8月、9月、10月、3月）

### 目標・開催目的

生活困窮者の医療費の一部または全額を免除し、必要な医療を受け自立した日常生活を営めるよう支援する。

### 2019年度総括

2019年度の減免実績率は11.7%であった。広報活動については、南区役所生活支援課担当者より無料低額診療事業の利用方法について問い合わせがあり、当院において事業説明とディスカッションを行った。

神奈川県医療福祉施設協同組合の共通書式である「連絡票」を利用した無料低額診療事業の利用相談は2件であった。状況を確認したところ、医療費の支払いは可能とのことで減免には至らななかったが、2件とも過去に情報交換会を行った区役所からの利用相談であった。

情報交換会を実施したことにより、行政の無料低額診療事業の認知度向上につながっていることがうかがえた。今後も院内外への啓蒙活動に努めたい。

### 2020年度目標

- ・無料低額診療事業を行うための条件となる基準を全て満たし、当該事業における減免実績が患者総数の10%以上となるよう努める。
- ・院内外に対する「無料低額診療事業」の啓蒙活動を実施する。

## 購入委員会

委員長 山本 功二

### 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第4週木曜日

### 目標・開催目的

3千円以上20万円未満の医療消耗備品・消耗備品の購買および設備修繕における妥当性・必要性・公平性・汎用性などを、多職種からの考察をもって適正に判断するために行う。

### 2019年度総括

#### ○医療消耗備品の部

申請総数297件のうち新規は48件、増数は109件、消耗交換は140件の申請であった。

新規・増数の多くは、増加傾向がある整形外科手術器材の購入が目立った。

消耗交換の多くは、破損や老朽化による更新で

あり、対象となった器械の中には国立病院時代から使用している器械類も散見された。紛失は、1件の報告があり、誤って廃棄されたものと思われる。

#### ○消耗備品の部

申請総数75件のうち新規は45件、増数は8件、消耗交換は22件の申請であった。

2018年度の申請総数と比較すると半分ほどの件数となっているが、新外来棟へ移設する際に不要となった備品を他部署で使用するなどした結果と考える。

### 2020年度目標

2020年度は新規で67床の増床を控えているため、増床に関連する職場からの購入依頼が増加することが見込まれる。購入の価値分析（必要性、効用性、費用対効果、使用満足度、廉価性、標準化）に基づいた審議を行っていく。

# NST委員会

委員長 大塚純子

## 開催実績

開催回数：年6回  
定例開催日：奇数月第4週木曜日

## 目標・開催目的

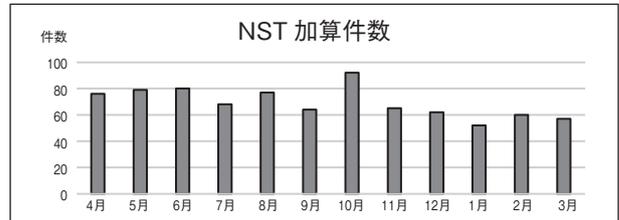
当委員会はNSTの活動、運営に関する事項の審議や養成セミナー、合同カンファレンスの企画開催など、NST全体のマネジメントを行う。

## 2019年度総括

- NSTセミナーを年4回開催。  
内容は栄養管理に関わる講義および栄養補助食品の紹介など。  
1回目下痢対策 14名  
2回目嚥下について 17名  
3回目COPDについて 25名  
4回目NST合同カンファレンス 39名  
計95名
- NST加算算定病棟の維持（東2病棟・東3病棟・西1病棟が対象病棟）
- NST加算非算定病棟において、NST管理記録用紙を用いた継続性のあるカンファレンスの実施を開始。

- 経管栄養剤「ハイネイゲルLC」（大塚製薬工場）の375mlと500mlの採用

## 実績



2019年												2020年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
76	79	80	68	77	64	92	65	62	52	60	57			

## 2020年度目標

- NST加算算定病棟の拡大
- 回復期リハビリテーション病棟および緩和ケア病棟におけるNSTカンファレンスの実施開始
- 栄養管理にかかわる所定の研修を修了した常勤医師・看護師・管理栄養士・薬剤師の拡大と各病棟への配置
- 栄養管理における最先端の知識の普及

# 役割分担推進委員会

委員長 野澤聡志

## 開催実績

開催回数：年11回  
定例開催日：毎月第3週木曜日

## 目標・開催目的

医師および看護職員の負担軽減などを目的として、多職種による役割分担を推進・調整する。  
診療支援室が行う医師事務作業補助業務の適否を検討する。

## 2019年度総括

- 検査技師による病棟での早朝採血の検討
- 検査技師による心電図検査の病棟内実施
- 新任常勤医師への初日オリエンテーションの検討と実施

- 病院勤務医、看護師の負担軽減計画の承認
- 心臓血管センター内科「実臨床におけるUltimaster薬剤溶出ステントの安全性および有効性に関する多施設前向き観察研究における、追跡データ収集業務」「レパーサ市販後調査のデータ入力業務」「K-ACTIVE症例登録」の承認
- 病理診断科データ整理、入力補助の承認
- 脳神経外科「K-NETregistry症例データ登録」の承認
- 委員会規約、医師事務作業補助業務に関する院内規定の承認
- 整形外科「症例レジストリー（JOANR）登録」の承認

## 2020年度目標

医師・看護師の負担軽減支援のみならず事務・医療技術部門の働き方にも配慮しながら、役割分担を積極的に検討していく。

## 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第4週金曜日

## 目標・開催目的

保険請求の適正化を目的として、返戻・査定・再審査請求に関する報告、適切なDPCコーディングを行う体制の確保および院内の保険診療に関する知識向上のための取り組みなどを行っている。

## 2019年度総括

- ・ 査定・再審査請求などに対する取り組み  
査定内容について検討し、再審査請求や算定運用の見直しなどを実施した。
- ・ 保険診療に関する講習会の開催  
2019年9月17日 参加者42名  
2020年3月30日 参加者43名

- ・ DPCコーディングの適正化に向けた取り組み  
DPCのコーディングが適切に行われているかをチェックした。  
ICDコードの詳細不明コード10%未満の維持に向けた取り組みも継続して実施し、毎月達成することができた。

## 2020年度目標

- ・ さらなるコンプライアンスの遵守と正しい保険診療の知識の院内周知を図る。
- ・ DPC傷病名コーディングテキストなどを活用し、適切な傷病名コーディングを推進する。
- ・ 査定、返戻について組織的に検討し、より適正な保険請求を目指す。

# 接遇委員会

## 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第2週木曜日

## 目標・開催目的

職員の接遇マナーを向上させることで、利用して下さる方々の安心感・満足感につなげる。また、職員の快適な職場環境の形成を目的として聖隷横浜病院接遇委員会（以下、委員会）を開催する。

## 2019年度総括

### 1. 全部門への接遇巡視

2019年度は、接遇マニュアルの確認リストをもとに巡視を徹底的に行った。定期的な活動の結果、職員も身だしなみの確認を積極的に行うようになり、接遇マナーに対する意識向上につながった。

### 2. 接遇だよりの発行

「利用者の声」からご指摘やご意見を抜粋し改善すべき内容とアドバイスを接遇だよりにして月1回配信を実施。親しみやすい内容にこだわった「ワンポイント接遇」を各部署に回覧掲示することで、接遇を毎月違った内容で、定期的に意識して頂いた。結果、職員から「見直す機会になった」という声が上がリ、接遇について考えるきっかけができた。

## 2020年度目標

2020年度も巡視と接遇だよりを継続。全職員が全ての利用者・患者に対する接遇、および職員同士の接遇への理解を深め、相手を気遣った言葉をかけることや、笑顔で接するなど相手の立場に立った行動ができるよう、接遇のスキルを身につけ向上するよう推進していく。

## 開催実績

開催回数：年12回  
定例開催日：毎月第2週木曜日

## 目標・開催目的

診療情報管理業務の円滑かつ効率的な運用のために、診療録に関する事項を検討、討議する活動を行い、質の高い診療録の管理および診療記録を用いた適切なインフォームドコンセントを達成することを目標とする。

## 2019年度総括

- ・新規診療記録審査
- ・インフォームドコンセント成立のための説明書、同意書作成基準の設定
- ・貸出し期限を過ぎた紙カルテの早期返却への取り組み
- ・診療録管理体制加算1の算定に向けた取り組み

- ・退院サマリーの退院後14日以内記入に向けた取り組み
- ・死亡解剖統計報告
- ・ICD分類別疾病統計表の作成・報告
- ・資料袋の廃棄と院外倉庫へ移動報告

## 2020年度目標

- ・診療記録の審査や説明書、同意書の作成検討を行い、適切なインフォームドコンセントの達成を目指す。
- ・診療録管理体制加算1の算定条件である退院後14日以内の退院サマリー記入率90%以上を目指すために積極的な取り組みを行う。
- ・診療記録の量的・質的監査を定期的を実施し、結果を各部署にフィードバックすることで診療録の規定に基づいた質の高い診療記録を作成できるようにする。
- ・死亡患者の遺族・後見人に対するカルテ開示依頼書の改定。
- ・警察および検察などの捜査機関からの診療情報提供要請時の運用改定と、院内保管用回答書の作成。

## 開催実績

開催回数：年12回  
定例開催日：毎月第2週木曜日

## 目標・開催目的

個人情報保護法と厚生労働省のガイドラインに基づき定められた聖隷横浜病院個人情報保護方針に従って、個人情報の正しい管理と運用を行うことを目標とする。

## 2019年度総括

個人情報管理委員会では、個人情報の提供（診療情報の開示）に関する審査を随時実施し、個人情報の適正な管理のため、院内システムのセキュリティ対策について検討を行っている。以下に2019年度の主な活動内容を挙げる。

- ・個人情報提供（診療情報の開示）審査
- ・個人情報の取り扱いに関するインシデントの報告と対策
- ・入職者への個人情報取り扱いに関するオリエンテーションの実施

- ・全職員を対象とした個人情報、院内セキュリティ講習会の実施  
2019年12月2日開催  
『医療機関における個人情報保護の基本と実施すべき情報セキュリティ対策』
- ・迷惑メール、インターネット利用における注意喚起
- ・ファイルサーバなどの活用によるUSBメモリ利用数の削減の推進
- ・職員への個人情報保護に対する注意喚起
- ・サイバーインシデント発生時の連絡体制の確立など規程の整備

## 2020年度目標

2020年度は新型コロナウイルス感染症の流行に関連し、病院が取り扱う情報や業務フローの変化がおきる状況にある。個人情報管理委員会においては、変化へ迅速に対応できるよう個人情報の取り扱いに関する審査などを迅速に行っていく。また、2019年度に引き続きUSBメモリの削減やセキュリティリスクの注意喚起を行い、インシデントの発生を防ぐ活動を行う。

## 安全運転委員会

委員長 山口 裕之

### 開催実績

開催回数：年4回

定例開催日：奇数月第1週火曜日

### 目標・開催目的

- ・交通事故撲滅と安全運転意識の向上

### 2019 年度総括

#### ○交通事故防止啓発

- ・聖隷横浜病院交通安全計画
- ・交通安全ニュースの掲示と配布の実施

#### ○事故発生状況の報告

- ・ハイリスク事故の報告

#### ○交通安全講習会の開催

日 時：2020年1月14日（火曜日）

17：30～18：30

テーマ：「あおり運転、道路交通法改正、事故多発地域について」

講 師：保土ヶ谷警察署 交通課

交通総務係 武田 翔氏

### 2020 年度目標

交通安全関連の法令・マナーに関するテストおよび安全運転講習会への参加を呼びかけ、職員の安全運転意識の向上を図る。

## 防災委員会

委員長 山口 裕之

### 開催実績

開催回数：年7回

定例開催日：奇数月第2週火曜日

### 目標・開催目的

火災予防および防災対策の強化を図るとともに職員の防災意識、知識の向上を図る。

### 2019 年度総括

#### ○防災啓発活動

- ・新入職員防災オリエンテーション  
(防災活動の定義・火災地震時の初動行動・自主参集・安否連絡・避難誘導・搬送法)
- ・新入職員防災設備の取り扱い説明  
(消火器・消火栓・非常放送設備・火災通報装置)

#### ○地域防災活動参加

- ・保土ヶ谷区自衛消防組織連絡協議会
- ・保土ヶ谷区自衛消防隊消火技術訓練会

#### ○防災訓練

- ・地震訓練実施  
2019年10月24日実施  
(本部設営・非常放送・情報伝達・搬送)
- ・災害対策本部訓練  
2020年1月29日実施  
(本部設営・本部内の動きの確認)

### 2020 年度目標

- ・災害時の組織の見直しを行いBCPマニュアルの策定
- ・事業継続を想定した防災訓練の実施

## 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：偶数月第3週火曜日

## 目標・開催目的

医薬品など選択の審議決定を通し、医薬品の適正使用および薬剤管理の合理的運営に資する。

## 2019年度総括

- ・ 委員会は隔月（偶数月）の第3火曜日に計6回（第99回～第104回）開催され、各薬剤の採用・中止などについて討議、決定された。
- ・ DPC対策として、経済性、安全性、情報提供の充実度などを総合的に考慮した結果、第99回委員会において2薬剤を、第101回委員会において6薬剤を後発品へ変更した。  
この結果2019年3月度の後発使用の数量割合は上限値である85%を超え、約93%であった。後発品使用体制加算1を算定している。
- ・ 2019年3月31日現在、後発医薬品採用品目率（院外限定を除く）が23.48%となり、中核的医療機関として使用促進を図った。

・ 第103回委員会において使用期限切迫薬剤および使用期限切れ薬剤の削減のため、

- ①使用促進のため、期限切迫薬（期限まで6ヶ月を過ぎた薬剤）のリストを薬事委員会の結果とともに全職員に情報共有すること。
- ②薬事委員会にて期限切れ廃棄薬および期限切迫薬の採用区分変更を検討し、採用中止となった薬剤は今後の薬事委員会にて1増1減の「減」薬剤とする。

以上2点の運用が承認され、第104回委員会より開始され2019年度で15剤の採用区分変更が承認された。

- ・ 医薬品による健康被害情報報告書作成の報告を1件行った。

## 2020年度目標

- ・ DPC対策として、後発医薬品採用品目・採用率の増加検討。
- ・ 医薬品の適正使用、安全使用のための対策を検討。

## 実績

	2019年3月31日現在の採用薬剤数				2020年3月31日現在の採用薬剤数			
	内服	外用	注射	計	内服	外用	注射	計
採用薬剤数	900	370	504	1,774	932	382	516	1,830
院外限定	406	140	11	557	431	150	14	595
用時購入	32	7	101	140	31	9	105	145
その他採用区分	462	223	392	1,077	470	223	397	1,090
後発品	193	55	108	356	170	45	116	331
後発品目数（院外限定）	24	12	0	36	26	14	1	41
後発品目数比率（院内）	34.21%	18.70%	21.91%	26.29%	28.74%	13.36%	22.91%	23.48%

## 褥瘡対策委員会

委員長 齋藤 徹

### 開催実績

開催回数：年6回  
定例開催日：偶数月第4週水曜日

### 目標・開催目的

推定褥瘡発生率1.0%未満 ステージ3以上の褥瘡発生ゼロ 院内褥瘡発生数50以下

### 2019年度総括

具体的な活動を以下に示す。

#### 【褥瘡対策委員会】

褥瘡回診の実施、広報誌「褥瘡通信」の発行、褥瘡対策チーム会議の開催

#### 【看護部褥瘡予防委員会】

看護師・看護助手に対するポジショニング研修、褥瘡対策診療計画書記録監査、院内褥瘡発生患者の分析、褥瘡予防ケアの周知活動、スキンケアマニュアル・MDRPUマニュアルの作成。

2019年度は全体褥瘡推定発生率1.16%、有病率3.66%、褥瘡のみの推定発生率0.96%、MDRPU推定発生率0.21%、院内褥瘡発生患者数67名であった。目標は達成できなかったが、褥瘡推定発生率が大幅な上昇はなかった。自重性の褥瘡のみの推定発生率は0.96%であり、今後の課題としてはMDRPUを減らすことも重要であると思われる。

### 2020年度目標

推定褥瘡発生率1.0%未満 ステージ3以上の褥瘡発生ゼロ 院内褥瘡発生数55以下

## 医療の質改善委員会

委員長 大内 基史

### 開催実績

開催回数：年3回（院内ラウンド1回）  
定例開催日：不定期第3週月曜日

### 目標・開催目的

- ・目的
  1. 病院機能評価を受審し、改善後の機能が維持・更新できることを目的とする。
  2. 院内のマニュアル管理、現場巡視などを行い、改善を行う。
- ・目標
  1. 院内マニュアル書式の統一
  2. 簡易マニュアル作成
  3. 処置・検査にともなう鎮静法の申請の導入。PSPの活動に合わせて行う。
  4. 死亡時のフローチャート
  5. カルテ監査（病棟同士の複数名での監査）

### 2019年度総括

・第1回 2019年8月5日開催  
病院機能評価 評価結果のうちB評価であった項目に焦点をあて、課題と思われる点について確認・検討することとなった。

- ・第2回 2019年11月11日開催  
B評価項目6点の状況について現況確認を行った。改善された項目と改善が必要な部分について検討した。
- ・2020年2月17日 院内ラウンド実施  
病院機能評価で行われた病棟概要をもとに2グループに分かれラウンドし、引き続き医療の質改善が行われているか確認した。
- ・第3回 2020年2月17日院内ラウンド後開催  
院内ラウンド結果を確認。改善が必要な部分について来年度引き続きラウンドし、維持・更新できているか確認する。

### 2020年度目標

#### 日程

- ・委員会開催日程 5月、8月、11月、2月 第3月曜日

- ・院内ラウンド 8月、11月、2月委員会前実施

#### 目標

- ・2019年度と同様
- ・2020年12月 期中の確認書類を日本医療機能評価機構へ提出

## 輸血療法委員会

委員長 野澤 聡 志

### 開催実績

開催回数：年6回  
定例開催日：奇数月第4週金曜日

### 目標・開催目的

1. 輸血管理料Ⅱの輸血適正使用加算再取得を目指す
2. 輸血運用について検討し、必要に応じて改善する
3. 輸血マニュアルを最新の情報に基づき作成・改訂し、随時更新および啓発することで安全な輸血療法実施を推進する
4. 輸血療法の説明および同意書取得・輸血実施時の3点認証の徹底を推進する
5. 輸血後感染症検査実施を推進する

### 2019年度総括

1. 院内における血液製剤および血漿分画製剤の使用状況と輸血副作用の把握（適正使用加算施設基準、廃棄率、輸血前後感染症実施率含む）
2. 輸血同意書、血漿分画製剤同意書取得状況および記載内容不備の把握

3. 輸血管理料Ⅱ取得状況の把握
4. 輸血マニュアルの改訂
5. 輸血療法委員会主催の輸血勉強会を開催
6. 輸血療法におけるインシデント、オカレンス事例の振り返りと対策検討
7. 神奈川県合同輸血療法委員会参加  
適正使用加算の施設基準を満たしたことにより、来年度から加算の再取得が可能となった。

### 2020年度目標

1. 輸血運用について検討し、必要に応じて改善する
2. 輸血マニュアルを最新の情報に基づき作成・改訂し、随時更新および啓発することで安全な輸血療法実施を推進する
3. 血液製剤および血漿分画製剤の適正使用を推進し、適正使用加算の継続取得を目指す
4. 安全な輸血療法実施を目的とした、輸血勉強会を開催する
5. 輸血療法の説明および同意書取得・輸血実施時の3点認証の徹底を推進する
6. 同意書取得漏れおよび内容不備の件数を減少させる
7. 輸血後感染症検査実施を推進する

## 臨床検査適正化委員会

委員長 平出 聡

### 開催実績

開催回数：年4回  
定例開催日：奇数月第3週木曜日

### 目標・開催目的

1. 外部精度管理調査に参加し、検査精度の向上に努める
2. 医療安全と検査効率を考慮した運用方法を検討する
3. 新規検査項目導入や測定方法の変更などを検討し、関係部署への迅速な啓発を行う
4. 検査依頼件数および診療報酬査定状況をふまえ、臨床検査の適正化を図る

### 2019年度総括

1. 外部精度管理調査の結果報告
2. 新規採用および受託中止項目について報告

3. 院内実施検査項目および外部委託検査項目の内容変更について報告
4. 生化学分析装置および免疫分析装置の更新について検討報告
5. A棟エアシュータの運用規定およびA棟移転に伴う検査運用変更
6. 検査課凍結保存検体の廃棄承認
7. B棟ポータブルエコー設置に関する検討

### 2020年度目標

1. 外部精度管理調査に参加し、検査精度の向上に努める
2. 検査運用の変更について、医療安全と効率を考慮した検討を行う
3. 新規検査項目導入や測定方法の変更などを検討し、関係部署への迅速な啓発を行う
4. 検査依頼件数および診療報酬査定状況をふまえ、臨床検査の適正化を図る

## 開催実績

開催回数：年9回  
定例開催日：毎月第3週火曜日

## 目標・開催目的

聖隷横浜病院において行う医療行為および医学研究の実施にあたり、「ヘルシンキ宣言」の趣旨に沿った倫理上の指針を尊重し、倫理的配慮を図る。

## 2019年度総括

2019年度は当院の倫理指針に基づき23件の審議検討を行った。

第1回 2019年4月23日

- ・再生医療PRP療法（多血小板血漿療法）の新規開始について
- ・SCUにおける機能回復に向けた看護介入～NIHSSスコアを使用した退院時転帰予測と退院支援～

第2回 2019年6月25日

- ・腹腔鏡下右側、S状結腸切除術における短期成績の比較検討
- ・急性期病院におけるアドバンス・ケア・プランニング普及の取り組み
- ・「白内障患者に対する服薬指導方法の検索」

第3回 2019年7月23日

- ・炎症性肺疾患の術後痛について、非炎症性肺疾患の術後痛との比較検討
- ・メディカルコンソールパネル「SREEP (Sleep & Relax Excellent Environment Panel)」を用いた入院患者の睡眠評価に関する実証的考察

第4回 2019年8月27日

- ・身体抑制を行わずに点滴自己抜去を予防する
- ・高精細CTによる画像診断能の向上に関する研究

第5回 2019年9月24日

- ・がん組織マイクロサテライト不安定性 (MSI) 検査の説明同意書について
- ・急性胆嚢炎に対する治療法の検討
- ・ICUダイアリーの必要性
- ・「スマイラフの特定使用成績調査」の結果を用いた公表に関する同意説明書の取り扱いについて

- ・「再生医療PRP療法（多血小板血漿療法）の新規開始について」の同意書

臨時開催 2019年10月15日

- ・診療拒否（輸血・治療）をされる入院中患者に対する病院としての倫理的な判断

第6回 2019年12月17日

- ・時間制限勤務者の状況と周辺環境の変化－2008年と比較して－
- ・関節リウマチを対象とした日常診療下におけるサリルマブの前向き観察研究 (PROFILE-J)
- ・循環器疾患診療実態調査について
- ・コニカミノルタヘルスケアフォーラム in 浜松での発表

第7回 2020年2月18日

- ・日本整形外科学会症例レジストリー (JOANR) 参加について

第8回 2020年3月17日

- ・股関節に対する再生医療PRP療法（多血小板血漿療法）の開始について
- ・オンライン臨床教育評価システム (EPOC2) 参加について
- ・多遺伝子パネル検査 BrestNext (遺伝性乳がんの遺伝学的検査)
- ・OvaNext (遺伝性乳がん、卵巣がん、子宮体がんの遺伝学的検査) の実施について

## 2020年度目標

病院として検討すべき臨床倫理に関する課題および臨床研究に関する事項について2名の外部委員を加え、リスボン宣言やヘルシンキ宣言に示された倫理規範や人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、改定個人情報保護法などを踏まえた審議を引き続き実施する。

また、新たな診療・治療を実施する場合は、倫理面や安全面に配慮しながら組織的に検討および承認ができる体制づくりを目指したい。

## 開催実績

開催回数：年12回  
定例開催日：毎月第3週水曜日

## 目標・開催目的

当院利用者の安全性確保およびその向上を図るため、医療行為、その他の業務における危険性の認知、分析と対策、実行を統合して行う。

## 2019年度総括

- 安全管理体制の評価と職員間での共有
    - 17件の事例検討を行い必要に応じて運用、再発防止策などを決定し職員へ周知した。
    - 医療安全マニュアルなどの改訂を実施。13のマニュアル・基準・指針・規約について策定、改訂、廃止の承認を行い、セーフティマネージャーと共有した。
    - 医療安全標語の募集を行い、職員へ医療安全への関心を高める取り組みを実施した。
  - 全職員安全研修の実施
    - Team STEPPS Step I～Ⅷの振り返り研修を新入職員および異動職員へ実施した。
    - Team STEPPS Step IXの研修を同一内容で15回実施した。未受講者に対しては資料およびテストを配布し伝達講習を実施した。対象職員は全職員で744名中517名が受講、未参加者165名が伝達講習を受講し、伝達講習を含めた研修参加率は91.7%であった。
- ・医薬品安全管理セミナーを計6回、同一内容で実施した。対象職員は全職員で706名中261名が受講、358名が伝達講習を受講し、伝達講習を含めた研修受講率は87.7%であった。
- 医療安全週間の取り組み内容
 

11月25日から29日を当院の医療安全週間とした。バッジ配布、チェックバックと5S、保健所立ち入り検査項目の確認を目的に職場ラウンドを実施した。また有害事例発生時のシミュレーションを実施し、心電図室内での急変発生から緊急対策会議の招集までを該当職場および救急対応、医療安全管理室の2つの視点からシミュレーションし、多くの学びを得た。

5月に実施された耳鼻咽喉科医師による緊急気管切開に関する講義・研修が盛況であったため、12月に同内容の講義を実施し前回同様盛況であった。
  - 他施設との連携
 

横浜保土ヶ谷中央病院（加算1連携病院）、育生会横浜病院（加算2連携病院）との相互ラウンドを3回実施した。

## 2020年度目標

- 患者誤認事例削減
- 身体行動制限削減（ゼロ）に向けた活動推進
- 医療事故調査制度に関連した医療安全管理体制の確立
- 院内セキュリティ体制の再構築
- 医療安全研修の継続
- 医療安全対策地域連携加算1取得継続

# セーフティマネージャー運営会議

## 開催実績

開催回数：年6回  
定例開催日：奇数月最終週月曜日

## 目標・開催目的

セーフティマネージャーの役割に基づき、医療事故および利用者からの苦情・クレーム防止活動を行い、患者および職員・病院を守るとともに医療安全管理および患者サポート体制の充実・改善・強化を目指す。

## 2019年度総括

- ・2018年度 IAレポート年間報告
- ・2019年度 当運営会議の年間計画周知、医療安全管理室重点施策の共有
- ・安全管理研修実施『Team STEPPS IX (DESCスクリプト)』  
マネージャー参加者33名  
(医師2名、看護師17名、医療技術6名、事務8名)
- ・建築準備室長による新外来棟（A棟）開設に伴うセキュリティ体制の共有実施
- ・ワーキンググループ活動の本格化（患者誤認撲滅、身体行動制限削減、有害事例発生対応、院内防犯体制再構築の実施）

## 外来運営会議

委員長 山田 秀 裕

### 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第1週水曜日

### 目標・開催目的

- ・外来運営に関する現状を共有し、問題点の解消、新規事項の検討を行う
- ・2019年7月新外来棟移転に伴う各種運用整理

### 2019 年度総括

- ・外来診療申請内容の確認・承認
- ・外来統計報告（患者数・単価・初診患者数）
- ・利用者の声に関する対応検討と改善に向けた取り組み
- ・A棟運用プロジェクトの発足について  
A棟稼働時のスムーズな運用移行と患者動線整理を目的としてプロジェクトを発足した。

再来受付機や診察室呼び出しモニターなど、新規システムの仕様や設定について関連部署や業者と打ち合わせを重ねた。また患者動線整理のため、机上シミュレーションや稼働日前日にはリハーサルを行った。A棟運用プロジェクトは外来運営会議のワーキングとし、検討された内容を外来運営会議へ報告、承認を得ていく流れとした。

- ・外来満足度調査の実施  
期間：2019年10月28日（月）～  
2019年11月1日（金）  
配布枚数：793枚  
回収数：758枚  
回収率：93.7%

### 2020 年度目標

- ・外来運営に関する問題点の解消、運用方法などの検討を行う
- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応の共有を行う

## 糖尿病療養運営会議

委員長 升田 雅 史

### 開催実績

開催回数：年11回

定例開催日：毎月第1週金曜日

### 目標・開催目的

- ・糖尿病患者の血糖コントロールの改善、合併症予防および生活の質向上がかなう指導の検討
- ・合併症を有する患者の透析への移行を予防する
- ・インスリン・SMBGデバイスの刷新や再最新情報の報告および当院でのニーズを考え、適正な使用の推進を図る
- ・高齢家族に対応できる資料の作成

### 2019 年度総括

- ・委員長交代、また設備工事の関係で患者数の減少があり、教室の開催ができなくなったため、教室から個人指導のありかたへの変更、CDEJ主

導での指導とし、その結果を振り返る。

- ・患者事例をもとに院内の患者を取り巻く伝達方法、指導内容の振り返りを行う。
- ・患者の高齢化に伴う資料再編集の必要性を考え、各講師内容を刷新し、検討を行う。

### 2020 年度目標

- ・独居患者の増加、患者層の高齢化など、病院を取り巻く教育環境の変化にどのように取り組んでいくか、地域ネットワークの活用を検討・実行する。また、症例検討における院内スペシャリストの活用を図る。
- ・運営会議参加者の意見をもとに、患者主体での具体的な症例検討を行うことでCDEJをはじめとする資格者の能力向上を図る。
- ・CDEJの資格向上のため、資格者、または興味のあるスタッフの参加ができる委員会とする。
- ・電子カルテのインスリンスケールマニュアルの作成。
- ・各部署の担当者による勉強会。

## ボランティア運営会議

委員長 内田 明子

### 開催実績

開催回数：年4回  
定例開催日：奇数月最終週月曜日

### 目標・開催目的

ボランティアの募集、受け入れ、活動支援を行い、ボランティア個人のモチベーションの維持、活性化を促すとともに、職員全体でサポートできる体制の強化を図る。

### 2019年度総括

2019年度においては3月を除けば加入や休会の変動があるものの、全体としての活動人数は2018年度とほぼ同様で安定した運営ができています。7月の新外来棟稼働に向けては総合案内の活動者を増員することができたが、引き続き募集をかけています。しかしながら緊急事態宣言の影響により園芸と縫製活動以外は、3月より活動を自粛していただいている状況である。

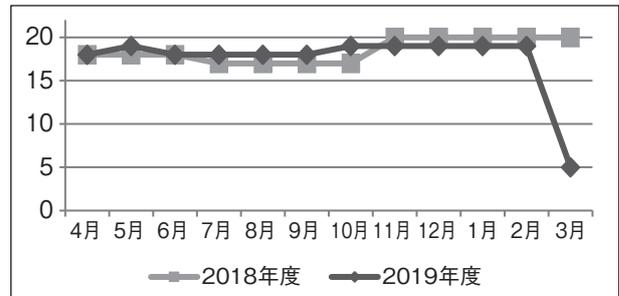
### 2020年度目標

緊急事態宣言などの社会情勢による新たな生活スタイルを考慮しながら、再開の時期や活動内容

などを模索し、安全でやりがいのあるボランティア活動の強化と拡大を目指す。

### 実績

ボランティア月別活動数



活動別人数

活動内容	人数
総合案内	7
図書整理	1
園芸	4
縫製	1
傾聴	4
院内デイ	2
休会中	2
合計	21

## リハビリテーション課運営会議

委員長 天野 景治

### 開催実績

開催回数：年6回  
定例開催日：奇数月第4週水曜日

### 目標・開催目的

介入領域が拡大している当院リハビリテーション運用の安定・効率向上のため、関連する各部署の職員の参加を要請し、共同（協同）して課題解決に向けて取り組む。

### 2019年度総括

- ・リハビリテーション実績(月報)の報告を行った。
- ・地域包括ケア病棟の増床への対応について検討を行った。

- ・2020年度立ち上げの回復期リハビリテーション病棟・緩和ケア病棟の運用について検討を行った。
- ・上記新規事業計画につき、人員の採用計画および状況・人員配置について報告した。
- ・関連医師および病棟スタッフと情報交換・意見交換を行った。

### 2020年度目標

- ・回復期リハビリテーション病棟の病棟スタッフおよび関連職種との連携を図り、回復期リハビリテーション病棟の専従リハビリテーションスタッフだけでなくリハビリテーション課全体で早期に安定した運営をできるようにする。
- ・現在リハビリテーション課が関わっている領域の安定運営を図る。
- ・心大血管の疾患別単位算定要件取得に向けての人材育成・収益計画を設定する。

## 地域連携・患者支援センター運営会議

委員長 山田 秀 裕

### 開催実績

開催回数：年11回  
定例開催日：毎月第3週木曜日

### 目標・開催目的

地域住民・近隣医療機関のニーズに貢献するため、院内関連部署と連携・情報共有を図ること。

### 2019年度総括

- ・紹介、逆紹介件数報告および検討
- ・未報告返信の件数報告および検討

- ・時間外紹介受入れに関する報告および検討
- ・転院、在宅サポート入院に関する報告および検討
- ・入退院支援に関する報告および検討
- ・地域連携に携わる訪問活動の報告および検討
- ・地域連携に携わる各行事の報告および検討

### 2020年度目標

地域住民、近隣医療機関のニーズに対応するため、院内関連部署とともに戦略的な広報活動、積極的な情報共有に取り組み、地域との「つなぐ」役割を果たす。

## 脳血管センター運営会議

委員長 鈴木 祥 生

### 開催実績

開催回数：年12回  
定例開催日：毎月第3週水曜日

### 目標・開催目的

患者の医療の質を保証するために、脳卒中患者を一元的かつ包括的に治療することを目的として設立された「脳血管センター」の運用および救急外来での脳卒中患者の受け入れ状況などを管理し、質の高い医療の実現を目指す。

### 2019年度総括

SCUを中心とした脳血管障害患者の包括的治療について多職種で情報交換を行った。特に以下の項目につき検討を行った。

- ・SCU、ACUの稼働状況
  - ・リハビリテーション介入実績
  - ・放射線学的検査（特にCT、MRI）の実績
  - ・在宅や回復期リハビリテーション病院などへの退院支援状況
  - ・脳卒中治療に関連する薬剤や栄養療法の情報交換
  - ・救急車の受け入れ状況や救急隊への啓蒙活動報告など
  - ・入院単価や入院患者数などの入院医事データの報告
  - ・医療機器情報の交換など
- rTPAのガイドラインに伴う運用変更

### 2020年度目標

2020年には回復期リハビリテーション病棟が開設する予定であり、急性期治療から亜急性期の機能回復まで幅広い治療のマネジメントを行っていく。医療経済的にも急性期一般病床と回復期リハ病床を有効に活用できるように多職種で管理運営をしていく。また、SCUの病床を9床に増床するプロジェクトの推進を行っていく。

### 実績

#### 入院単価

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月
脳外	6,191	5,817	5,958	5,730	6,082	7,145
全科	5,708	5,395	5,735	5,210	5,477	5,786
診療科	10月	11月	12月	1月	2月	3月
脳外	6,850	6,204	6,239	5,986	5,966	5,872
全科	5,869	5,615	5,452	5,382	5,500	5,794

※2019年度平均 脳神経外科：6,152 全科：5,573

#### 病床稼働率

病棟	定床	4月	5月	6月	7月	8月	9月
西1	43	95.0	95.4	90.6	89.4	97.6	84.3
HCU	8	81.7	79.8	76.3	80.2	81.9	76.7
SCU	6	100.0	97.3	100.0	100.0	99.5	99.4
病棟	定床	10月	11月	12月	1月	2月	3月
西1	43	79.2	89.2	92.7	92.2	92.5	79.3
HCU	8	65.7	65.4	67.3	58.9	69.0	73.0
SCU	6	100.0	98.3	100.0	98.9	100.0	100.0

※2019年度平均 西1：89.8 HCU：73.0 SCU：99.5

## 病床管理センター運営会議

委員長 郷 地 英 二

### 開催実績

開催回数：年11回  
定例開催日：毎月第3週水曜日

### 目標・開催目的

経営状況をふまえ患者入退院をコントロールすることを目的とする。

数値目標は病棟稼働率95%、平均患者数285名。

#### 【業務内容】

1. 入院しやすい病棟稼働への支援
2. 空床に関する情報収集と提供
3. 適正な平均在院日数への支援
4. 患者の治療状況に応じた病床環境の支援
5. 地域連携・患者支援センターと連携し、長期にわたる入院患者の転棟・転院などの支援
6. 医療・看護必要度管理の安定的な基準達成に向けた取り組み

### 2019年度総括

- ・各月入院患者数報告
- ・他院からの転院の受入れ検討
- ・入院患者増加による入退院調整
- ・HCU・SCU稼働への取り組み
- ・退院予定指示の早期化
- ・転棟対象情報の提供
- ・診療科別入院経路

- ・年末年始などの連休対応
- ・判定会の実施
- ・他院見学受入れ
- ・病棟入退室運用規程の策定

### 2020年度目標

病院理念に基づき、以下をふまえて効果的な病床管理に貢献するとともに、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟増床に焦点を立て、総合的に多様なニーズに合わせた病床管理を実践する。

1. 最後の一床まで活用し地域医療に貢献する。
2. 地域住民のために急性期を中心とした医療提供と救急医療を提供する。

### 実績

病棟別病床稼働率：%

病棟	定床	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
東2病棟	53	80.6	91.3	88.6	81.1	79.3
東3病棟	52	83.9	93.5	96	91.9	88.3
東4病棟	51	71.3	87.6	92.3	95.5	93.7
西1病棟	37	81.6	92.8	99.5	95	89.8
西2病棟	47	91.1	91.2	92.5	96.8	98.6
西3病棟	46	92.3	91.9	94.8	95.8	91.5
急ユニ	8			80.1	81.5	73.0
脳ユニ	6				98.4	99.5
全病棟	300	83.2	91.4	93.4	92.2	89.8

## 内視鏡センター運営会議

委員長 吹 田 洋 将

### 開催実績

開催回数：年6回  
定例開催日：偶数月第1週金曜日

### 目標・開催目的

外来棟の移転に伴い、安全かつ円滑な業務を行うための検討、問題解決を行う。また関連部署の連携、設備・機器の検討を行う。

### 2019年度総括

- ・新外来棟移転に伴う準備とその実施
- ・腸管洗浄液の新規更新
- ・チーム医療体制の確立；施行医師のみならず、臨床工学技士、看護師とチームで安全・迅速に実施するために、院内ルールの整備に着手した。

### 2020年度目標

内視鏡センターにおける検査、治療を安全かつ円滑に施行するために、問題点の抽出・解決、関連部署の連携、設備・機器の検討を行う。

## 開催実績

開催回数：年4回  
定例開催日：3カ月毎第4週水曜日

## 目標・開催目的

利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援することを理念とし、利用者が安心して選び続けられる施設であるよう、関係各課の代表者によって円滑な運営の検討を行う。

## 2019年度総括

- ・ドック・健診室の中長期計画の策定

- ・2019年度の各検査実施件数予測の周知確認
- ・聖隷横浜病院職員健診の運用調整
- ・新外来棟での各課運用確認と改善案の検討
- ・横浜エデンの園職員健診の運用調整
- ・子宮がん検診開始に向けた運用の検討
- ・日曜乳がん検診の運用調整
- ・インフルエンザワクチン接種（院内・出張）運用調整
- ・健診予約枠の調整についての検討

## 2020年度目標

健診業務の充実と今後の事業規模拡大のために、関係各課の協力を得て円滑な運営を目指す。

# 乳腺センター運営会議

## 開催実績

開催回数：年12回  
定期開催日：毎月第4週火曜日

## 目標・開催目的

患者中心の最先端医療を提供するために、多職種スタッフより構成されるセンターのシステム構築とその改良および発展を目標とする。

構成メンバーは、以下のとおりである。

化学療法担当看護師、病棟看護師、放射線課（マンモトームを含む）、検査課（遺伝子検査、超音波検査）、地域連携室（横浜市大センター病院：センチネルリンパ節生検用RI注射およびリンパ節スキャン）、医師事務作業補助者、医療情報管理課、資材管理課などのスタッフ

## 2019年度総括

- ・マンモグラフィー・トモシンセシス検査の導入主として、検診要精検症例および悪性を否定できない初診症例を対象に導入した。
- ・ステレオマンモトーム生検の実施  
検診マンモグラフィーで発見されたカテゴリー3の微細石灰化巣に対するステレオマンモトーム生検の第1例目を2020年2月13日に行い乳がんであることが明らかとなり、4月24日に乳房温存術を施行した。穿刺技術については確認できたので、第2、3木曜日午後2件の予定で継続している。
- ・乳がん卵巣がん症候群BRCA1/2遺伝子解析

乳腺科外来でのカウンセリングにより、4名の遺伝子解析を依頼した。

- ・遺伝カウンセリング外来の設置準備  
がんゲノム医療拠点病院である東海大学医学部附属病院遺伝子診療科と連携するとともに、同科所属の臨床遺伝専門医高橋千果先生（医学部医療倫理学教室講師）を非常勤医師として招聘し、遺伝カウンセリング外来を2020年4月より毎週水曜日半日開設するための基盤整備を開始した。遺伝子検査の同意説明文書の作成、医療スタッフ育成のための勉強会の計画、BRCA検査の保険適応のための施設認定申請を行った。

## 2020年度目標

乳がんおよび卵巣がんパネル遺伝子解析に基づくがん予防医療体制の構築を目指して、コニカミノルタ株式会社の子会社であるAmbry Geneticsとの次世代シーケンサーを用いたパネル遺伝子解析結果に基づく乳がんおよび卵巣がん検診や予防医療を導入する。

## 実績

### 外来医療費合計

診療月	医療費合計	延べ数	診療月	医療費合計	延べ数
4月	715,408	237	10月	879,102	318
5月	798,196	253	11月	930,496	282
6月	735,123	241	12月	835,750	265
7月	674,945	238	1月	728,146	218
8月	820,352	235	2月	684,105	224
9月	710,013	252	3月	1,016,228	249

# リウマチ・膠原病センター運営会議

委員長 山田 秀 裕

## 開催実績

開催回数：年12回  
定例開催日：毎月第1週火曜

## 目標・開催目的

患者が、安全に安心して最先端の医療を受けられるよう、多職種スタッフ連携チーム医療を推進する。

## 2019年度総括

- ・より質の高いリウマチ看護ケアを提供するために2018年度に引き続き、リウマチ看護外来ならびにフットケア外来を運営し、多くの患者のケ

アに貢献できた。

- ・リウマチ患者の手足のリハビリテーションが、推進された。
- ・診療実績把握とホームページ掲載のため、新規患者の集計が定期的に行われた。
- ・地域連携室と共同して、外部医療機関に向けた積極的な広報講演活動を行った。
- ・医師のみならず、看護師や薬剤師による学会発表を多数行ない、診療に還元した。

## 2020年度目標

多職種連携チーム医療の推進、地域連携の拡充、スタッフの技能向上などにより、診療実績と信頼性を高める。また、新規にリウマチ包括ケア外来を開設し、リウマチ診療の質の向上を図る。

# 手術室運営委員会

委員長 木下 真 弓

## 開催実績

開催回数：年12回  
定例開催日：毎月第1週水曜日

## 目標・開催目的

1. 安全で効率的な新棟手術室の引越しおよび運営のための検討
2. 手術室の柔軟な枠の運用と、救急手術への対応
3. 手術における問題の共有と対策の検討

## 2019年度総括

- ・手術前の中止薬剤の改訂
- ・新建築への移転
- ・EOG外部滅菌依頼について

- ・手術中透視装置の2台運用について
- ・落雷による非常電源供給停止情報共有と対策検討
- ・麻酔、神経領域の誤接続防止コネクタ導入
- ・映像システム、Cアーム、顕微鏡、鋼製小物などの重複時対応
- ・超音波画像診断装置の運用検討
- ・腎内医師不在による手術患者の検討
- ・手術時手洗い場装置の管理
- ・COVID-19情報共有と対策検討

## 2020年度目標

1. 新手術術式施行および器械の問題の共有と対策の検討
2. COVID-19における手術室感染対策の検討と強化
3. 手術室の柔軟な枠の運用と、救急手術への対応

## 実績

2019年度 手術件数実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2018年度
外科	34	22	34	25	35	31	31	34	29	32	25	25	357	344
眼科	21	24	31	23	15	14	23	24	20	14	12	19	240	289
呼吸器外科	8	6	7	5	5	9	11	8	9	8	8	5	89	81
耳鼻咽喉科	18	10	16	19	28	24	20	20	16	8	17	20	216	227
心血管内科							1						1	
腎・高血圧内科	5	3	5	3	1	2	3	3	6	3			34	58
整形外科	40	36	36	37	32	30	44	49	52	53	49	39	497	345
乳腺科	5	6	5	3	8	8	2	9	6	5	4	2	63	41
脳神経外科	14	6	8	11	7	13	7	9	12	8	6	11	112	133
麻酔科									1				1	
合計	145	113	142	126	131	131	142	156	151	131	121	121	1,610	1,519

## 教育・症例検討・講演会実績・市民公開講座

### 病院学会

- ・第17回 聖隷横浜病院学会  
開催日 2019年11月16日

### 職員研修

- ・新入職員研修  
開催日 2019年6月27日～28日  
場 所 マホロバ・マインズ三浦
- ・2年目職員研修  
開催日 ①2019年5月30日～31日  
場 所 聖隷横浜病院  
開催日 ②2020年2月6日、7日  
場 所 聖隷横浜病院
- ・中堅職員研修  
開催日 ①2019年8月28日 ②2019年9月25日  
③2019年9月26日 ④2019年10月29日  
⑤2019年11月27日 ⑥2020年2月26日  
場 所 ①～⑥聖隷横浜病院
- ・アドバンス研修  
開催日 2019年12月5日  
場 所 聖隷横浜病院

### 委員会主催研修・講演会

- ・病院医療安全管理委員会  
内 容 Team STEPPS IX「相互支援」における【DESC(デスク)スクリプト】について  
開催日 2019年6月17日、6月20日、7月18日、  
7月29日、8月19日、9月19日、  
10月17日、11月5日、11月21日、  
12月16日  
2020年1月16日、1月20日、1月29日、  
2月4日、2月17日
- ・安全運転委員会  
演 題 あおり運転、道路交通法改正、事故多  
発地域について  
講 師 保土ヶ谷警察署 交通課 交通総務係  
武田 翔氏  
開催日 2020年1月14日
- ・感染対策委員会  
演 題 第1回 薬剤耐性菌について 話題の耐  
性菌、抗菌薬の選び方  
開催日 2019年5月20日、22日、29日、  
6月3日、4日(全5回)

演 題 第2回 輸入感染症 国際的イベント開  
催あたり注意すべき感染症について、  
麻疹・風疹など

開催日 2019年10月21日、23日、31日、  
11月5日(全4回)

- ・衛生委員会  
演 題 食コンディショニング～おなかスッキリ!!～  
講 師 聖隷健康保険組合 鈴木 ます美氏  
開催日 2019年10月1日
- ・個人情報管理委員会  
演 題 医療機関における個人情報保護の基本  
と実施すべき情報セキュリティ対策  
開催日 2019年12月2日

### 症例検討会

- ・第115回  
症 例 膵嚢胞性病変の増大により死亡した一例  
開催日 2019年6月18日
- ・第116回  
症 例 右半結腸切除術後の麻痺性イレウスに  
より誤嚥性肺炎をきたし死亡した一例  
開催日 2019年10月15日
- ・第117回  
症 例 多発肝転移を伴う大腸癌患者が急変し  
死亡した一例  
開催日 2019年11月19日
- ・第118回  
症 例 比較的急激な経過を辿った肺高血圧の  
関与が示唆された右心不全の一例  
開催日 2019年12月24日
- ・第119回  
症 例 多発肝腫瘍、癌性腹膜炎を伴う急激な  
転機をたどった一例  
開催日 2020年2月25日

### セミナー

- ・第68回 NST養成セミナー  
講 義 下痢対策  
開催日 2019年5月30日
- ・第69回 NST養成セミナー  
講 義 嚥下について  
開催日 2019年9月4日

- ・第70回 NST養成セミナー

講義 COPDについて

開催日 2019年12月11日

- ・第71回 NST養成セミナー

講義 NST合同カンファレンス

開催日 2020年1月21日

#### 聖隷横浜病院 健康講和

- ・六ッ川1丁目コミュニティハウス

講師 リウマチ・膠原病内科 山田 秀裕

開催日 2019年6月11日

- ・六ッ川1丁目コミュニティハウス 開催

講師 整形外科・関節外科 竹下 宗徳

開催日 2019年12月5日

#### 実習生受入れ

- ・看護部

横浜市医師会看護専門学校看護科

横浜市医師会保土ヶ谷看護専門学校看護科

関東学院大学 看護学部

横浜未来看護専門学校

- ・薬剤部

日本大学薬学部

星薬科大学薬学部

横浜薬科大学薬学部

- ・検査課

杏林大学保健学部臨床検査技術科

- ・栄養課

神奈川工科大学応用バイオ科学部栄養生命科学科

関東学院大学人間環境学部健康栄養学科

鎌倉女子大学家政学部管理栄養学科

駒澤大学人間健康学部健康栄養学科

相模女子大学栄養科学部管理栄養学科

- ・リハビリテーション課

首都医校 療法学部理学療法学科理学療法学科

新潟リハビリテーション大学 理学療法学科

帝京平成大学 健康メディカル学部作業療法学科

- ・事務部

大原医療秘書福祉保育専門学校横浜校 医療事務学科

横浜医療秘書歯科助手専門学校 医療秘書科

# 学 術 業 績 講 演 会

リウマチ・膠原病センター		
研究会の主旨	山田 秀裕	第2回 リウマチ包括ケア研究会 2019.4.13 横浜
筋痛を来す内科疾患～リウマチ性疾患を中心に～	伊東 宏	第6回内科疾患定例講演会 2019.4.18 保土ヶ谷
膠原病性間質性肺炎の治療戦略と長期予後	山田 秀裕	第14回さがみ呼吸器疾患研究会 2020.6.7 厚木
高齢者に多いリウマチ・膠原病～脱ステロイドを目指した新しい治療法～	山田 秀裕	市民健康講話 2020.6.11 六ツ川
合併症の多い高齢関節リウマチに対する治療戦略	山田 秀裕	魚沼RAスキルアップセミナー 2020.6.15 六日町
当センターに於けるリウマチチーム医療確立への試み	川原 早苗	第5回横浜リウマチのケア研究会 2020.7.11 横浜
多職種医療チームによるアバタセプトの有用性	山田 秀裕	第3回東三河NCUリウマチセミナー 2020.7.10 豊橋
リウマチ包括ケア研究会が目指すこと～Beyond DMARDs～	山田 秀裕	第5回知の羅針盤 2020.7.27 関内
血管炎の治療はバイオ導入でどこまで改善したか？	山田 秀裕	高知血管炎エキスパートミーティング 2020.8.8 高知
健康セミナー：関節の痛み	山田 秀裕	聖隷横浜病院健康講話 2020.8.27 関内
リウマチの治療とケアについて	山田 秀裕	中堅訪問看護師研修会 2020.9.21 日本大通り
紹介患者さんの治療経過報告	伊東 宏	リウマチ膠原病連携セミナー 2020.9.26 新外来棟
関節リウマチ治療の最新の話	山田 秀裕	リウマチ膠原病連携セミナー 2020.9.26 新外来棟
多職種連携チーム医療とアバタセプトを用いた治療戦略	山田 秀裕	湘南西部関節リウマチセミナー 2020.10.10 厚木
ANCA関連血管炎に対するリツキシマブを用いた寛解導入・寛解維持とステロイド早期離脱に関する試み	伊東 宏 花岡 洋成 山田 秀裕	第11回膠原病の腎障害研究会 2020.10.24 新横浜
当院に於けるリウマチ包括ケアの取り組み～リウマチの早期治療から予防の時代へ～	山田 秀裕	第4回リウマチ・膠原病診療連携フォーラム 2020.10.29 新外来棟
当センターに於けるリウマチチーム医療：リウマチ看護外来の取り組み	川原 早苗	膠原病 Total Care Seminar 2020.10.29 みなとみらい
高齢リウマチ性疾患に対する治療戦略	山田 秀裕	第13回IZUMOリウマチネット 2020.10.31 出雲
炎症の増幅・遷延化とIL-6	山田 秀裕	Rheumatology Forum in Kochi 2020.11.1 高知
症例から学ぶPsAの病態と治療戦略	山田 秀裕	IL-17A WEB Seminar 2020.12.4
身体障害ゼロを目指したリウマチ包括ケア：その現状と将来	山田 秀裕	リウマチ市民公開講座 2020.12.15 横浜市中区
脳血管センター		
「物忘れと認知症どこが違う？」 「認知症予防：マインド食の薦め」	鈴木 祥生	聖隷横浜病院 市民公開講座
「脳卒中最前線」	佐々木 亮	聖隷横浜病院 市民公開講座
画像診断センター		
『画質評価（臨床）の自作ファントム』	石毛 良一	第54回神奈川アンギオ撮影研究会 2019.5 神奈川
『聖隷横浜病院における医療安全の取り組み～マネージャーが考える医療安全について～』	釜谷 秀美	静岡県放射線技師会医療安全研修医療安全セミナー 2019.12
『胸部動態X線システムの撮影法 ～システム導入の使用経験～』	釜谷 秀美	コニカミノルタヘルスケアフォーラム in 浜松 2020.2
医師技師合同シンポジウム：Vessel wall imagingとMetal artifact reduction 『MARを持ち合わせない3DRAによるvessel wall imaging とmetal artifact reduction』	石毛 良一	第17回NPO法人日本脳神経血管内治療学会関東地方会学術集会 2020.2 東京

呼吸器内科		
COPDとの付き合い方	小西 建治	横浜市もみじ会医療講演会 2019.9.15 神奈川
心不全に関連した呼吸器疾患とその治療	小西 建治	心不全の「地域連携」講演会 2019.11.25 神奈川
関節外科		
聞いた人だけが得をするちょっといい健康の話	竹下 宗徳	ナーシングホーム横浜長者町・健康講話 2019.2.27 神奈川
変形性関節症治療の最近の動向 ロコモとの関連性を考える	竹下 宗徳	ロコモディスカッション 2019.3.1 神奈川
大腿骨頸部骨折治療の最前線 骨接合から考える 治療選択と今後の展望	竹下 宗徳	Hip fracture Seminar 2019.3.2 東京
骨粗鬆症治療の現状 ～積極的介入の必要性～	竹下 宗徳	アステラス製薬 2019.5.23 神奈川
人工関節・骨粗鬆症症例の病診連携	竹下 宗徳	旭化成2019.6.18 神奈川
ロコモティブシンドローム概念から治療選択まで ～膝・股関節～	竹下 宗徳	リウマチ膠原病センター講演会 2019.9.26 神奈川
最新の話 ロコモからフレイル・サルコペニアまで	竹下 宗徳	旭化成2019.10.29
腰痛症について	竹下 宗徳	Common diseaseを診なおす会 2019.11.13 神奈川
笑顔で健康長寿 ～フレイル予防から膝・股関節の最先端治療まで	竹下 宗徳	横浜市民講座 2019.12.5 神奈川
新病院での骨粗鬆症の治療連携の試み	竹下 宗徳	第2回北里Osteoporosis連携Forum 2019.12.17 東京
人工関節手術と合併症 ～インプラント関連からDVTまで～	竹下 宗徳	Orthopedics Symposium 2020.1.14 神奈川
大腿骨頸部骨折手術の新規インプラント手術手技 の工夫とpitfall	竹下 宗徳	Orthopaedic Trauma Management 2020.2.9 東京
看護部		
治療選択における高齢者ケア、認知症ケア、家族ケアの在り方	内田 明子	日本腎不全看護学会 治療選択特別研修 2019.9.28 名古屋
新たな認定制度：認定看護師が所属する施設の管理者の立場から	内田 明子	日本看護協会 2019.5.13 大阪
透析療法選択と意思決定支援について	内田 明子	第36回千葉県腎臓病看護研究会 2019.9.1 千葉
認知症患者の透析看護 問題行動の理解とケアの実際	内田 明子	第8回血液浄化セミナー 2019.10.6 神奈川
看護から見た医療現場における男女共同参画	内田 明子	福島県立医科大学 男女共同参画支援 2019.10.21 福島
腎不全看護におけるチーム医療	内田 明子	第9回中原透析連携講演会 2020.1.30 神奈川
看護者による腎代替療法選択におけるSDMの実践	内田 明子	第53回日本臨床腎移植学会 2020.2.19 東京
末期腎不全患者の人権尊重と療法選択支援	内田 明子	日本透析医会研修セミナー 2019.5.19 東京
人生の最期に あなたは何を望みますか?～人生の最終段階における医療や生活について考える～	根岸 恵	ツクイサンシャイン三浦 セミナー 2019.4.19 神奈川
特定行為研修を終了した認定看護師の立場から	坂田 稔	日本看護協会 新たな認定看護師制度に関する説明会 2019.5.13
ホームでできる! がん患者の緩和ケアと看取り	根岸 恵	パークサイド岡野ホーム 緩和ケア勉強会 2019.5.21 横浜
人生会議について考えよう	根岸 恵	栄区在宅医療相談室研修 2019.6.13 横浜
認知症の理解とかかわり方の基本	新城 佑樹	保土ヶ谷区公開市民講座 2019.7.4 横浜
高齢者の排泄ケア	若松 華	浦安エデンの園 研修・看護相談 2019.7.22
フィジカルアセスメント ～現場で使える技術を学ぶ～	坂田 稔	社会医療法人三栄会 中央林間病院 2019.7.23 神奈川
KIDUKI	福田安津子	社会医療法人三栄会 中央林間病院 2019.8.27 神奈川

もしもの話をしよう	根岸 恵	沼津市民病院ACPセミナー 2019.8.29 静岡
フィジカルアセスメント(基礎編)	坂田 稔 福田 安津子	横浜第一地区看護部長会 新人看護師研修会 2019.9.7 横浜
人生の最期に あなたは何を望みますか?~人生の最終段階における医療や生活について考える~	根岸 恵	ツクイ三浦 セミナー2019.9.12 神奈川
緩和ケアの基本	根岸 恵	聖隷横浜病院 緩和ケアキャリアアップコース① 2019.9.28 横浜
ACPについて	根岸 恵	神奈川県医療福祉施設協同組合 看護部長会 2019.10.10 横浜
もしもの話をしよう	根岸 恵	戸田中央医科グループ 管理者講座 2019.10.11 埼玉
痛みのアセスメントと治療・ケア	前川 直子	聖隷横浜病院 緩和ケアキャリアアップコース② 2019.10.19 横浜
呼吸困難感の症状緩和	高橋 美生	聖隷横浜病院 緩和ケアキャリアアップコース③ 2019.11.15 横浜
認知症対応力向上研修 ファシリテーター	新城 佑樹	横浜市病院協会 認知症対応力向上研修 2019.11.17 横浜
認知症の理解とかわり方	新城 佑樹	聖隷関東看護部会 認知症ケア研修 2019.11.18 神奈川
もしもの話をしよう	根岸 恵	沼津市市民講座 2019.11.23 静岡
人生会議 ~総合病院の立場から~	根岸 恵	保土ヶ谷区健康塾 2019.11.24 横浜
認知症の理解とかわり方	新城 佑樹	社会医療法人三栄会 中央林間病院 2019.11.26 神奈川
終末期医療に対する患者さんの希望書	根岸 恵	聖隷横浜病院 人生会議の日市民講座 2019.11.30 横浜
褥瘡予防ケア	若松 華	介護老人保健施設 希望の森 研修・看護相談 2019.12.10 横浜
病院と地域をつなぐケア ~意思決定支援~	根岸 恵	神奈川県看護協会 横浜西支部研修会 2019.12.12 横浜
ここでしか聞けない!集中ケア認定看護師が本音で語る、特定行為の現在・未来	坂田 稔	集中ケア認定看護師会 教育セミナー 2019.12.15
認知症を理解する	新城 佑樹	聖隷横浜病院 認知症サポーター養成講座 2020.1.13 横浜
がんについて知ろう ~ケアに活かすために~	根岸 恵	聖隷藤沢ウェルフェアタウン エンドオブライフケア研修 2020.1.17 神奈川
入居時・利用時から始まる看取りケア	根岸 恵	奈良ニッセイエデンの園 職員向け勉強会 2020.2.6 奈良
褥瘡予防ケアについて	渡邊 純子	鶴ヶ峰病院 看護職員研修 2020.2.14 横浜
<b>薬剤部</b>		
オーダーメイド緩和医療を支える薬剤師の在り方	塩川 満	第30回日本医学会総会 2019.4.29
今、必要とされている医療安全対策~国際基準と日本の医薬品管理の実際~	塩川 満	第13回日本緩和医療薬学会 メディカルセミナー 2019.6.1
痛みを取る薬の使い方~医療用麻薬はどんな薬でどう使われるのか~	塩川 満	十勝病院薬剤師学術講演会 2019.11.15
緩和医療と医療安全について	塩川 満	第5回城北地域連携緩和ケア研究会 2019.12.2
医療用麻薬はどんな薬でどう使われるのか	塩川 満	疼痛緩和のための医療用麻薬適正使用推進講習会 栃木 2020.2.2
がん専門薬剤師集中教育講座「緩和医療とがん疼痛治療」	塩川 満	日本医療薬学会 2020.2.16
<b>リハビリテーション課</b>		
Splintの適応について	奥村 修也	第2回わたらせハンドセラピー勉強会 2019.6 群馬
嚥下調整食を食べて物性を知る	前田 広士	嚥下食・介護食セミナー in 東京 「美味しく安全な嚥下食・介護食づくりのツボとコツ」 2019.8 東京

屈筋腱損傷修復後のハンドセラピーとスプリント ング	奥村 修也	スプリントワークショップ in 山形 2019.10 山形
ワークショップ:ハンド・スプリントを作る!	奥村 修也	第19回東海北陸作業療法学会 2019.11 静岡
末梢神経障害による機能障害とスプリント	奥村 修也	佐久・浅間地区リハビリテーション勉強会 2019.11 長野
末梢神経損傷	奥村 修也	東京ハンドセラピー研究会 2019.12 東京
嚥下調整食をどのように用いるか?	前田 広士	第7回嚥下食メニューコンテスト 決勝審査会 記念セミナー 2020.1 東京
スプリント作製のための基礎知識	奥村 修也	岡谷市民病院 リハビリテーション勉強会 2020.2 長野

## 学 術 業 績 学 会 発 表

リウマチ・膠原病センター			
高齢関節リウマチ患者に対する多職種連携による アバタセプト療法の安全性に関する検討	柏谷 里美 小川 実花 田代 行香 花岡 洋成	川原 早苗 小島 幸子 伊東 宏 山田 秀裕	第63回日本リウマチ学会学術総会 2019.4.15 京都
Tocilizumabで寛解導入療法を行った巨細胞性動脈 炎5症例の検討	伊東 宏 花岡 洋成	山田 秀裕	第63回日本リウマチ学会学術総会 2019.4.15 京都
高齢発症関節リウマチに対する生物学的抗リウマチ 薬単独療法の有用性の検討	小林 恵 山崎 宜興	小柳 諒子 山田 秀裕	第63回日本リウマチ学会学術総会 2019.4.15 京都
蛋白漏出性胃腸症に対してベリムマブが有効であっ た全身性エリテマトーデスの1例	伊東 宏 花岡 洋成	山田 秀裕	第74回神奈川リウマチ医会 2020.7.6 京都
脳血管センター			
脳血管内治療を施行した頭蓋内主幹動脈狭窄にお ける予後予測因子の検討	大高 稔晴 青井 瑞穂 鈴木 祥生	佐藤 純子 佐々木 亮	第38回The Mt. Fuji Workshop on CVD 新横浜
動脈瘤塞栓術後に遅発性脳内多発性病変を起こし た1例	鈴木 祥生 大高 稔晴 青井 瑞穂	佐々木 亮 佐藤 純子	第35回NPO法人日本脳神経血管内治療学 会総会 福岡
未破裂中大脳動脈瘤に対するステント支援下コイル 塞栓術の治療成績	佐々木 亮 佐藤 純子 鈴木 祥生	大高 稔晴 青井 瑞穂	第35回NPO法人日本脳神経血管内治療学 会総会 福岡
脳血管内治療を施行した頭蓋内主幹動脈狭窄にお ける予後予測因子の検討	大高 稔晴 青井 瑞穂 鈴木 祥生	佐藤 純子 佐々木 亮	第35回NPO法人日本脳神経血管内治療学 会総会 福岡
急性期中大脳動脈閉塞患者におけるMRI BPASを 用いた血管描出の有用性の検討	佐藤 純子 青井 瑞穂 鈴木 祥生	大高 稔晴 佐々木 亮	第35回NPO法人日本脳神経血管内治療学 会総会 福岡
薬剤抵抗性てんかんをきたしたアメーバ性肉芽腫性 脳炎の一例	大高 稔晴 青井 瑞穂 鈴木 祥生	佐藤 純子 佐々木 亮	第78回日本脳神経外科学会総会 大阪
動脈硬化性血管狭窄病変の急性閉塞における治療 の検討	佐藤 純子 青井 瑞穂 鈴木 祥生	大高 稔晴 佐々木 亮	第78回日本脳神経外科学会総会 大阪
急性期中大脳動脈閉塞患者におけるMRI BPASを 用いた血管描出の有用性の検討	佐藤 純子 佐々木 亮	大高 稔晴 鈴木 祥生	STROKE2019 横浜
2D perfusion angiographyを用いた脳循環動態の 検討:特に内頸動脈狭窄症例について	大高 稔晴 佐々木 亮	佐藤 純子 鈴木 祥生	STROKE2019 横浜
画像診断センター			
「一押し!画像コンテスト」	石毛 良一		第16回日本脳神経血管内治療学会関東地 方会学術集会 2019.6 東京
「デバイス出しシミュレーション時間短縮効果につ いての検討」(ポスター)	竹原 英明 石毛 良一 宮崎 良央 山田 亘 眞壁 英仁 新村 剛透	一木 俊介 福田 正 河合 慧 中島 啓介 芦田 和博	第28回日本心血管インターベンション治療 学会 2019.9 名古屋

「1日の最終症例後に全スタッフで行う5分間ミーティングの効果と有用性」(ポスター)	一木 俊介 石毛 良一 宮崎 良央 山田 亘 眞壁 英仁 新村 剛透	竹原 英明 福田 正 河合 慧 中島 啓介 芦田 和博	第28回日本心血管インターベンション治療学会 2019.9 名古屋
院内全職員のアンケート調査結果から見えた医療被ばくへの関心とニーズについて	石毛 良一 竹原 英明 釜谷 秀美	児山 貴之	第35回日本診療放射線技師学術大会 2019年9月 大宮
『脳血管造影及び脳血管内治療の特殊撮影がAK値に与える影響』	阿部 宏美 石毛 良一 一木 俊介 釜谷 秀美 佐藤 純子 青井 瑞穂	柳沢 千晶 小嶋 享 佐々木 亮 大高 稔晴 鈴木 祥生	第35回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (JSNET2019) 2019.11 福岡
『3D-RA時のコイル塊と母血管の位置関係によるアーチファクト特性とポジショニングによる低減効果についての検討』	石毛 良一 阿部 宏美 一木 俊介 釜谷 秀美 佐藤 純子 青井 瑞穂	柳沢 千晶 小嶋 享 佐々木 亮 大高 稔晴 鈴木 祥生	第35回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (JSNET2019) 2019.11 福岡
<b>心臓血管センター内科</b>			
院内ワークショップ	芦田 和博		院内ワークショップ 2019.4.1
KCJL2019	芦田 和博		KCJL2019 ジョイントLIVE 2019.4.12
CTO院内	芦田 和博		CTO院内 Work Shop 2019.4.15
TCTAP2019	芦田 和博	眞壁 英仁	TCTAP2019 2019.4.27
CVIT地方会	山田 亘		CVIT地方会 2019.5.11
CTO院内	芦田 和博		CTO院内 Work Shop Live 2019.5.15
PCI院内Live	芦田 和博		PCI院内Live 2019.6.5
The20th CTO Club学会	芦田 和博		The20th CTO Club学会 2019.6.14
EPサマーセミナー	河合 慧		EPサマーセミナー 2019.6.15
第252回日本循環器学会関東甲信越地方会	河合 慧		第252回日本循環器学会関東甲信越地方会 2019.6.15
第22回 C5研究会	芦田 和博		第22回 C5研究会/ 豊橋Live 2019.6.21
PCI院内Live	芦田 和博		PCI院内Live 2019.7.11
TOPIC2019	新村 剛透	眞壁 英仁	TOPIC2019 2019.7.11
PCI Professional Course	芦田 和博		PCI Professional Course 2019.7.16
PCI院内Live	芦田 和博		PCI院内Live 2019.7.18
Japanese Bifurcation Club Live Demonstration 2019	福田 正		Japanese Bifurcation Club Live Demonstration 2019 2019.7.19
インド臨床ワークショップ	芦田 和博		インド臨床ワークショップ 2019.8.18
CMIT2019学会	芦田 和博		CMIT2019学会 2019.9.5
PCI院内Live	芦田 和博		PCI院内Live 2019.9.13
第28回日本心血管インターベンション治療学会	芦田 和博 眞壁 英仁 山田 亘	新村 剛透 河合 慧 福田 正	第28回日本心血管インターベンション治療学会 2019.9.19
PCI 手術	芦田 和博		PCI 手術 2019.9.23
PCI Live	芦田 和博		PCI Live レクチャー 2019.10.7
PCI Live レクチャー	芦田 和博		PCI院内Live 2019.10.15
CCT 2019学会	芦田 和博 河合 慧 福田 正	新村 剛透 山田 亘	CCT 2019学会 2019.10.24
Yokohama CTO SummitⅢ	芦田 和博		Yokohama CTO SummitⅢ 2019.11.1
PCI院内Live	芦田 和博		PCI院内Live 2019.11.6
7th DEB Symposium	芦田 和博		7th DEB Symposium 2019.11.15
ARIA2019 学会	芦田 和博		ARIA2019 学会 2019.11.21
11th ISIC Annal Meeting	芦田 和博		11th ISIC Annal Meeting 2019.11.28
第255回日本循環器学会関東甲信越地方会	福田 正		第255回日本循環器学会関東甲信越地方会 2020.2.22

<b>呼吸器内科</b>		
Pembrolizumabが著効した癌性心膜炎の1例	小西 建治	第59回日本呼吸器学会学術講演会 2019.4.14 東京
<b>外科・消化器外科</b>		
大腸Scirrhus tubular adenocarcinomaの一例	横山 元昭 永井 啓之 末松 直美 山下 和志 齋藤 徹 野澤 聡志 郷地 英二	第74回日本消化器外科学会総会 2019.7 東京
腸管気腫症の3例	藤井 康矢 永井 啓之 横山 元昭 齋藤 徹 野澤 聡志 郷地 英二	第1404回千葉医学会例会 2019.11 千葉市
<b>呼吸器外科</b>		
後縦隔に発生したMuller管嚢胞の1例	竹内 健(演者) 早川 信崇 大内 基史	第36回日本呼吸器外科学会学術集会 2019.5.16-17 大阪国際会議場
気管支充填術を併用した有癭性膿胸の1例	呼吸器外科 竹内 健(演者) 大内 基史 呼吸器内科 小西 建治	第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 2019.7.4-5東京ドームホテル
肺癌術後多発脳転移に対してオシメルチニブが奏功した高齢者腺癌の1例	呼吸器外科 竹内 健(演者) 呼吸器内科 小西 建治	第60回日本肺癌学会学術集会 2019.12.6 ～8 大阪国際会議場
<b>耳鼻咽喉科</b>		
20年以上経過観察した弛緩部型真珠腫の術後形態の検討	松井 和夫 呉 晃一 鳥居 直子 石田 航太郎 林 泰広	第120回日本耳鼻咽喉科学会 2019/05/8-11
Postoperative tympanic morphology of pars flaccida cholesteatomas observed for more than 20 years	松井 和夫 呉 晃一 鳥居 直子 石田 航太郎 林 泰広	第32回 Politzer Society Meeting 2019.5.28-6.1 politzer 学会 ポーランド ワルシャワ
当科における伝染性単核球症の臨床的検討	鳥居 直子	第32回口腔咽頭科学会 2019/09/12-13
耳垢腺腫瘍の2例	石田 航太郎 松井 和夫 鳥居 直子 林 泰広 呉 晃一	第29回日本耳科学会総会 学術講演会 2019.10.10-12 山形
<b>関節外科</b>		
千葉大学整形外科神奈川支部会発足について	竹下 宗徳	第1回千葉大学整形外科神奈川支部会 2019.4.12 神奈川
当院でのFNS手術症例の成績と提言 ～手技の工夫とピットフォール～	竹下 宗徳	FNS会議 2019.6.2 東京
当院での人工関節再置換術	竹下 宗徳	第4回神奈川セメント入門セミナー 2019.6.22 神奈川
非定型大腿骨骨折に類似した横骨折、単斜骨折の ステム骨折Vancouver type B1の検討	中嶋 隆行 竹下 宗徳 ほか	第46回日本股関節学会学術集会 2019.10.25-26 宮崎
<b>麻酔科・ペインクリニック科</b>		
管理職研修における育児休業法の知識と意識の 変化	川名 由貴 木下 真弓 千葉 桃子 佐藤 恵子 大熊 歌奈子 後藤 隆久	日本麻酔科学会第66回学術集会
呼吸器外科手術麻酔のTips and tricks (麻酔科領域講習 座長)	川越 いづみ 木下 真弓	関東甲信越 東京支部第59回
緊急の循環虚脱に対処する(OPCAB TAVI 非心臓 手術)(麻酔科領域講習 座長)	小出 康弘 木下 真弓	神奈川麻酔科医会 第51回学術集会
当院におけるハッピーマンデー手術室稼働の成果と 課題	小草 智之 川名 由貴 大熊 歌奈子 日暮 亜矢 佐藤 恵子 佐藤 理恵 千葉 桃子 木下 真弓	神奈川麻酔科医会 第51回学術集会
炎症性肺疾患術後痛の検討	千葉 桃子 川名 由貴 佐藤 恵子 木下 真弓	日本ペインクリニック学会 第53回大会
患者wellnessのための周術期感染防御 (麻酔科医会講演会座長)	加藤 果林 木下 真弓	日本臨床麻酔学会第39回大会
<b>看護部</b>		
新人看護師の技術サポート体制を導入して	近藤 絢子 田淵 かおり	2018年度日本看護協会 看護管理学術集会
新棟建築の設計や運営に関して管理者が持つ視点	田淵 かおり 兼子 友里	2018年度せいい看護学会

シンポジウム 高齢透析患者の適正管理	内田 明子	第46回日本血液浄化技術学会 2020.4.20 東京
腎臓病療養指導士への期待	内田 明子(司会) 要 伸也	第62回日本腎臓学会学術総会 2019.6.22 名古屋
透析医療における終末期医療 看護師の立場から	内田 明子	第64回日本透析医学会学術集会 2019.6.29 横浜
在宅透析患者の看護と認定看護師の役割	内田 明子	第64回日本透析医学会学術集会 2019.6.28 横浜
地域包括ケア時代の看護の在り方	内田 明子(特別講演座長)	第64回日本透析医学会学術集会 2019.6.29 横浜
高齢者CKDにおけるキュアとケア	内田 明子(司会) 岡田 一義	第17回日本高齢者腎不全研究会 2019.7.28 徳島
様々な立場における患者サポート	内田 明子(司会) 宮下 美子	第25回日本腹膜透析医学会学術集会 2019.11.24 広島
透析患者のEOL	内田 明子	第50回徳島透析療法研究会 2019.11.17 徳島
オピオイド依存症の高齢がんサバイバーが鎮痛薬を漸減できた1事例 ～心理社会的支援の重要性～	根岸 恵	第24回日本緩和医療学会 2019.6.21-22 横浜
末期腎不全患者の透析見合わせの意思決定支援と緩和ケア	長野 加奈子 根岸 恵 渡邊 和美 佐々木 けい子 石賀 浩平 平出 聡 木下 真弓	第24回日本緩和医療学会 2019.6.21-22 横浜
「横浜みんなの緩和ケア勉強会」活動報告(第一報)	小尾 芳郎 (横浜市立みなと赤十字病院) 鈴木 友宜 高橋 みなみ 早川 直子 加納 由美子 増田 都志彦 木下 真弓 根岸 恵 齋藤 真理	第24回日本緩和医療学会 2019.6.21-22 横浜
「連絡ノート」活用への取り組み 地域医療介護連携と意思決定支援	三原 元子 (横浜市保土ヶ谷区医師会 保土ヶ谷区在宅医療相談室) 秋庭 由樹 石渡 未来 太田 みどり 陸 くみ 根岸 恵 濱地 優作 判治 法男 深井 幸司 清水 哲平	第1回日本在宅医療連合学会 2019.7.14-15 東京
当院における救急救命士の新たなる取り組み	河野 友和 福田 安津子	第69回日本病院学会 2019.8.1-2 札幌
急性期病院におけるアドバンス・ケア・プランニング普及の取り組み	根岸 恵	第3回日本エンドオブライフケア学会 2019.9.14-15 名古屋
看護部に所属する病院救急救命士への教育を通して見えたその役割と今後の課題	福田 安津子 高井 千晶	第21回日本救急看護学会 2019.10.4-5 千葉
A病棟における褥瘡発生率低下のための対策検討	高橋 美生 小林 明日香	第51回日本看護学会 2019.11.13-14 鹿児島
在宅療養を望む患者の希望に添うための瘻孔ケアを考えた症例	渡邊 純子 若松 華 井口 美奈枝	第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会 2020.2.7-8 静岡
京急脱線事故での患者受け入れから今後の課題を考える	坂田洋樹 福田 安津子	第25回日本災害医学会 2020.2.20-22 神戸
がん化学療法IVナース制度導入後の患者に対する効果	鶴田 華林	第34回日本がん看護学会 2020.2.22-23 東京
がん看護専門看護師が実践している倫理調整における状況判断と行動	岩崎 多津代(国立病院機構 東京医療センター) 田中 結美 吉田 智美 笠谷 美保 二宮 由紀恵 高山 良子 田代 真理 徳岡 良恵 中 滉子 根岸 恵 細田 志衣 吉田 こずえ 渡壁 晃子 吉田 みつ子	第34回日本がん看護学会 2020.2.22-23 東京

<b>外来</b>			
高齢関節リウマチ患者に対する多職種連携によるアバセプト療法の安全性に関する検討	柏谷 里美 小川 実花 田代 行香 花岡 洋成	川原 早苗 小島 幸子 伊東 宏 山田 秀裕	第63回 日本リウマチ学会学術集会
当院における救急救命士の新たなる取り組み	河野 友和 福田 安津子	藤島 璃々子	第69回日本病院学会
京急脱線事故での患者受け入れから今後の課題を考える	坂田 洋樹 藤島 璃々子 福田 安津子	内垣 良太 春日 宏紀 武蔵 郁子	第25回日本災害医学会
<b>画像診断・内視鏡センター看護室</b>			
カテーテルアブレーション中の鎮静・麻酔方法と管理について	三枝 あや子 河原 真諤	刈屋 千春	第10回豊橋ライブデモンストレーション
<b>東2病棟</b>			
自宅退院を目指すがん患者の家族の不安の軽減について	白川 ことは 小林 明日香	利根川 綾	第69回病院学会 2019.8.1-2 札幌コンベンションセンター
終末期患者に対する医療行為の認識を理解し、今後の看護に生かすために私ができること	間瀬 三香子 田瀬 かおり	渡邊 明奈	第69回病院学会 2019.8.1-2 札幌コンベンションセンター
A病棟における褥瘡発生率低下のための対策検討～アンケート結果からみえてきたこと～	高橋 美生	小林 明日香	第50回日本看護学会 慢性期看護学術集会 2019.11.14-15 鹿児島市民文化ホール
<b>脳卒中ケアユニット</b>			
SCUにおける機能回復に向けた早期看護介入～NIHSSスコアを使用した退院時転帰予測と退院支援～	中川 ちひろ 大塚 優希	吉田 汐里 廣江 圭史	日本脳神経外科看護研究学会
<b>検査課</b>			
生理機能検査における検査前説明の検討	若田部 菜々帆		聖隷福祉事業団臨床検査部門合同学術発表会 2019.10 浜松
<b>リハビリテーション課</b>			
手指屈筋腱損傷修復後の「癒着時の対応」について	奥村 修也		第31回日本ハンドセラピー学会学術集会 2019.4 北海道
当院の消化器がん患者の周術期における術前身体機能の特徴と転帰について	木塚 聖太 背戸 佑介 小峰 芳乃 飯田 梨紗	野崎 晋平 門馬 加奈子 小峰 侑真 竹内 沙知	日本がんサポーターティブケア学会 2019.9.6 青森
心不全患者における初期評価時のSPPBと転帰の関係	小峰 侑真 木村 航汰 藤森 泰徳	小峰 芳乃 松井 美樹 花嶋 啓乃	第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 2019.7 大阪
手根管症候群のSemmes-Weinstein monofilament testによる感覚重症度判断に関する一考察	奥村 修也 山中 佑香	野島 美希 山田 由記	第53回日本作業療法学会 2019.9 福岡
SCUにおける機能回復に向けた早期看護介入～NIHSSスコアを使用した退院時転帰予測と退院支援～	中川 ちひろ 大塚 優希	吉田 汐里 廣江 圭史	第46回日本脳神経看護研究学会 2019.10 大阪
急性期脳梗塞患者の症状進行に対する入院時栄養状態の影響について	廣江 圭史 竹内 沙知 鈴木 寛明	木塚 聖太 小林 菜実 佐々木 亮	第3回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 2019.11 静岡
地域包括ケア病棟におけるADLカンファレンスの取り組み	野崎 晋平 前沢 里奈 背戸 佑介	藤森 泰徳 斎藤 友希 前田 広士	リハビリテーション・ケア合同研究大会 金沢2019 2019.11 石川
当院の地域包括支援ケア病棟から自宅退院した患者の身体機能について	藤森 泰徳 背戸 佑介 斎藤 友希	野崎 晋平 前沢 里奈 前田 広士	リハビリテーション・ケア合同研究大会 金沢2019 2019.11 石川
当院の地域包括ケア病棟に「ADLカンファレンス」を導入した効果について	前沢 里奈 野崎 晋平 前田 広士	藤森 泰徳 神野 はるか	リハビリテーション・ケア合同研究大会 金沢2019 2019.11 石川
当院の地域包括支援ケア病棟から自宅退院した患者の身体機能について	藤森 泰徳 背戸 佑介 斎藤 友希	野崎 晋平 前沢 里奈 前田 広士	第2回聖隷リハビリテーション学会 2020.3
当院の地域包括ケア病棟に「ADLカンファレンス」を導入した効果について	前沢 里奈 野崎 晋平 前田 広士	藤森 泰徳 神野 はるか	第2回聖隷リハビリテーション学会 2020.3
脳卒中片麻痺患者を評価する上での患側下肢の主訴の重要性を感じた症例	木下 峻太郎 廣江 圭史	木塚 聖太	第2回聖隷リハビリテーション学会 2020.3
小指PIP関節の複合組織欠損に対してFowler法を用いて再建を行った一症例の治験経験	井上 由貴 奥村 修也	吉澤 直樹	第16回東京都作業療法学会 2019.7

臨床工学室		
エコー下穿刺可能スタッフ育成に向けた当院の取り組み	境野 可奈子 渡邊 和美 高遠 智美	第64回日本透析医学会学術集会・総会
当院における小血管新規病変に対するDCBの検討	和田 知沙都 物江 浩樹 境野 可奈子 杉村 淳 山内 寛二 石川 大貴 九島 裕樹 白倉 佑樹 花岡 典代 工藤 直樹 山森 啓 芦田 和博 新村 剛透 吉野 利尋 中島 啓介 真壁 英二 河合 慧 山田 亘 福田 正 宮崎 良央	CCT2019
内視鏡件数増加に伴うCE教育方針の検討	白倉 佑樹 工藤 直樹 花岡 典代 和田 知沙都 中原 玲菜 石川 大貴 杉村 淳 境野 可奈子 物江 浩樹	第39回神奈川県消化器内視鏡技師研究会
脳血管内手術における臨床工学技士の業務介入から3年経って	五弓 七緒 本田 清夏 山内 寛二 儀間 大介 森田 斗南 季高 健太 物江 浩樹 青井 瑞穂 佐藤 純子 大高 稔晴 佐々木 亮 鈴木 祥生	第35回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会
脳血管内治療業務に携わる臨床工学技士(CE)のチームビルディング～専門キャリアラダーを含む教育体制について～	森田 斗南 本田 清夏 山内 寛二 五弓 七緒 儀間 大介 季高 健太 物江 浩樹 青井 瑞穂 佐藤 純子 大高 稔晴 佐々木 亮 鈴木 祥生	第35回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会

## 学 術 業 績 その他 (院外活動など)

リウマチ・膠原病センター		
病態治療論V (免疫)	伊東 宏	聖灯看護専門学校 講義 (2019.4.17 2019.4.24)
脳血管センター		
外科治療が可能な認知症 ー認知機能障害をきたす硬膜動静脈瘻の病態ー	鈴木 祥生	第72回横浜市内科学会 神経研究会
画像診断センター		
循環器画像技術研究会	石毛 良一 (司会進行)	循環器画像技術研究会 第357回定例会 2019.7
Brilliance Kanto Alliance	児山 貴之 (座長)	第3回Brilliance Kanto Alliance 2019.10
循環器画像技術研究会 脳血管模型作成セミナー	石毛 良一 (講師)	循環器画像技術研究会 2019.10
心臓血管センター内科		
病態治療論2 循環器疾患	芦田 和博	横浜市医師会聖灯看護専門学校(非常勤講師) 2019.10-11
定期講義 (PCI治療)	芦田 和博	鄭州大学第二附属医院 (客員教授) 2019.11.7
外科・消化器外科		
横浜市医師会聖灯看護専門学校非常勤講師	郷地 英二	
小児科		
横浜市内における感染症サーベイランス解析	北村 勝彦	横浜市感染症動向委員会
①公衆衛生学総論 ②食品保健 ③学校保健	北村 勝彦	横浜市立大学医学部医学科 地域保健学 講義
看護部		
(2017～) 2019年度 日本看護協会 論文査読	田淵 かおり	日本看護協会
2018、2019年度教育担当者研修	田淵 かおり	神奈川県看護協会
看護管理	内田 明子 (講師)	横浜市医師会聖灯看護専門学校 2019.4-5 横浜

透析看護概論	内田 明子 (講師)	東京女子医科大学認定看護師教育センター 2019.10 東京
療法選択	内田 明子 (講師)	日本腎不全看護学会 2019.4.14 東京
看護経営者論	内田 明子 (講師)	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター サードレベル 2019.8.17 横浜
看護管理Ⅲ 看護師長に求められる看護管理	内田 明子 (講師)	神奈川県看護協会教育研修会 2019.9.20 横浜
看護師が求める臨床工学技士とのかかわり	内田 明子 (講師)	神奈川工科大学 2019.4.26 神奈川
透析看護	内田 明子 (講師)	2019年度透析技術認定士認定更新のための 講習会 2019.6.7 東京
成人看護学Ⅴ	鶴田 華林 (講師)	聖灯看護専門学校 2019.6.6・13・20・27
成人看護学Ⅴ	前川 直子 (講師)	聖灯看護専門学校 2019.9.3・24
成人看護学Ⅴ	根岸 恵 (講師)	聖灯看護専門学校 2019.9.10・17
感染管理学 感染管理認定看護師の役割	山下 綾子 (講師)	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 感染管理認定看護師教育課程 2019.9.13
臨地実習	山下 綾子	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 感染管理認定看護師教育課程 2019.9.17-10.21
高度看護実践実習	根岸 恵	東邦大学 大学院がん看護学研究科 2019.9.30-10.16
倦怠感・嘔気のケア	根岸 恵 (講師)	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター がん患者支援講座 2019.10.5
成人看護学Ⅰ フィジカルアセスメント	坂田 稔 (講師)	聖灯看護専門学校 2019.10.31・11.1
<b>リハビリテーション課</b>		
摂食・嚥下障害の治療ー摂食嚥下リハの考え方ー	前田 広士	聖隷関東リハ研究会 (SKR) 合同セミナー 2019.7 聖隷横浜病院
セミナー講師 (実技・演習指導)	奥村 修也 大森 みかよ 阿部薫	日本ハンドセラピー学会主催 Splintアドバ ンスセミナー 2019.8 神奈川
地域症例リレー	木塚 聖太 門馬 加奈子 前田 広士	第23回横浜脳卒中・リハ連携研究会 (Y-CIRCLE) 2019.7 神奈川
認知症予防の脳体操	前田 広士	横浜脳卒中・リハ連携研究会市民公開講座 2019.10 聖隷横浜病院
脳卒中予防の運動	廣江 圭史	市民公開講座 「脳卒中最前線」2019 2019.10 神奈川
認知症予防のための脳の体操	前田 広士	市民公開講座 「脳卒中最前線」2019 2019.10 神奈川
～専門家から学ぶ～健康寿命を支える確かな知識	野崎 晋平	社会福祉法人横浜市社会福祉協議会 老人福祉センター横浜市野毛山荘主催 2019.10 神奈川
セミナー講師 (関節可動域検査)	奥村 修也	日本ハンドセラピー学会主催 手の評価セミナー 2019.11 神奈川
スプリントセミナー 手指伸展用アウトリガースプリント	奥村 修也	中伊豆ハンドセラピー勉強会 2020.1 静岡
スプリントセミナー (実技指導)	奥村 修也	岡谷市民病院 リハビリテーション勉強会 2020.2 長野
がんのリハビリテーションについて	木塚 聖太 飯田 梨紗	第5回横浜・川崎がん病病連携会 市民公開 講座開催 2020.2 神奈川
～専門家から学ぶ～健康寿命を支える確かな知識	木村 航汰	社会福祉法人横浜市社会福祉協議会 老人福祉センター横浜市野毛山荘主催 2020.2 神奈川

# 学 術 業 績 著 書 論 文

リウマチ・膠原病センター			
Adult-onset Still's disease-associated interstitial lung disease represents severe phenotype of the disease with higher rate of haemophagocytic syndrome and relapse	Y. Takakuwa T. Kiyokawa K. Ishimori, H. Yamada	H. Hanaoka H. Iida T. Uekusa K. Kawahata	Clin Exp Rheumatol 2019; 37 (Suppl. 121) : S23-S27.
A low perfusion-metabolic mismatch in 99mTl and 123I-BMIPP scintigraphy predicts poor prognosis in systemic sclerosis patients with asymptomatic cardiac involvement	I Iida H Okada Y Takakuwa Y Okazaki T Yamaguchi K Kawahata K.	Hanaoka H Kiyokawa T Yamada H Ozaki S Nakajima Y	Int J Rheum Dis. 2019;22 : 1008-1015.
Low-dose rituximab as induction therapy for ANCA-associated vasculitis.	Takakuwa Y Kiyokawa T Fujimoto H Yamada H	Hanaoka H Iida H Yamasaki Y Kawahata K.	Clin Rheumatol. 2019, 38(4) : 1217-1223.
Association of MUC5B promoter polymorphism with interstitial lung disease in myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis.	Namba N Sada K et al.	Kawasaki A Yamada H	Ann Rheum Dis 2019. Epub ahead of print : doi : 10.1136/annrheumdis-2018-214263
Association of NCF1 polymorphism with systemic lupus erythematosus and systemic sclerosis, but not with ANCA-associated vasculitis in a Japanese population.	Yokoyama N et al.	Tsuchiya N	Sci Rep. accepted on Oct 24, 2019 (in press)
JCS 2017 Guideline on Management of Vasculitis Syndrome - Digest Version -.	Isobe M Arimura Y	Amano K et al.	Circ J. 2020 Jan 18. doi : 10.1253/circj. CJ-19-0773.
ANCA関連血管炎	山田 秀裕		間質性肺疾患診療マニュアル改訂第3版 p.371-4 南江堂
心臓血管センター内科			
PCI医必携 ガイドワイヤー秘伝テクニック	芦田 和博		PCI医必携 ガイドワイヤー秘伝テクニック 南江堂 P223-226
外科・消化器外科			
腹腔鏡下に切除し得た90mm大の出血性小腸GISTの1例	齋藤 徹 永井 啓之 藤井 康矢	野澤 聡志 横山 元昭 郷地 英二	千葉医学雑誌 96巻1号 Page1-7 (2020.02)
回腸瘻造設と腸管洗浄で救命した横行結腸癌および胃癌術後劇症型Clostridium difficile腸炎の1例	横山 元昭 松本 玲 野澤 聡志	永井 啓之 齋藤 徹 郷地 英二	日本消化器外科学会雑誌 53巻3号 p.230-238 (2020)
乳腺科			
A dose-finding randomized Phase II study of oral netupitant in combination with palonosetron .75 mg intravenous for the prevention of chemotherapy-induced nausea and vomiting in Japanese patients receiving highly emetogenic chemotherapy.	Osaki A Sakai H Minato K Tokuda Y Kagamu H Tamura T	Inoue K Yamada K Ohyangagi F Ikeda N Kubota K Saeki T.	Jpn J Clin Oncol. 2019 Feb;49(2) : 121-129.
A multi-national, randomised, open-label, parallel, phase III non-inferiority study comparing NK105 and paclitaxel in metastatic or recurrent breast cancer patients.	Fujiwara Y Saeki T Lin YC Lee KS Ohtani S Kuroi K Tokuda Y Park YH Nambu Y.	Mukai H Ro J Nagai SE Watanabe J Kim SB Tsgawa K Iwata H Yang Y	Br J Cancer. 2019 Mar;120(5) : 475-480.
Role of Postmastectomy Radiotherapy After Neoadjuvant Chemotherapy in Breast Cancer Patients: A Study from the Japanese Breast Cancer Registry.	Miyashita M Kumamaru H Iwamoto T Anan K Aogi K Masuoka H Masuda S Kinoshita T Nakamura S	Niikura N Miyata H Kawai M Hayashi N Ishida T Iijima K Tsgawa K Tsuda H Tokuda Y.	Ann Surg Oncol. 2019 Aug;26(8) : 2475-2485.

Anthracycline could be essential for triple-negative breast cancer: A randomised phase II study by the Kanagawa Breast Oncology Group (KBOG) 1101.	Narui K Shimizu D Tanabe M Oba MS Nawata S Mogaki M Tsugawa K Ota T Sengoku N Niikura N Suzuki Y Arioka H Ichikawa Y Tokuda Y.	Ishikawa T Yamada A Sasaki T Morita S Kida K Doi T Ogata H Kosaka Y Kuranami M Saito Y Suto A Chishima T Endo I	Breast. 2019 Oct; 47 : 1-9.
Humanized Mice as an Effective Evaluation System for Peptide Vaccines and Immune Checkpoint Inhibitors.	Kametani Y Ohshima S Yasuda A Ito R	Ohno Y Tsuda B Seki T Tokuda Y.	Int J Mol Sci. 2019 Dec 16;20(24). doi : 10.3390/ijms20246337.
ASO Author Reflections: Impact of Radiotherapy for Breast Cancer is Changing in the Modern Era.	Miyashita M Tokuda Y.	Niikura N	Ann Surg Oncol. 2019 Dec;26(Suppl 3) : 780-781. doi : 10.1245/s10434-019-07941-4.
<b>麻酔科・ペインクリニック科</b>			
炎症性肺疾患術後痛の検討	千葉 桃子 佐藤 恵子	川名 由貴 木下 真弓	ペインクリニック2019.12 Vol.40 No.12 p1607-1611
<b>小児科</b>			
疾病予防と健康管理、感染症の予防	鈴木 庄亮 (編集) 北村 勝彦 他		シンプル衛生公衆衛生学2019 南江堂
<b>看護部</b>			
治療選択とShared Decision Makingの課題	内田 明子		臨床透析 Vol.36 No.3
末期腎不全患者の人権尊重と療法選択	内田 明子		日本透析医会雑誌 Vol.34 No.3
施設独自の「がん化学療法IVナース制度」を導入して	鶴田 華林		YORi-SOUがんナーシング Vol.9 No.5 (2019年9-10月号) p572-573
オピオイド依存症の高齢がんサバイバーが鎮痛薬を漸減できた一事例 ～心理社会的支援の重要性～	根岸 恵		がん看護 Vol.25 No.3 (2020年3-4月号) p281-284
<b>リハビリテーション課</b>			
手指屈筋腱損傷修復後の「癒着時の対応」について	奥村 修也		日本ハンドセラピー学会誌 12(1)Page19-24 2019.11

## 第17回 聖隷横浜病院 病院学会

開催日：2019年11月16日（土） 場 所：聖隷横浜病院 A棟4階大会議室

第1群（座長：画像診断センター 課長 釜谷 秀美）

1	生理機能検査における検査前説明の改善	検査課	一原 綾花
2	身体抑制を行わずに点滴自己抜去を予防する	西2病棟	野口 千澄勢
3	ニュートリーコンク2.5を活用した嚥下食Ⅲにおける提供容量の減量と栄養価強化への取り組み	栄養課	町田 咲子
4	KYTカンファレンス革命	西3病棟	伊東 路子
5	西1・SCU病棟での費用削減の取り組み ～薬袋なしでも大丈夫？～	薬剤部	吉田 茜

第2群（座長：西2病棟 課長 田口 和美）

6	透析患者のACP支援を推進するために	血液浄化センター	渡邊 和美
7	調理師によるミールラウンドの取り組み	栄養課	中島 幸雄
8	動画による術前オリエンテーションの効果と今後の取り組み	東3病棟	池田 瑞姫
9	デバイス（物品）出しシミュレーションの時間短縮効果についての検討	画像診断センター	竹原 英明
10	記憶が欠落した患者へのアプローチ ーICUダイアリーを使用してー	急性期ケアユニット	里見 敦司

第3群（座長：診療部 小児科 主任医長 北村 勝彦）

15	抗菌薬適正使用支援チーム（AST）設立後の特殊抗菌薬使用日数と適正使用率の変化について	抗菌薬適正使用支援チーム	木村 浩一
16	感染性廃棄物における排出量削減の取り組み	施設資材管理課	深川 成昭
17	整形外科手術器械 長期借用による経済効果と業務改善	手術室・中央材料室	中村 聡介
18	蛋白漏出性胃腸症に対してベリムマブが有効であった全身性エリテマトーデスの1例	臨床研修室	宇佐美 滉太
19	みんなで納得！業務改善！	横浜エデンの園	川口 正志